

「国語」ペーパーテスト結果と考察

1 出題のねらいと内容

本調査は、生徒の国語の学力状況を調査・分析することにより、本県の今後の各学校における学習指導の改善を図ることを目的としている。

国語科の領域は「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」及び〔言語事項〕の3領域・1事項から構成されているが、本調査では、そのうちの「C読むこと」及び〔言語事項〕について、一部中学校の内容も含め高校1年生前半までの学習内容を、選択問題形式により問うものとなっている。

2 設問ごとのねらい，結果の分析と考察

□ 漢字・語句・文法

問1は「漢字」の読み書きに関する問題で、(1)～(3)は当てはまる漢字を選び、(4)、(5)は読みを選ぶものである。問2は「慣用句」の正しい使い方、問3は「敬語」の正しい用法に関する問題である。問4は副詞の呼応、問5は「文節」、問6は「主述」の関係に関する問題で、文の基本的構造を理解しているかをみるものである。

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入済 無答率	選択肢ごとの誤答率(%)			
□ 問1	(1)	ア	65.5	33.2	1.3		18.6	13.6	0.9
	(2)	イ	86.9	12.2	0.9	4.5	4.9	2.9	
	(3)	ウ	59.4	39.5	1.2	21.5		7.1	10.9
	(4)	エ	60.9	38.0	1.0	11.7		25.1	1.3
	(5)	オ	47.3	51.9	0.8		25.4	5.7	20.8
問2	カ		88.9	10.1	1.0	2.2	5.6		2.3
問3	キ		69.7	29.6	0.7	4.1		6.0	19.5
問4	ク		58.3	40.8	0.8	19.0	10.1	11.7	
問5	ケ		48.2	51.1	0.7	14.1		26.1	11.0
問6	コ		75.8	23.7	0.5	7.8	6.7		9.2

【考察】

問1(1)「問題の解決を八力(図)る」について、同じ読みだが意味の異なる漢字「計」「測」「量」を選んだ者が合わせて33.2%であった。(3)「草食動物にとってキョウ(脅)威の存在」については、その意味を文脈から「草食動物にとって恐ろしい存在」ととらえ「恐」を選んだ者が誤答の中では多い。(4)「小鳥を慈(いつく)しむ」の誤答では「いそ(しむ)」が多く、読み以前にその言葉自体を理解していないと思われる。(5)「疾病(しっぺい)」は日常耳にする機会の少ない言葉である上に「病」を「へい」と読む稀な例であり、正答率は50%を切って「しつびょう」「えきびょう」という誤答が多かった。漢字に関する問題の結果からは、文脈から意味を考え漢字を読み書きする力だけでなく、使用頻度の低い言葉や使用範囲の限られた専門的な言葉について、語彙力そのものにも課題があることが窺われる。

問2「耳障り」は、「手触り」との混同によって、本来誤用である「耳触りが良い(悪い)」という言い回しが一般化しつつある。「障」という漢字表記の助けもあろうが、今回の正答率は88.9%で、正しい使い方についておおよそ認識がなされていると解釈される。問3敬語表現については、謙讓語を誤用した・の解答は合わせて10.1%であり、尊敬語と謙讓語の使い分けはある程度できていると考えられる。ただし、過剰な敬語表現を選んだ者が19.5%おり、この点についてはなお課題が残る。問4呼応の副詞に関する問題の正答率は58.3%で、期待した正答率をやや下回った。問5文節に区切る問題の正答率48.2%は、昨年度の同類問題の正答率を大幅に下回るが、「いらいらしてしまった」という部分が紛らわしく、難易度が高かったことが要因と推測される。問6主述の関係の把握に関する問題の正答率は昨年度とほぼ同様である。「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の学習活動を支える基礎的な言語能力として、語句や語彙、文や文章の組立や構成などの指導にも留意したい。

## ㊦ 現代文 評論

問1, 問2, 問3は文脈を踏まえて内容を正しく理解しているか、問4は本文全体の内容を正しくとらえているかをみる問題。

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミス 無答率	選択肢ごとの誤答率(%)				
㊦	問1	サ		78.6	20.8	0.6	13.4		6.1	1.3
	問2	シ		65.0	34.1	0.9	8.9	5.7	19.4	
	問3	ス		58.2	40.7	1.1		22.7	9.0	9.0
	問4	セ		48.0	50.9	1.0	7.7	30.9	12.4	

### 【考察】

論理的な文章の読解においては、キーワードを押さえ、各段落の役割・働きを踏まえながら論理の流れをつかみ、最終的に筆者がどのようなことを主張しようとしているのかを理解することが必要であるが、昨年度同様、文章の、部分部分を狭い範囲で読み取ることは概ねできているものの、全体の展開や内容を把握する力には課題がみられた。

問1は、本文の前半部分の内容をきちんと読み取れば解答が導き出せる問題であり、正答率も高かった。誤答が多かったは、傍線部の直後だけを見て解答したものと思われる。問2は、文章全体の流れの中で傍線部の意味を理解する力及び抽象的な事柄を具体化する力を問う問題である。正答率7割以上を期待したが、若干それを下回った。誤答ではが多かったが、「意のままにならぬ」という言葉だけにとらわれたことによるものと思われる。問3は、本文の主題にも関わる設問であり、論理展開を踏まえて「ワープ」の意味を考える必要があった。誤答ではが多かったが、「ワープ」を本文中の「時間差がなくて」という表現と短絡的に結びつけてしまったことによるものであろう。問4は本文全体の内容を問うものであるが、正答率は5割弱と低かった。誤答を選んだ者は、本文の前半部分にだけとらわれ、その後の段落で、ラップごしに物に触れることのメリットが述べられていることに気づかなかったものと思われる。同じ対象・事柄を視点を変えて論じるという論理的文章の構成法を理解させておきたい。

㉓ 現代文 小説

問1, 問2は登場人物の心理の理解, 問3は文脈の理解を問う問題。問4は文学的表現の効果を正しく読み取っているかをみる問題。

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミ 無答率	選択肢ごとの誤答率			
㉓	問1	ソ	39.6	59.2	1.2	12.6	30.8		15.7
	問2	タ	40.4	58.6	1.1	9.9	32.3	16.4	
	問3	チ	39.6	58.9	1.4	11.8	14.3	32.8	
	問4	ツ	18.4	80.1	1.6		31.0	29.5	19.6

【考察】

全般に正答率が低く, 50%を超えた問題はなかった。セン, マリと洸, それぞれの成長に伴う変化という物語の大きな枠組みを把握できた者は少なく, 全体構造を意識しながら細部を読む能力が十分身に付いていない。また, 各問の選択肢が長かったこともあり, 紛らわしいものについての読み込みの不足が感じられた。

問1で多かった誤答は であり, 選択肢の「一族の強い絆」, 「頼もしく」という表現は「包まれている」という本文の表現に対して過剰な読みであることを判断できなかったことによるものである。また, 本文中の傍線部Bに続く部分にある「確執」という言葉を姉弟の不仲と解釈し, 問2では「反抗的」, 問3では「家族関係の崩壊」と短絡的に理解してしまった誤答が多かったようだ。マリの変化, 洸の変化を示す表現を文章中から見落とさずに読み取りたい。問4は, 適切でないものを選ぶという設問の指示そのものを読み誤った者も多かったと考えられるが, ㉑から㉔の全体を通して最も低い正答率となった。この物語に「自然の無情さ」は登場せず, ましてそれと「姉妹の絆が強まる」ということとはつながらない。情景描写によって心情を象徴的に表現するのは小説ならではの技法であり, その読みは重要である。個々の表現だけを読むのではなく, 物語全体の中で象徴表現の意味をとらえていく力が必要となる。

㉔ 古文

問1は動詞の活用, 問2は基本的な助動詞の意味, 問3は品詞の識別と, 古文の基礎的な知識を問う問題。問4は登場人物の心情を, 問5は基本的な語句の意味を, それぞれ文脈に即して正しく把握しているかをみる問題。問6は本文全体の内容を正しく把握しているかをみる問題。

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミ 無答率	選択肢ごとの誤答率 (%)			
㉔	問1	テ	35.0	63.1	1.9	15.7	25.7	21.8	
	問2	ト	32.1	66.0	1.9		11.4	28.1	26.5
	問3	ナ	38.8	59.5	1.8	11.5		24.2	23.7
	問4	ニ	31.0	67.1	1.9	17.2	40.1		9.7
	問5	又	64.3	33.8	1.9	9.0	12.4		12.3
	問6	ネ	24.1	73.9	2.0	38.2		20.6	15.2

【考察】

古典を理解するための基礎的・基本的な知識・技能が十分身に付いていない。そのため, 文章全体の内容も十分読み取れていない。

問1は, ヤ行とワ行の区別, または下一段活用と下二段活用の識別ができなかったため, 誤

答を選んだ者が多かったと思われる。問2「ぬ」の識別は、助動詞の理解も絡みやや難易度の高い問いである。学習進度の違いにより学校間の正答率の差が大きくなると予測したが、差は予測より小さく、正答率は全般に低い。問3も問1・問2同様30%台の正答率にとどまり、品詞の理解が十分できていない。古典を読むための基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることが必要だが、そのためにも、古典への興味・関心や学習意欲を引き出すような、指導内容の精選、教材や指導方法の工夫が求められる。問4は傍線部直前にある理由を説明した部分「あまりにとく鳴きたりければ」が正しく解釈できれば正答に結びつくはずだが、誤答の解答率が最も高いという結果になった。「とく」を現代語の「ひどく」と取り違えたと考えられる。また、  
・ を選んだ者は、本文中の「すくなく鳴く」、「ほそ声をいだして」などの表現と結びつけて考えたものと推測される。基礎的な古語や文法が十分身に付いていないために文の構造や文脈を正確に把握できず、部分的な表現から誤答を導き出してしまう傾向が顕著にみられた。問5の正答率64.3%は古文の設問中最も高い。授業等で「こはいかに」という慣用表現を学習する機会があったためと思われる。問6は文章前半部の内容の理解が鍵であるが、問4同様文章全体のとらえ方が曖昧であるため、選択肢の表現に惑わされたり文章中にない解答を選んだりした者が多かったと思われる。

### 3 分析のまとめと指導上の改善

< 分析のまとめと課題 >

(1) 全体的な傾向  
平均正答率は昨年度を3.2ポイント下回り53.1%であるが、全体的な力は昨年度と同程度と考えられる。  
平均正答率が昨年度を下回った主な要因は、小説の正答率の低下にある。ただし、これは小説各問の選択肢が昨年度よりも長く紛らわしくなったことなど、問題がやや難化したことによるものである。その他の問題では解答の傾向に昨年度との大きな違いはみられない。

(2) 言語事項について  
平易な漢字の読み書きや慣用表現の正しい使い方については、概ね理解できている。  
使用頻度の低い言葉や使用範囲の限られた専門的な言葉の知識が、十分身に付いていない。  
漢字は、音読みに比べて訓読みの力、



< 指導改善のポイント >

基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせるために、話す・聞く・書く・読む活動と結び付けた指導、実生活を意識した指導を工夫する。  
漢字については、生徒が躓きやすいものを重点的に指導する。その際、単純な反復練習にならないよう、読む・書く活動と連動させながら、その漢字を用いた語例や文例を複数あげる、辞書を用いて字義を確認し訓と関連付けるなどする。  
語彙・語句については、辞書を引くことが習慣となるよう、積極的に辞書を引いて意味を確認させるとともに、例文を作る、他の表現に置き換えるなど多様に活用させる活動も取り入れる。また、日常での使用頻度は少なくても、文章を読むために重要となる語彙・語句を意図的に取り上げる。  
相手や場面を具体的に想定した話す・書く活動を行い、敬語の使い方などの言葉の運用について考えさせる。  
中学校までに学習してきた文構造などの国語の仕組みや特徴について、再

同音異義語など文脈から言葉の意味を考え適切に漢字に直す力が不足している。

敬語の使い方や，副詞の呼応，主語・述語の関係などの文の基本構造の把握に課題がみられる。

課題 1：話す・聞く・書く・読む体験が限定的で不足しており，表現力，理解力の基盤となる基礎的・基本的な知識・技能が十分身に付いていない。

### ( 3 ) 現代文について

文章を限られた狭い範囲で読み取ることとは概ねできている。

論理的な文章全体の展開をおさえて要旨を捉えたり，文学的文章の大きな枠組みを意識して細部の表現を読み込んだりすることは，十分できていない。

論理的な文章の構成や展開を把握し，抽象的な内容を具体化して考える力が弱い。

情景描写によって心情を象徴的に描く文学的表現の理解が不十分である。

課題 2：文章の全体像をおさえた読み方，文章の特徴に応じた読み方に関する指導の工夫が不足している。

### ( 4 ) 古典について

基礎的な古語や文法など，古典を読むための知識・技能が十分身に付いていない。

古典を読むことに不慣れで，構成や展開に即し内容を的確にとらえる力が不足している。

確認する時間を設ける。

文章の特徴に応じた読み方を身に付けさせるために，読む視点を明確化させるような学習プリントや発問，指導法を工夫する。

論理的文章の段落毎に見出しを付ける，文章全体の構造を整理する，200～400字程度の文章を30字程度に要約する，文学的文章の登場人物や情景，話の展開，表現上の特徴を整理するなど，生徒自身がまとめ読み方を整理できるような学習プリントを工夫する。また，それをもとに，ペアやグループで生徒同士が考えを確認し合う時間を設ける。

書き手の表現意図，文章構成や文章表現の効果などを考えさせるような発問をする。

教材文を他の文章と比較して読ませ，論理の展開や表現の特徴について考えさせる。

古典への興味・関心を高めながら読むための基礎的事項を身に付けさせるよう，教材や学習活動を工夫する。

古典原文だけでなく，古典に関する解説文，小説，随筆，評論なども教材とする。

朗読，音読によって古典の文体やリズム感を味わわせる。

旧暦，国名，十二支，年中行事など，身近なところで生きている古典的な事柄について調べさせる。

古典の言葉や語法を，現代の言葉や語法と比較して調べさせ，理解させる。

古典を現代語訳するだけでなく，物語の登場人物の視点から作品を書き換える，随筆の筆者の視点に倣って随筆を書くなど，教材に応じて発展的に書く活動をさせる。



課題3：古典に親しませ、その現代的な価値に気付かせるような指導の工夫が不足している。



語彙力、言語感覚、読解力、表現力など国語力を総合的に育成するために、さまざまな分野にわたり数多く読書させる。

本の広告カードや帯をつくる、友人に薦める本を紹介するスピーチをする、書評を書くなど、表現活動の題材に読書や本を取り上げ、読書意欲を喚起する。

授業の教材から発展し、同テーマを別の視点から書いた文章や作品を比べて読ませる。

学校図書館と連携し、授業で積極的に図書館を活用する。

国語に対する生徒の学習意欲を一層高め、これからの時代に求められる論理的な思考力や表現力を育成するために、教材や学習活動を工夫する。

読むことの指導に、読み取ったことをもとにした、話し合い、発表、ディベートなど話す・聞く活動や、記録、要約、書き換え、意見文、鑑賞文、感想文など書く活動を取り入れる。

興味のある時事的な話題について、新聞、雑誌などの記事を集め、記事をもとに事実と意見をまとめさせたり、記事同士を比較、分析させたりする。

図表などの資料を分析させ、分析から明らかになった事実を根拠に自分の考えをまとめて書かせる。

身に付けさせたい力を明確にし、「話す」、「聞く」、「書く」、「読む」を有機的に関連付けながら、生徒が主体的に学習を進められるように言語活動を工夫して授業を実施することが求められる。

## 学科群別正答率一覧

問題番号	記号	正答	全体正答率(%)	普通科	職業系 専門学科	その他の 学科
			53.1	56.8	44.1	53.1
第一問	ア	1	65.5	70.4	53.6	65.1
	イ	4	86.9	89.8	80.4	84.4
	ウ	2	59.4	62.5	52.0	58.3
	エ	2	60.9	67.2	46.5	58.2
	オ	1	47.3	50.1	39.5	50.8
	カ	3	88.9	90.6	84.9	88.4
	キ	2	69.7	72.7	61.9	71.7
	ク	4	58.3	61.3	50.5	60.8
	ケ	2	48.2	49.5	44.5	50.5
	コ	3	75.8	82.8	59.5	73.3
第二問	サ	2	78.6	83.6	67.1	76.1
	シ	4	65.0	69.9	52.7	65.9
	ス	1	58.2	63.5	45.0	58.3
	セ	4	48.0	52.1	37.4	50.3
第三問	ソ	3	39.6	43.5	30.0	40.6
	タ	4	40.4	43.6	33.1	38.3
	チ	4	39.6	43.9	29.2	39.9
	ツ	1	18.4	18.3	18.4	18.8
第四問	テ	4	35.0	41.6	19.5	32.9
	ト	1	32.1	35.2	24.7	31.2
	ナ	2	38.8	40.6	34.0	39.6
	ニ	3	31.0	33.7	23.8	33.4
	ヌ	3	64.3	71.2	47.5	64.1
	ネ	2	24.1	24.9	22.0	24.3

## 「数学」ペーパーテスト結果と考察

## 1 出題のねらいと内容

数学 で学習する「数と式」、「一次不等式」、「二次方程式」、「二次関数とそのグラフ」、「二次関数の値の変化」について、基礎的・基本的事項の理解をみることを中心とし、後半では複数項目を組み合わせた問題や数学的な読解力をみる問題も出題した。作成にあたり、学習指導要領「数学」の目標とねらいの達成状況が把握できるように、目標とねらいを分析し、参考とした。

1～7は、「数と式」についての問題、8～10は、「一次不等式」についての問題、11～13は、「二次方程式」についての問題、14～18は、「二次関数とそのグラフ」についての問題、19～20は、「二次関数の値の変化」についての問題であるが、各問の内容とねらいは、それぞれ次のとおりである。

設問	内 容 と ね ら い
1	式の展開を通して分配法則ができるかをみる問題である。
2	指数法則の理解度と計算力をみる問題である。
3	文章を理解して立式し、基本的な整式の加法・減法ができるかどうかをみる問題である。
4	たすきがけを利用した因数分解の基本問題である。
5	たすきがけを利用した因数分解の応用問題である。
6	無理数についての四則演算の計算力をみる問題である。
7	無理数についての四則演算の計算力と有理化ができるかをみる問題である。
8	不等式の性質をもとに一元一次不等式を解く力をみる問題である。
9	不等式の基本性質と不等号のもつ意味について理解できているかをみる問題である。
10	問題文の内容を、不等式を用いて立式する力をみる問題である。
11	因数分解を利用する二次方程式の解法を通して、因数分解と二次方程式の解の意味についての理解をみる問題である。
12	平方の形に変形した二次方程式の解法を通して、2乗と平方根の意味についての理解をみる問題である。
13	二次方程式の解の公式の定着と活用の力をみる問題であるが、平方の形に変形する解法を用いれば中学校の学習内容で解くことができる問題である。
14	二次関数のグラフの平行移動についての理解をみる問題である。
15	二次関数を標準形に変形する計算力と、その結果からグラフの頂点の座標が読み取れるかをみる問題である。
16	グラフが通る点の意味を理解し、三元一次連立方程式を立てるか、与えられた3点のうち2点が $x$ 軸との交点であることを活用して、与えられた条件を満たす二次関数を求める問題である。
17	座標平面上で二次関数のグラフの平行移動が正しく行えるかをみる問題である。
18	二次関数のグラフの対称性を利用して、2つのグラフの位置関係について考察する力をみる問題である。
19	二次関数のグラフを通して、二次関数の値の変化を考察し、最大値・最小値を求めることができるかをみる問題である。
20	(1)は二次関数の式とグラフの関係から平行移動についての理解を、(2)は、二次関数のグラフと $x$ 軸との位置関係から、その共有点に関して考察する力をみる問題である。



## 2 結果と考察

1  $(3a-b)(3a-2b) = \boxed{\text{ア}} a^2 - \boxed{\text{イ}} ab + \boxed{\text{ウ}} b^2$

式の展開を通して分配法則の理解をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
1	ア	9	68.5	29.6	1.9	$9a^2 - 3ab + 2b^2$ (8.6%) $9a^2 - 6ab + 2b^2$ (8.0%) など
	イ	9				
	ウ	2				

【考察】昨年とほぼ同様の問題であるが、正答率が約9ポイント下がった。 $ab$ の項の係数について誤りが多く、分配法則による展開および同類項の整理について理解が不十分であることが窺える。分配法則が定着していない生徒に対するの指導が必要とされる。

2  $(-2a^2)^3 = - \boxed{\text{エ}} a^{\boxed{\text{オ}}}$

指数法則の理解度と計算力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
2	エ	8	69.0	29.1	1.9	$-8a^8$ (6.6%) $-8a^5$ (4.8%) など
	オ	6				

【考察】指数法則についての計算力をみる問題として今年度新たに出題した問題である。正答率は1と同程度であった。 $a$ の指数を求める際に、 $2^3$ や $2+3$ と計算した誤答も多く見られた。指数法則について定着を図ると同時に、指数法則の意味を自分で考え利用する力を身に付けさせたい。

3 整式 $3x^2 - 5x - 2$ に、ある整式Aを加えたら $6x^2 - 4x + 5$ となった。このとき、

$A = \boxed{\text{カ}} x^2 + x + \boxed{\text{キ}}$  である。

整式の演算の理解度と計算力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
3	カ	3	71.2	25.8	3.0	$2x^2 + x + 7$ (4.8%) $3x^2 + x + 3$ (3.7%) $2x^2 + x + 3$ (3.0%) など
	キ	7				

【考察】立式する能力および基本的な加法・減法の計算力をみる問題として今年度新たに出題した問題である。式に表現する力が十分に身につけていないと考えられる誤答も多い。問題文を読み解く力と合わせて、数学的な表現・処理ができる力を身に付けさせる指導が必要である。

4  $2x^2 + 5x - 3 = (\text{ク} x - \text{ケ})(x + \text{コ})$

因数分解の理解度と計算力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
4	ク	2	68.0	27.8	4.2	(2x-3)(x+1) (5.9%) (2x-3)(x+5) (2.1%) (2x-5)(x+3) (1.7%) など
	ケ	1				
	コ	3				

【考察】昨年度と同様の因数分解の問題である。正答率は昨年の 68.0%と同じであった。x<sup>2</sup>の項の係数と定数項が素数であったが、たすき掛けにより因数を見つける際、係数を取り違えたと思われる誤答が約6%あった。また、問題の係数をそのまま解答欄に当てはめたとと思われる誤答が約4%あった。たすき掛けによる因数分解は使用頻度の高いものであり、正確な処理を身に付けさせたい。

5  $x^2 + 3xy + 2y^2 - 3x - 5y + 2 = (x + \text{サ} y - \text{シ})(x + y - \text{ス})$

二つの文字を含む整式の因数分解を、一つの文字に着目するなどして正確に処理できるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
5	サ	2	38.9	50.4	10.7	(x+2y-2)(x+y-1) (6.3%) (x+3y-2)(x+y-1) (2.1%) (x+3y-1)(x+y-2) (1.9%) など
	シ	1				
	ス	2				

【考察】昨年度と同様の問題であるが、因数分解しやすい係数であったためか、正答率が昨年度よりも約5ポイント上がった。昨年度との比較からy<sup>2</sup>の係数が正であれば若干ではあるが取り組みやすくなるようである。また、無答率も10%を超えているが、2つ以上の文字を含む因数分解は、1つの文字に着目して整理することのよさを理解させる指導が求められる。

6  $(3\sqrt{2} + \sqrt{3})(\sqrt{2} - \sqrt{3}) = \text{セ} - \text{ソ} \sqrt{\text{タ}}$

無理数のかけ算を通して、計算力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
6	セ	3	59.9	36.4	3.7	3-4√6 (3.6%) 3-3√6 (2.5%) など
	ソ	2				
	タ	6				

【考察】分配法則や乗法公式を利用して展開するところまではできていても、その後同類項をまとめる際の正負の数の加減で誤ったと思われるものが多く見られた。また、根号を含む計算についてほとんど理解していないと思われる解答も2割ほどある。数学の学習には欠かせない計算であるので、確実な定着を図るような指導が望まれる。

$$7 \quad \frac{4\sqrt{3}}{\sqrt{6}+\sqrt{2}} = \boxed{\text{チ}} \sqrt{\boxed{\text{ツ}}} - \sqrt{\boxed{\text{テ}}}$$

無理数の割り算を通して、分母を有理化する方法の理解度と計算力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
7	チ	3	50.3	40.7	9.0	$4\sqrt{3} - \sqrt{8}$ (2.0%) $2\sqrt{3} - \sqrt{6}$ (1.6%) など
	ツ	2				
	テ	6				

【考察】正答率が50.3%であり、正解は半数に止まった。最も多い誤答例でも2.0%に過ぎず、誤答には特に傾向は見られない。これは、分母が平方根の和で表された分数の有理化の処理の仕方そのものを理解していない、あるいは、根号を含む数の計算についてよく理解していないことを表している。また、予想通り正答率が昨年よりも約6ポイント下がっており、正確な有理化の処理について徹底して指導する必要がある。

8 1次不等式  $2(x+4) > 3x-2$  を解くと、 $\boxed{\text{ト}}$  である。

$$x > -2 \quad x < -2 \quad x < 6 \quad x > 6 \quad x < 10 \quad x > 10$$

1次不等式を解く力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
8	ト		77.0	21.8	1.2	(7.4%) (7.1%) (3.4%) など

【考察】無答率が低く取り組みやすい問題であったようである。誤答のうち は両辺を負の数で割ると不等号の向きが変わることの理解不足であり、 は分配法則、移項、正負の数の計算ミスなどが原因と考えられる。計算はやり方がわかるだけでは不十分であり、正確にできることが大切である。確実に解けるような指導の徹底が必要である。

9 連立不等式  $\begin{cases} 5x+6 > 2x-9 \\ x+3 > 3x+7 \end{cases}$  の解は、 $-\boxed{\text{ナ}} < x < -\boxed{\text{ニ}}$  である。

一元一次連立不等式の解法と解の意味、数直線の理解をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
9	ナ	5	77.9	19.6	2.5	$-2 < x < -5$ (4.1%) $-5 < x < -4$ (1.7%) など
	ニ	2				

【考察】正答率、誤答率共にほぼ8と同様である。 $x$ の範囲が両側から挟まれるタイプであり、取り組みやすかったと思われる。連立でない一元一次不等式が解ければ、一元一次連立不等式もそれほど難しくはない。一部に負の数の大小関係について理解できていないと思われる誤答があったので気を付けたい。8と9の正答率が共に77%以上あることから、不等式の解法については概ね理解できていると考えられる。

10 「ある数  $x$  から 2 を引いて 2 倍した数は，ある数  $x$  を 3 倍して 4 を加えた数より大きい」を表す最も適当な不等式は  である。

$$2x-2 > 3x+4 \quad 2(x-2) < 3x+4 \quad 2(x-2) > 3(x+4)$$

$$2(x-2) > 3x+4 \quad 2x-2 > 3(x+4) \quad x-4 > 3x+4$$

問題文の内容を，不等式を用いて立式する力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
10	又		68.9	29.4	1.7	(9.1%) (8.3%) (5.0%) など

【考察】不等式の立式の問題である。誤答のうち  は問題文の読解に， は計算の順序についての認識に誤りがあったと思われる。今回は問題文をそのまま立式できるかを問う出題であったが，正答率から考えると，数学的な表現力をより一層高める指導が求められる。

11 2 次方程式  $x^2 - 5x - 14 = 0$  の解は， $x = -$   ，  である。

因数分解を用いて，二次方程式の解を求める力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
11	ネ	2	73.9	22.9	3.2	$x = -7, 2$ (11.7%), $x = -5, 7$ (0.8%) など
	ノ	7				

【考察】昨年とほぼ同様の内容の出題である。正答率は昨年が 70.2% であり，約 4 ポイント増加した。その反面，無答率が昨年の 2.0% から増加しているのが気になるところである。中学校で学習する内容であるが，高校数学でも頻出する計算であり，確実に身に付けさせたい内容である。

12 2 次方程式  $x^2 - 6x = -4$  は  $(x -$   )<sup>2</sup> =  と変形できるから，

この 2 次方程式の解は， $x =$    $\pm \sqrt{$    $}$  である。

二次方程式の平方完成による解法についての理解をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
12	ハ	3	41.2	45.4	13.4	$(x-3)^2 = 2$ より $x = 3 \pm \sqrt{2}$ (2.1%) $(x-3)^2 = 4$ より $x = 3 \pm \sqrt{2}$ (1.3%) など
	ヒ	5				
	フ	3				
	ヘ	5				

【考察】平方完成を用いた 2 次方程式の解法を問う問題である。昨年は解の公式を利用して解ける形であったが，今回は平方完成が必要な形での出題としたため，誤答率，無答率ともに昨年より大幅に増加した。2 次関数・2 次方程式以外にも平方完成が必要とされる場面は多く，機会ある毎に定着を確認しておきたい。

13 2次方程式  $x^2 - 4x + 2 = 0$  の解は,  $x =$    $\pm \sqrt{\text{マ}}$  である。

二次方程式の平方完成による解法や解の公式についての理解をみる問題

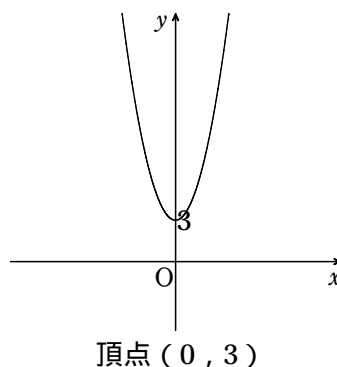
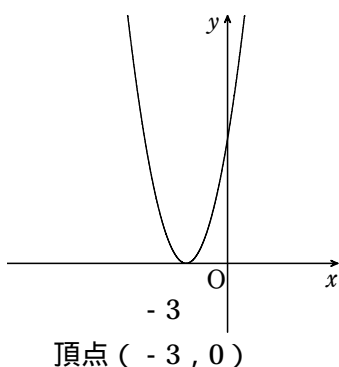
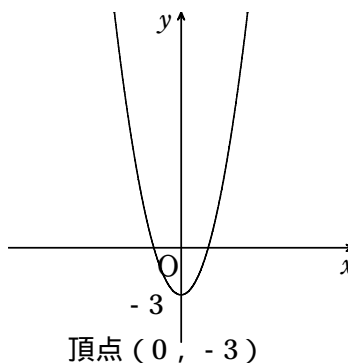
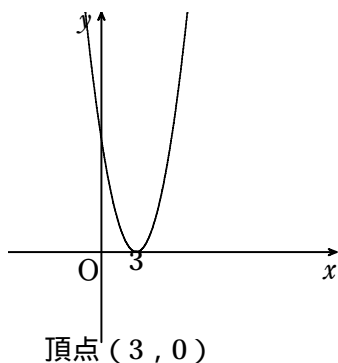
問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
13	ホ	2	61.0	32.8	6.2	$x = 4 \pm \sqrt{2}$ (6.1%), $x = 2 \pm \sqrt{4}$ (2.6%) $x = 2 \pm \sqrt{6}$ (2.4%) など
	マ	2				

【考察】過去3年同じ問題で, 正答率は56.5% 55.9% 61.0%と推移している。二次方程式の解の公式は高校で初めて学習する内容であるが, よく使用されるので確実に定着を図りたい。

なお, これは平成17年度文部科学省実施の高校3年生を対象とする教育課程実施状況調査の問題で, その際の通過率は40.2%であった。

14 次の ~ のグラフは, 2次関数  $y = x^2$  のグラフを平行移動したものである。

この中で,  $y = x^2 - 3$  のグラフは  で,  $y = (x - 3)^2$  のグラフは  である。



二次関数のグラフの平行移動についての理解をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
14	ミ		75.8	22.6	1.6	(12.4%), (4.3%), (4.1%)
	ム		67.4	30.9	1.7	(12.2%), (10.6%) (5.4%)

【考察】過去3年同じ問題で, 正答率の推移は, ミで72.1% 72.1% 75.8%, ムで60.5% 61.8% 67.4%となっている。昨年と同じでy軸方向の平行移動よりx軸方向の平行移動の正答率が低くなっており, このことを十分意識した上で指導にあたる必要があるであろう。

なお, これは平成17年度文部科学省実施の高校3年生を対象とする教育課程実施状況調査の問題で, その際の通過率はミが75.5%, ムが58.0%であった。

15 2次関数  $y = x^2 - 4x + 5$  のグラフの頂点の座標は (  ,  ) である。

二次式の平方完成を用いて、二次関数の頂点を求める力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
15	メ	2	63.7	32.3	4.0	(4, 5)(10.3%), (2, 5)(2.5%)
	モ	1				

【考察】昨年とほぼ同様の出題である。正答率は、昨年の 59.3% に比べ約 4 ポイント増加した。誤答例には式の係数をそのまま読み取ったものが多く見受けられることから、頂点の座標を求めるにはまず平方完成する必要があることを確実に定着させておきたい。

16 グラフが 3 点 ( - 1 , 0 ) , ( 3 , 0 ) , ( 0 , - 6 ) を通る 2 次関数は、

$$y = \text{} x^2 - \text{} x - \text{} \text{ である。}$$

与えられた条件を満たす二次関数を求める方法を判断し、計算する力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
16	ヤ	2	49.2	40.6	10.2	$y = 2x^2 - 8x - 6$ (2.2%), $y = 3x^2 - x - 6$ (1.8%) $y = x^2 - 5x - 6$ (1.8%) など
	ユ	4				
	ヨ	6				

【考察】昨年とほぼ同じ問題である。昨年の正答率は 45.0% であり、約 4 ポイント増加した。昨年同様に与えられた 3 点が 0 を含んでおり、計算がしやすかったにも関わらず、無答率が 10.2% となった。三元一次連立方程式に粘り強く取り組む姿勢を身につけさせる指導とともに、二次関数の決定に関する解法を様々な角度から考察させる指導が求められる。

17 2次関数  $y = 2(x+3)^2 - 1$  のグラフを  $x$  軸方向に  ,  $y$  軸方向に -  平行移動する

と、2次関数  $y = 2(x-4)^2 - 3$  のグラフに重なる。

二次関数のグラフの平行移動に関する理解をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
17	ラ	7	64.2	31.8	4.0	$x$ 軸方向に 3 , $y$ 軸方向に - 1 (6.7%) , $x$ 軸方向に 1 , $y$ 軸方向に - 2 (4.8%) など
	リ	2				

【考察】二次関数のグラフの平行移動を頂点の移動から正しく判断する力や、グラフを座標平面上に表現して考える力が求められる問題である。誤答例を見ると、 $x$  軸方向および  $y$  軸方向の平行移動の際の符号の扱いが理解できていない部分が見られる。実際にグラフを書き、視覚的に考察することの重要性を理解させる指導も必要である。

18 2次関数  $y = (x+1)^2$  のグラフをSとし、Sをx軸方向にaだけ平行移動した放物線をTとする。SとTの共有点のx座標が3のとき、 $a =$   である。ただし、aは0でない値とする。

二次関数のグラフの対称性を利用して位置関係を的確に把握したことを応用できる力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
18	ル	8	22.7	66.1	11.2	4 (19.7%) 2 (10.0%) 3 (9.8%) など

【考察】正答率は低かったが、数式の処理で解こうとしたためと思われる。文字を含む二次関数においても、問題文から判断できることから、二次関数の場合は軸に関しての対称性を意識させながら、グラフを座標平面上に表現して考えさせる指導が求められる。

19 2次関数  $y = -x^2 + 6x - 5$  ( $0 \leq x \leq 4$ ) の最大値は  , 最小値は  である。

二次関数の値の変化を的確に把握し、最大値及び最小値を求める力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
19	レ	4	51.3	45.5	3.2	3 (28.9%), 5 (5.6%) など
	口	5	76.8	20.1	3.1	3 (5.5%), 4 (4.4%) など

【考察】昨年とは係数が異なるものの、ほぼ同じ問題である。昨年の正答率は、レで40.3%、口で60.8%であり増加した。誤答例としては、単に定義域の両端の値を代入して求めたと思われるものが多く見られた。二次関数の最大・最小を考える場合には、定義域の中に頂点のx座標が含まれるかどうかのポイントになる。二次関数のグラフを活用することのよさを認識させる指導が大切と思われる。

20 2次関数  $y = x^2 + x + 1 - k$  のグラフについて、

(1) このグラフは、定数kの値が大きくなるにつれて  に平行移動する。

x軸の正の方向, x軸の負の方向, y軸の正の方向, y軸の負の方向

(2) このグラフがx軸と共有点をもつとき、定数kの値の範囲は  である。

$$k \leq \frac{3}{4} \quad k \geq \frac{3}{4} \quad k \leq 0 \quad k \geq 0 \quad k \leq \frac{5}{4} \quad k \geq \frac{5}{4}$$

文字定数の変化から二次関数の位置の変化をとらえ、見通しをもってx軸との位置関係を考察する力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
20	ワ	4	68.7	28.2	3.1	(11.2%), (8.4%) など
	ヲ	2	44.0	51.4	4.6	(11.7%), (10.2%) など

【考察】(1)は、定数kの値の変化にともなう二次関数のグラフの位置の変化を問う問題であったが、期待していた正答率よりは低かった。(2)の問題は、 $y = x^2 + x + 1 - k$  のグラフの頂点のy座標とx軸との関係を用いて求める方法と判別式Dを用いて解く方法があるが、(1)における定数kの変化から考察し、理解させる指導も大切である。

### 3 分析のまとめと指導上の改善

<分析のまとめと課題>

#### (1) 正答率は上昇

今年と昨年とで共通する問題6, 問題13, 問題14で比較すると, 正答率の差が+1.2ポイント, +5.2ポイント, +3.7ポイントと+5.5ポイントで, 正答率は昨年より上昇している。無答率も同じ問題で比較すると, 0.1~1.9ポイント減少しており, 基礎・基本事項についての指導が充実してきていると考えられる。

#### (2) 数学を学ぶ楽しさや意欲

昨年の類題に関しても同様に無答率が若干減少している。これは, 数学に対して興味・関心を持たない生徒やものごとを簡単にあきらめる生徒が若干減少していると見ることもできる。

問題5のように複数の文字を扱う問題や, 問題18のように, 教科書では見慣れない複雑な表現の問題は, 無答率が高く, じっくりと考える姿勢が身に付いていない。

**課題1: 数学を学ぶ楽しさや学ぶ意欲を向上させる指導の工夫が不足している。**

#### (3) 論理的な思考力

二次方程式の問題においても, 因数分解を用いて解く問題11や, 解の公式を用いて解く問題13の正答率は高かった。

平方根を利用して(解の公式を具体化して)解く問題12の正答率は問題11よりも約30ポイント, 問題13よりも約20ポイント下回った。二次方程式の解を求めることは勿論大切なことであるが, どのような方法で解が求められるかを思考させることも, 数学的な見方や考え方に触れる上で大切なことである。

問題16においては, 求める二次関数を一般形で表し, 通る3点の座標を式に代入して三元一次連立方程式を解く上での誤答が多かった。授業において,

<指導改善のポイント>

数学を学ぶ意欲を向上させるために, 数学を学習する楽しさや意義, 数学的な見方や考え方のよさを実感させる授業を工夫する。

数学を学習する意義, 数学的な見方や考え方のよさ, 数学の美しさ, 文化や社会生活において数学が果たしている役割などを理解させ, 日常生活で体験する事柄を数理化するなど, 現実の生活を反映した問題を多く扱い, 生徒がその内容の必要性を感じられるような授業展開を考えることにより, 数学への興味・関心をもたせ, 学習意欲を高めることを大切にして指導する必要がある。

ICTを積極的に活用して, 現実の生活を反映した問題を扱い, 実生活との関連を重視した学習にも取り組ませたい。授業の導入の5分間ぐらいでもICT機器を用いて, 生徒の気を引き付けることができると, その授業がスムーズに進むという報告もある。従来の授業スタイルに固執することなく, 生徒に事象の変化や動きを実感させるなど, 様々な工夫をお願いしたい。

論理的に思考する力を育成するために, 思考力を互いに高め合う指導を工夫する。

発問を工夫し, 数学の学習を単に問題を解いて答えを求めるなどの知識の習得や技能の習熟にとどめるのではなく, 学習の必要性に気付かせ, 数学的な見方や考え方のよさが認識できるようにすることが大切である。

授業において「公式や定理がなぜ成り立つのか。」という視点を重視する。具体例を一つ説明して, すぐ一般化するのではなく, 問題の解法が公式や定理を導く過程と一致している具体例をできるだけ多く扱うことによって, 公式や定理が役に立つことに気付かせることや, その途中過程を他の場面に応用できるような指導を工夫する。

発表や検討(練り合い)などの様々な数学的活動を授業に取り入れて, 自分の考えを論理的に思考させ表現させる機会を設定する。自分の考えだけでなく, 他の方の意見の中に





2つの $x$ 軸との共有点を結ぶ線分の中点を軸が通ることに気付かせたり、 $x$ の二次式が $x$ 軸との共有点の $x$ 座標を用いて因数分解された形で表現して解くなど、様々な方向から解答させる取組があまり重視されていないようである。

**課題2：公式や定理がなぜ成り立つのかを考えることや、一つの問題をいろいろな方向から解くなど、その過程を論理的に思考させる機会が少ない。**

#### (4) 問題文の読解力と立式、グラフや図の活用

問題10の正答率が7割弱であったことから、問題文から式を立てる段階での誤りが多く、問題文が長い設問・文章が複雑である設問・教科書であまり見慣れていない表現等で聞かれると正答率が急激に下がる傾向がある。

問題18などは、グラフで考察する方が、理解しやすく処理しやすい問題である。式を立てて解く方法に固執しているため、式変形が煩雑になり誤答となったケースが多かった。

問題20の正答率は、予想正答率より10%ほど低かった。問題の解法を固定化している生徒が多く、「2次関数と $x$ 軸との関係は判別式」という考え方しか用いることができていないため、不等号の向きを計算途中で間違えると、確認できない状況になっている。

**課題3：数学の用語や記号を用いて書かれた文章などを読んで理解したことを式やグラフ・図を用いて表現する機会が不足している。**



数学的な見方や考え方のよさを見つけたり、他の人に分かりやすく説明しようとすることによって、自分の思考過程を振り返らせることは、知識・理解を定着させることに有効である。

論理的に表現する力を育成するために、用語・記号を丁寧に説明するだけでなく、数学的な表現に慣れさせる工夫をする。

数学の問題を解答する上で、一番大切な立式することの指導を工夫する必要がある。正しく問題文の内容を把握しているか、分析しているかを発問・発表や検討(練り合い)などの様々な形式で確認していく指導案を作成していく必要がある。

数学で用いられる用語や記号については、授業で説明するだけでなく、事象を自分の言葉で表現させ、その表現をさらに数学的な表現に発展させていくことや、逆に、式や記号で表現されていることを、自分の言葉で表現し相手に分かりやすく説明できるような内容を含む授業を工夫する。

数学の用語や記号を用いて書かれた文章などを理解し処理するために、グラフや図を活用しながら、常に具体化させて思考させることを重視する。

文字を含む問題については、文字のままでは処理していかないで、常に文字を具体的な数にした場合をいくつか比較し、実感が伴った分析ができるようにする。

式だけが条件として与えられている問題についても、式変形だけで思考させず、グラフを利用して考えるとどうなるのか、表を作って変化の様子や成り立つ関係を予想しながら考えたり、図形を用いて関係を表現し、位置関係や性質理解することによって状況を把握していくなど、様々な方法を用いて思考させる工夫をする。

一方的な授業にならないよう、数学的活動を工夫して授業を実践することにより、創造性の基礎を培い、数学を活用する能力と態度を育成することが今後求められる。

## 学科群別正答率一覧

問題番号	記号	ねらい	全体 正答率(%)	普通科	職業系 専門学科	その他 の学科
			61.3	67.3	39.9	63.7
1	アイウ	分配法則を用いて式の展開ができる	68.5	74.6	53.6	67.9
2	エオ	指数法則を用いて式の計算ができる	69.0	75.9	52.6	67.0
3	カキ	文章を理解し式を立てて、整式の加法・減法ができる	71.2	78.3	54.6	67.8
4	クケコ	たすきがけによる因数分解ができる	68.0	77.4	45.6	62.6
5	サシス	一つの文字に着目してやや複雑な式の因数分解ができる	38.9	44.9	21.0	38.6
6	セソタ	無理数を含む式の展開ができる	59.9	69.7	37.0	56.0
7	チツテ	やや複雑な無理数について分母の有理化ができる	50.3	61.7	21.9	45.8
8	ト	1次不等式を解くことができる	77.0	83.9	58.6	72.9
9	ナニ	連立一元一次不等式を解くことができる。不等式の解を数直線と対応させて理解している	77.9	84.9	58.6	73.3
10	ヌ	文章を理解し、式の大小を不等号を用いて立式することができる	68.9	75.9	50.9	62.2
11	ネノ	平方根の考え方または解の公式を用いて二次方程式を解くことができる	73.9	81.2	56.8	70.5
12	ハヒフヘ	平方完成を用いて二次方程式を解くことができる	41.2	52.0	15.8	37.0
13	ホマ	平方完成または解の公式を用いて二次方程式を解くことができる	61.0	69.1	37.5	58.2
14	ミ	二次関数のグラフの平行移動について理解している	75.8	79.5	62.6	71.1
	ム	二次関数のグラフの平行移動について理解している	67.4	73.6	44.8	60.6
15	メモ	二次関数の式からグラフの頂点を求めることができる	63.7	71.0	35.9	54.1
16	ヤユヨ	グラフの通過点から二次関数の式を求めることができる	49.2	51.5	12.0	79.4
17	ラリ	二次関数の値の変化をグラフと対応付けて理解している	64.2	68.0	41.2	79.9
18	ル	二次関数のグラフの対称性を利用して、2つのグラフの位置関係を考察できる	22.7	24.9	6.7	36.0
19	レ	定義域の意味を理解し、二次関数の最大値を求めることができる	51.3	54.2	29.5	70.5
	ロ	定義域の意味を理解し、二次関数の最小値を求めることができる	76.8	79.5	59.8	85.6
20	ワ	二次関数のグラフの位置と式の係数の変化を対応付けて理解している	68.7	70.3	46.4	82.6
	ヲ	二次関数のグラフとx軸との関係を理解している	44.0	46.1	14.1	66.3

## 「英語」ペーパーテスト結果と考察

### 1 出題のねらいと内容

「聞くこと」、「読むこと」及び「書くこと」の3つの領域について、英語を理解し、英語で表現するなどのコミュニケーション能力と、コミュニケーションを図るために必要となる英語の理解力をみることをねらいとした。

昨年度から、財団法人日本英語検定協会の「英語能力判定テスト」の宮城県版を難易度別に3種類作成し、受検校各校が生徒の実力に合ったテストを選択し、より客観的な結果（「あなたは 級レベルの力があります。」）をフィードバックすることによって、英語学習のモチベーションを高めることをねらいとした。

3種類の問題の名称とレベルは以下のとおりである。

テストB：出題レベルは英検2級～3級程度。英検準1級から5級までの力を測定できる。

テストC：出題レベルは英検準2級～4級程度。英検2級から5級までの力を測定できる。

テストD：出題レベルは英検3級～5級程度。英検準2級から5級までの力を測定できる。

今回の各テストの受検者数は、テストBが2,877名、テストCが8,244名、テストDが4,185名であった。各級相当者数は、準1級レベルが5名、2級レベルが176名、準2級レベルが1,025名、3級レベルが4,202名、4級レベルが3,380名、5級レベルが6,518名であった。

テストB、C、Dともに各問題のねらいと内容はほぼ同じである。

①では、英語コミュニケーションの基礎となる語彙・熟語・文法の知識を測定する。

②では、英文レポートやE-mailなどを書く上で基礎となる英文構成力を測定する。

③では、会話の流れを的確に読み取ったり、キーワードが何かを考えながら文章を的確に読み取る力を測定する。

④では、長文の内容を的確に読み取る力を測定する。

リスニングテスト Part 1では、会話の内容を正確に聞き取る力を測定する。

リスニングテスト Part 2では、まとまった英文の内容を正確に聞き取る力を測定する。

## 2 設問ごとのねらい，結果の分析と考察

### テストBについて

① 基本的な文法・語法・語彙に関する知識・理解をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
①	1	3	72.8	26.8	0.4	「1」 6.7 % , 「2」 15.5 % , 「4」 4.6 %
	2	2	84.0	15.7	0.3	「1」 6.9 % , 「3」 4.4 % , 「4」 4.4 %
	3	2	66.8	32.9	0.3	「1」 16.1 % , 「3」 8.9 % , 「4」 7.9 %
	4	2	74.4	25.2	0.4	「1」 11.4 % , 「3」 7.5 % , 「4」 6.3 %
	5	1	47.5	52.2	0.3	「2」 5.1 % , 「3」 29.4 % , 「4」 17.7 %
	6	2	29.2	70.6	0.2	「1」 13.7 % , 「3」 24.6 % , 「4」 32.3 %
	7	4	23.7	76.0	0.3	「1」 18.9 % , 「2」 34.4 % , 「3」 22.7 %
	8	1	15.4	84.1	0.5	「2」 30.2 % , 「3」 23.2 % , 「4」 30.7 %
	9	3	31.9	67.8	0.3	「1」 9.3 % , 「2」 14.0 % , 「4」 44.5 %
	10	4	19.0	80.2	0.8	「1」 40.3 % , 「2」 17.1 % , 「3」 22.8 %
	11	2	27.4	71.9	0.7	「1」 19.7 % , 「3」 24.0 % , 「4」 28.2 %
	12	2	30.7	68.7	0.6	「1」 24.9 % , 「3」 19.9 % , 「4」 23.9 %
	13	1	26.5	72.0	1.5	「2」 20.4 % , 「3」 33.5 % , 「4」 18.1 %
	14	4	19.6	79.6	0.8	「1」 16.7 % , 「2」 38.1 % , 「3」 24.8 %
	15	4	17.1	82.0	0.9	「1」 22.1 % , 「2」 32.4 % , 「3」 27.5 %
	16	2	53.7	45.9	0.4	「1」 12.9 % , 「3」 7.5 % , 「4」 25.5 %
	17	4	16.2	83.4	0.4	「1」 9.5 % , 「2」 23.9 % , 「3」 50.0 %
	18	1	19.2	80.3	0.5	「2」 35.2 % , 「3」 31.7 % , 「4」 13.4 %
	19	4	51.9	47.5	0.6	「1」 15.2 % , 「2」 10.6 % , 「3」 21.7 %
	20	4	38.7	60.9	0.4	「1」 19.2 % , 「2」 25.4 % , 「3」 16.3 %
	21	4	31.3	68.0	0.7	「1」 12.6 % , 「2」 36.4 % , 「3」 19.0 %
	22	2	21.0	78.5	0.5	「1」 16.3 % , 「3」 54.2 % , 「4」 8.0 %
	23	3	37.2	62.2	0.6	「1」 20.1 % , 「2」 9.2 % , 「4」 32.9 %
	24	2	35.6	63.1	1.3	「1」 18.8 % , 「3」 26.3 % , 「4」 18.0 %
	25	4	10.8	87.6	1.6	「1」 34.3 % , 「2」 31.8 % , 「3」 21.5 %
	26	4	37.2	62.0	0.8	「1」 4.2 % , 「2」 47.9 % , 「3」 9.9 %
	27	1	47.2	51.4	1.4	「2」 10.6 % , 「3」 15.2 % , 「4」 25.6 %
	28	1	38.6	59.7	1.7	「2」 15.5 % , 「3」 30.4 % , 「4」 13.8 %
	29	2	33.0	65.5	1.5	「1」 20.2 % , 「3」 27.8 % , 「4」 17.5 %
	30	4	33.2	65.5	1.3	「1」 21.1 % , 「2」 11.8 % , 「3」 32.6 %

【考察】全体の正答率は36.3%であり，30問中12問で正答率30%を下回った。その中でも，7問が20%以下であり特に低かった。また，50%以上正答しているのは6問であった。No.1～15は語彙力を試す問題で，No.1，2，4はカタカナ語として知っている語彙から正答を類推できたのであろうか，いずれも70%を超える正答率であった。一方No.8，10，14，15は正答率が20%に満たなかった。

No.16～25はイディオムの知識を問うもので，No.17，18，25の正答率は20%以下であった。No.17，18は，とりあえず知っている単語や，感覚的に選んだ単語を選択する傾向が見受けられた。No.25は，似たような選択肢のどちらかが正答だろうという推測から解答したものと思われる。

No.26 ~ 30 は文法的な判断力を試す問題である。No.26 は if 節における現在形，No.27 は現在完了進行形，No.29 は分詞構文，No.30 では関係代名詞がそれぞれポイントになっている。No.28 ~ 30 は，高校1年生の前半で既習したばかりの文法を素直に用いようとしているが，同じ文法事項で競合したときに細かな判断ができないようである。以上，全体の正答率から判断すると，基礎的語彙や文法・語法に関しては定着が不十分であると思われる。言語使用においては文法等の知識も重要であり，様々な機会をとらえて練習させ，身に付けさせる必要がある。

2 短い文章の内容を参考に，与えられた英語で，語順が正しい英文を構成することにより，言語に関する知識・理解と表現する能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率 +無答率	選択肢ごとの誤答率	
31	3	71.1	28.9	2 番目	「1」 1.4 % 「2」 1.9 % 「4」 12.5 % 「5」 2.4 %
	2			4 番目	「1」 6.5 % 「3」 1.6 % 「4」 1.4 % 「5」 7.9 %
32	5	14.8	85.2	2 番目	「1」 25.4 % 「2」 35.1 % 「3」 5.9 % 「4」 9.5 %
	1			4 番目	「2」 18.0 % 「3」 6.5 % 「4」 24.1 % 「5」 18.9 %
33	4	42.1	57.9	2 番目	「1」 13.1 % 「2」 8.1 % 「3」 18.6 % 「5」 7.3 %
	3			4 番目	「1」 10.3 % 「2」 4.2 % 「4」 18.0 % 「5」 8.7 %
34	5	17.6	82.4	2 番目	「1」 4.8 % 「2」 6.5 % 「3」 24.7 % 「4」 31.4 %
	2			4 番目	「1」 7.1 % 「3」 25.4 % 「4」 18.1 % 「5」 13.8 %
35	1	8.3	91.7	2 番目	「2」 10.2 % 「3」 10.0 % 「4」 22.4 % 「5」 26.7 %
	2			4 番目	「1」 9.4 % 「3」 28.3 % 「4」 25.1 % 「5」 12.0 %

「2 番目」・「4 番目」の「選択肢ごとの誤答率」はそれぞれの誤答である選択肢を受検者が選んだ割合を示し，「正答率」は両方を正しく選択した受検者の割合を示す。

【考察】全体の正答率は 30.7%であった。正答率が低かった No.32, 34, 35 は，関係代名詞や接続詞の that を含んでいる。複数節を含む文の構成を苦手としているようである。特に No.35 は，2 番目に that を選択して誤答になった割合が正答率を上回っているが，接続詞ではなく関係代名詞として用いようとした結果の間違いと思われる。

3 短文会話を読み，会話の概要・要点を理解し，発言意図を読み取り，それに対応して表現する能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
3	36	4	86.5	12.8	0.7	「1」 2.0 % ，「2」 5.4 % ，「3」 5.4 %
	37	4	72.6	26.8	0.6	「1」 20.8 % ，「2」 2.9 % ，「3」 3.1 %
	38	2	70.9	28.1	1.0	「1」 10.8 % ，「3」 12.1 % ，「4」 5.2 %
	39	4	38.9	59.0	2.1	「1」 15.4 % ，「2」 19.1 % ，「3」 24.5 %
	40	1	41.2	56.7	2.1	「2」 31.6 % ，「3」 17.5 % ，「4」 7.6 %

【考察】比較的高い正答率で，全体では 62.0%であった。

4 英語の文を読み，概要・要点を理解し，書き手の意向などを読み取る能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
4	41	3	40.8	53.8	5.4	「1」 20.0 % ，「2」 26.7 % ，「4」 7.1 %
	42	1	36.6	57.7	5.7	「2」 22.8 % ，「3」 14.7 % ，「4」 20.2 %
	43	4	28.9	64.3	6.8	「1」 16.2 % ，「2」 27.7 % ，「3」 20.4 %
	44	3	41.9	50.4	7.7	「1」 12.0 % ，「2」 21.5 % ，「4」 16.9 %
	45	2	38.8	52.4	8.8	「1」 14.6 % ，「3」 21.8 % ，「4」 16.0 %
	46	2	33.6	56.2	10.2	「1」 16.9 % ，「3」 25.0 % ，「4」 14.3 %

47	1	24.9	63.9	11.2	「2」25.3% , 「3」23.7% , 「4」14.9%
48	2	29.6	58.6	11.8	「1」20.8% , 「3」21.3% , 「4」16.5%
49	1	29.6	58.6	11.8	「2」22.0% , 「3」22.6% , 「4」14.0%
50	4	24.0	64.0	12.0	「1」15.4% , 「2」19.7% , 「3」28.9%

【考察】No.41 ~ No.45 の平均正答率は 37.4%であった。No.43 において、選択肢 2 の誤答率が正答率にほぼ近いのは、4 段落目の第 1 文の when を関係副詞としてではなく、接続詞として解釈してしまったことが原因と思われる。when の前の g, h にもきちんと理由があることに注目させて指導していきたい。

No.46 ~ No.50 の平均正答率は 28.3%であり、無答率が全て 10 %を超えている。No.41 以後の無答率の増加は、テスト慣れしていない生徒の時間配分ミスや、定期考査ではないことからくる解答放棄が疑われる。No.47 は、解答 4 を除けば選択率はほぼ同じである。正答である選択肢 1 の文が直接的に文章中に記述されていないため、選択肢の語句が問題文にあると短絡的に選んでしまう傾向があるようだ。No.48 は、選択肢 1, 2 中の them が指し示す内容を理解していないように思われる。No.50 は、industry の指し示す内容が「会社」なのか「産業」なのか、あいまいにとらえていた生徒がいたようだ。また、正答である選択肢 4 の中のキーとなる表現が、問題文中に離れて現れているので、より問題文そのままの表現に近い選択肢 3 に飛びついてしまう傾向があると思われる。文構造をしっかりと確認しながら精読する機会をもつことが必要である。

リスニングテスト・・・Part 1 (問題 1 ~ 15) Part 2 (問題 16 ~ 30)

リスニングテスト Part 1 英語による対話文と問いかけを聞き、それに対する応答として最も適当なものを選ばせることによって、英語を正確に聞き取り、適切に応答する能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
リスニングテスト Part 1	1	2	80.5	19.1	0.4	「1」 7.2% , 「3」 6.2% , 「4」5.7%
	2	1	88.7	11.0	0.3	「2」 2.4% , 「3」 7.8% , 「4」0.8%
	3	1	59.8	39.4	0.8	「2」 5.6% , 「3」14.8% , 「4」19.0%
	4	4	45.6	52.9	1.5	「1」 3.1% , 「2」26.0% , 「3」23.8%
	5	1	81.0	18.6	0.4	「2」 5.1% , 「3」10.3% , 「4」3.2%
	6	3	68.5	31.0	0.5	「1」 7.1% , 「2」17.7% , 「4」6.2%
	7	3	60.3	38.8	0.9	「1」 8.4% , 「2」12.1% , 「4」18.3%
	8	2	67.5	32.2	0.3	「1」 3.7% , 「3」17.7% , 「4」10.8%
	9	4	53.3	46.2	0.5	「1」20.2% , 「2」18.9% , 「3」7.1%
	10	2	38.2	61.1	0.7	「1」 7.9% , 「3」32.1% , 「4」21.1%
	11	4	39.2	60.1	0.7	「1」 6.9% , 「2」41.5% , 「3」11.7%
	12	4	24.0	75.7	0.3	「1」60.6% , 「2」10.1% , 「3」5.0%
	13	2	52.2	47.1	0.7	「1」23.3% , 「3」 9.5% , 「4」14.3%
	14	4	20.1	79.0	0.9	「1」11.8% , 「2」15.6% , 「3」51.6%
	15	1	18.5	80.6	0.9	「2」17.4% , 「3」29.2% , 「4」34.0%

【考察】リスニングテスト Part 1 の平均正答率は 53.2%であり、正答率が 50%を下回った問題は 6 問であった。No.10 以降に正答率の低い問題が集中しているが、その例外として、No.10 以降でも No.13 は比較的正答率が高く、逆に前半の No.4 は比較的正答率が低かった。このことから、会話文中から必要な情報を拾い上げて答える問題と、会話全体の要約や背景を答える問題の 2 種類が出題されているが、後者のタイプを苦手としている者が多いことがわかる。No.15 は、会話に現れない単語を避けた結果なのか、「4」や「3」を選んで誤答になった者が多い。No.14 は「3」を選ん

だ者が半分を超え、No.12 は「1」を選んだ者が 60 %に上っている。これらの誤答文は会話の中に現れた単語をストレートに用いており、いかにも正答であるかのように見えるため、注意を要する。今後の指導においては、聞こえてくる会話文を単語の羅列としてではなく、文脈をしっかりと把握し、状況を具体的にイメージできる（推察力や想像力を含んだ）リスニング力を養う必要がある。

**リスニングテスト Part 2** まとまった英文と問いかけを聞き、それに対する応答として最も適切なものを選ばせることによって、英語を正確に聞き取る能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
リスニングテスト Part 2	16	4	75.1	24.7	0.2	「1」 8.9 % , 「2」 5.1 % , 「3」 10.7 %
	17	3	75.5	24.3	0.2	「1」 9.6 % , 「2」 9.6 % , 「4」 5.1 %
	18	3	71.4	28.5	0.1	「1」 2.7 % , 「2」 8.9 % , 「4」 16.9 %
	19	1	52.0	47.4	0.6	「2」 23.2 % , 「3」 7.8 % , 「4」 16.4 %
	20	1	56.2	43.3	0.5	「2」 18.8 % , 「3」 14.5 % , 「4」 10.0 %
	21	3	66.2	33.5	0.3	「1」 8.5 % , 「2」 5.6 % , 「4」 19.4 %
	22	2	54.8	44.9	0.3	「1」 6.6 % , 「3」 30.6 % , 「4」 7.7 %
	23	1	56.2	43.3	0.5	「2」 25.2 % , 「3」 10.3 % , 「4」 7.8 %
	24	1	40.8	58.8	0.4	「2」 11.0 % , 「3」 36.4 % , 「4」 11.4 %
	25	2	41.7	57.7	0.6	「1」 37.9 % , 「3」 12.4 % , 「4」 7.4 %
	26	4	22.7	75.7	1.6	「1」 17.3 % , 「2」 29.3 % , 「3」 29.1 %
	27	2	43.6	55.6	0.8	「1」 31.9 % , 「3」 13.3 % , 「4」 10.4 %
	28	1	39.4	59.4	1.2	「2」 21.4 % , 「3」 16.1 % , 「4」 21.9 %
	29	2	43.3	55.9	0.8	「1」 15.8 % , 「3」 20.5 % , 「4」 19.6 %
30	3	58.2	41.3	0.5	「1」 17.4 % , 「2」 7.2 % , 「4」 16.7 %	

**【考察】**リスニングテスト Part 2 の平均正答率は 53.1%であり、Part 1 とほぼ同じである。正答率が 50%を下回った問題は 6 問であったが、20%台は No.26 のみ、30%台も No.28 のみで、残りは 40%を超えている。正答率の低い問題から考察してみると、No.26 は、文章全体に照らしてその内容に反しない選択肢を選ぶ問題であり、質問文自体の言い回しに戸惑ったのではないだろうか。No.28 は答えの根拠が文章の最初に、しかも間接的に話されているのが原因であろう。このことは先の No.26 や、No.25 にもあてはまることである。No.24 は、アナウンスを聞いて、それがどこで行なわれているかを答えさせる問題だが、「機内アナウンス」という先入観を捨てて、正答を導くキーワードに気付くか否かがカギであろう。このリスニングテストは、文章と質問文が一度しか読まれないので、答えのポイントとなる語句が文章の始めの方で話されたり、間接的にしか表現されていない場合には、生徒の記憶に残りにくく、正答率が低くなる傾向にあると考えられる。

今後の指導においては、聴いて理解できる語彙を増やすことはもちろん、4～5文程度からなる段落全部をイメージとして一定時間覚えていられるという、高い能力を求めていくことが必要になる。つまり生徒は、「耳」だけでなく「情報整理」や「記憶」についてもトレーニングしなければならないということである。

## テストCについて

- 1 コミュニケーションを図るために必要となる基礎的・基本的表現，語法事項など，言語に関する知識・理解をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
1	1	4	94.2	5.7	0.1	「1」 1.0%, 「2」 2.5%, 「3」 2.2%
	2	3	77.5	22.2	0.4	「1」 6.8%, 「2」 13.4%, 「4」 2.0%
	3	3	69.8	29.9	0.6	「1」 12.6%, 「2」 8.3%, 「4」 9.0%
	4	2	77.1	22.6	0.6	「1」 6.8%, 「3」 6.5%, 「4」 9.3%
	5	2	48.8	50.8	0.8	「1」 23.4%, 「3」 11.5%, 「4」 15.9%
	6	1	46.2	53.5	0.6	「2」 14.0%, 「3」 21.4%, 「4」 18.1%
	7	1	40.0	59.7	0.8	「2」 30.7%, 「3」 5.7%, 「4」 23.3%
	8	2	50.1	49.4	0.6	「1」 16.2%, 「3」 14.3%, 「4」 18.9%
	9	4	50.4	49.4	1.0	「1」 14.6%, 「2」 13.3%, 「3」 21.5%
	10	2	25.5	73.9	1.0	「1」 31.6%, 「3」 23.7%, 「4」 18.6%
	11	3	40.8	58.5	1.0	「1」 15.9%, 「2」 15.7%, 「4」 26.9%
	12	3	28.8	70.7	1.0	「1」 28.9%, 「2」 20.6%, 「4」 21.2%
	13	1	19.9	79.3	1.2	「2」 32.2%, 「3」 19.3%, 「4」 27.8%
	14	4	19.5	79.8	1.1	「1」 14.7%, 「2」 34.9%, 「3」 30.2%
	15	4	55.3	44.4	1.2	「1」 23.2%, 「2」 8.1%, 「3」 13.1%
	16	2	62.0	37.4	0.7	「1」 14.4%, 「3」 17.4%, 「4」 5.6%
	17	2	57.8	41.7	0.8	「1」 4.8%, 「3」 10.5%, 「4」 26.4%
	18	2	40.1	59.1	0.9	「1」 17.5%, 「3」 25.8%, 「4」 15.8%
	19	2	30.2	69.0	1.0	「1」 21.0%, 「3」 27.9%, 「4」 20.1%
	20	2	27.9	71.0	1.0	「1」 22.5%, 「3」 23.3%, 「4」 25.2%
	21	1	32.2	66.6	1.3	「2」 31.5%, 「3」 18.2%, 「4」 16.9%
	22	3	22.8	76.1	1.3	「1」 28.4%, 「2」 16.7%, 「4」 31.0%
	23	4	10.1	88.7	1.1	「1」 34.1%, 「2」 17.9%, 「3」 36.7%
	24	2	27.6	71.4	1.4	「1」 36.6%, 「3」 9.5%, 「4」 25.3%
	25	2	52.3	46.8	1.3	「1」 19.1%, 「3」 11.4%, 「4」 16.3%
	26	1	28.9	70.0	1.3	「2」 19.2%, 「3」 36.0%, 「4」 14.8%
	27	2	27.6	71.3	1.4	「1」 39.9%, 「3」 17.4%, 「4」 14.0%
	28	4	17.7	81.1	1.4	「1」 37.6%, 「2」 30.2%, 「3」 13.3%
	29	3	33.8	65.1	1.7	「1」 29.5%, 「2」 9.2%, 「4」 26.4%
	30	4	19.7	79.0	1.5	「1」 11.0%, 「2」 17.9%, 「3」 50.1%

【考察】全体の正答率は41.1%であり，正答率が30%を下回ったのは30問中12問であった。その中でもNo.13, 14, 23, 28, 30は20%以下で，特に低かった。No.13, 14は適切な動詞を選ぶ問題だが，正しい意味が理解できていない誤答が目立った。また，No.28は仮定法過去，No.30は関係副詞をそれぞれよく理解していないと思われる誤答が少なからず見受けられた。全般的に会話でよく用いられる表現や語句の意味に関しては比較的正答率が高かったが，文法や語法の問題に関しては定着が不十分である。言語使用に関しては文法等の知識も重要であり，様々な機会をとらえて練習させることによって身に付けさせたい。



- 2 与えられた英語で語順正しく英文を構成することにより，言語に関する知識・理解と表現する能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
2	31	3	53.4	46.2	0.4	「1」21.1% 「2」9.2% 「4」15.9%
	32	1	54.4	45.1	0.5	「2」18.8% 「3」19.1% 「4」7.2%
	33	2	42.6	56.5	0.9	「1」23.9% 「3」15.3% 「4」17.3%
	34	2	52.5	46.4	1.1	「1」23.3% 「3」11.0% 「4」12.1%
	35	4	28.5	70.3	1.2	「1」29.5% 「2」21.2% 「3」19.6%

【考察】全体の正答率は46.2%であった。最も正答率が高かったのはNo.32で，関係代名詞を用いた表現を扱う問題で54.4%であった。一方，正答率が最も低かったのはNo.35の無生物主語を用いた表現の正答にたどり着いたと思われる生徒は28.5%のみで，定着率の低さが窺えた。様々なパターンの英文を読んで意味を理解することも重要だが，実際に自分で英文を作ってみるアウトプット訓練も不可欠である。

- 3 コミュニケーションを図るために必要となる基礎的・基本的表現，語法事項など，言語に関する知識・理解をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
3	36	1	92.0	7.3	0.7	「2」3.0% 「3」2.8% 「4」1.5%
	37	1	78.4	20.8	0.8	「2」9.6% 「3」3.3% 「4」7.9%
	38	2	64.8	34.2	1.0	「1」6.4% 「3」20.9% 「4」6.9%
	39	3	51.9	46.7	1.4	「1」8.2% 「2」27.6% 「4」10.9%
	40	2	30.5	68.0	1.5	「1」11.8% 「3」13.4% 「4」42.8%

【考察】全体の正答率は63.5%と比較的高く，日常的な会話表現にはまずまず慣れていると思われる。その中でもNo.36, 37は正答率が70%を超えていて好成绩である。一方No.40の正答率は30.5%と最も低い。これは，前後の発話内容をよく把握せず，安易に肯定的な表現を選択した誤答であると思われる。全ての設問が，疑問に対する典型的な返答方法の定着を問うものなので，会話の流れに沿って適切に答える練習が必要である。

- 4 英語による説明文を読んで，書かれている概要・要点を理解する能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
4	41	1	74.1	23.8	2.1	「2」12.4% 「3」6.8% 「4」4.6%
	42	3	75.8	21.7	2.5	「1」8.4% 「2」8.6% 「4」4.7%
	43	1	62.6	34.4	3.0	「2」12.1% 「3」9.4% 「4」12.9%
	44	1	53.8	42.7	3.5	「2」23.3% 「3」10.1% 「4」9.3%
	45	3	49.1	47.1	3.8	「1」25.5% 「2」13.5% 「4」8.1%
	46	4	23.4	71.3	5.3	「1」32.8% 「2」20.8% 「3」17.7%
	47	2	41.9	51.6	6.5	「1」18.8% 「3」15.7% 「4」17.1%
	48	3	33.4	60.5	6.1	「1」22.8% 「2」22.3% 「4」15.4%
	49	1	29.8	63.1	7.1	「2」25.1% 「3」20.5% 「4」17.5%
	50	1	39.6	53.5	6.9	「2」17.1% 「3」20.0% 「4」16.4%

【考察】No.41～No.45は150字程度の文章から内容を読み取る問題であり，平均正答率は63.1%であった。No.41やNo.42は正答率が70%を上回っており比較的良好に理解していたようである。しかしNo.44やNo.45は，質問の解答となる部分を文章から見つけ出せているものの，代名詞の示す内容や，場面展開を正確にとらえていないため誤答となってしまうケースが多くあるように見受けられ，正答率は低めだった。

No.46～No.50は，同じくまとまった英文の内容を読み取る問題であるが，一文一文が比較的

長く、全体でも 250 字程度の長文であるため、内容把握をきちんとできないまま問いに答えている様子が窺え、平均正答率は 33.6 % と低かった。特に No.46 は、キーワードを混同したと思われる選択肢 1 の誤答が 32.8 % と多く、また、文中の他の表現が正答である選択肢の表現と、別の比較表現を用いた同意表現であると読み取れなかったと思われることも重なり、正答率は 23.4 % と最も低かった。他の設問は、解答に相当する英文に着目しているようだが、意味を正確に読み取れていないため誤答のばらつきが多かった。根気よく英文の内容を詳細に読み取る力を身に付けさせたい。

リスニング・・・Part 1 (問題 1 ~ 15) Part 2 (問題 16 ~ 30)

リスニングテスト Part 1 英語による対話文と問いかけを聞き、それに対する応答として最も適当なものを選ばせることによって、英語を正確に聞き取り、適切に応答する能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
リスニングテスト Part 1	1	4	78.1	21.3	0.6	「1」 7.1%, 「2」 5.2%, 「3」 9.0%,
	2	1	74.2	25.5	0.3	「2」 4.5%, 「3」 5.5%, 「4」 15.5%
	3	1	67.4	32.2	0.4	「2」 21.8%, 「3」 7.0%, 「4」 3.4%
	4	4	56.1	43.1	0.8	「1」 3.8%, 「2」 19.6%, 「3」 19.7%
	5	1	29.5	70.2	0.3	「2」 31.6%, 「3」 11.0%, 「4」 27.6%
	6	3	53.6	45.9	0.5	「1」 6.8%, 「2」 25.5%, 「4」 13.6%
	7	4	57.8	41.8	0.4	「1」 8.2%, 「2」 15.5%, 「3」 18.1%
	8	3	31.6	67.5	0.9	「1」 32.0%, 「2」 20.9%, 「4」 14.6%
	9	2	64.1	35.6	0.3	「1」 8.2%, 「3」 7.2%, 「4」 20.2%
	10	1	50.5	48.9	0.6	「2」 20.4%, 「3」 9.2%, 「4」 19.3%
	11	3	65.5	34.1	0.4	「1」 9.2%, 「2」 7.5%, 「4」 17.4%
	12	4	36.4	63.2	0.4	「1」 37.7%, 「2」 12.1%, 「3」 13.4 %
	13	3	42.4	57.2	0.4	「1」 22.6%, 「2」 23.6%, 「4」 11.0%
	14	1	35.3	64.0	0.7	「2」 27.5%, 「3」 20.5%, 「4」 16.0%
	15	2	40.4	59.1	0.5	「1」 24.2%, 「3」 24.3%, 「4」 10.6%

【考察】リスニングテスト Part 1 の平均正答率は 52.2% であった。No.1, 2, 3, 9, 11 は内容を正確に理解できていると思われる、正答率は 6 割を超えている。しかし、No.5, 8, 12, 14 のように聞き取る内容が複雑になると正答率が下がり、4 割を切っている。特に No.5 は最も正答率が低く、29.5 % であった。質問文に対し、選択肢 2 で誤答になった生徒が 31.6 % もおり、また、質問文の疑問詞を正しく聞き取れずに選択肢 4 で誤答になった生徒も 27.6 % と多かった。No.8, 12, 14 は会話文に出てきた語彙に惑わされた誤答が目立った。聞き取った文章を正確に理解し、何を答えるべきか素早く判断できる能力を身に付ける必要がある。

リスニングテスト Part 2] まとまった英文と問いかけを聞き、それに対する応答として最も適切なものを選ばせることによって、英語を正確に聞き取る能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
リスニングテスト Part 2	16	4	78.9	20.9	0.2	「1」 7.6%, 「2」 7.8%, 「3」 5.5%
	17	1	74.9	24.9	0.2	「2」 7.5%, 「3」 9.4%, 「4」 8.0%
	18	4	42.0	57.6	0.4	「1」 18.2%, 「2」 28.3%, 「3」 11.1%
	19	1	52.9	46.3	0.8	「2」 21.7%, 「3」 14.1%, 「4」 10.5%
	20	4	38.0	61.5	0.5	「1」 10.7%, 「2」 8.9%, 「3」 41.9%
	21	2	55.3	44.3	0.4	「1」 17.9%, 「3」 10.7%, 「4」 15.7%
	22	3	59.4	40.3	0.3	「1」 5.9%, 「2」 17.5%, 「4」 16.9%
	23	2	54.1	45.4	0.5	「1」 9.4%, 「3」 18.8%, 「4」 17.2%
	24	3	67.2	32.5	0.3	「1」 20.8%, 「2」 6.2%, 「4」 5.5%
	25	4	34.6	65.2	0.2	「1」 13.8%, 「2」 30.1%, 「3」 21.3%
	26	2	38.9	60.8	0.3	「1」 21.1%, 「3」 29.0%, 「4」 10.7%
	27	3	28.0	71.5	0.5	「1」 15.2%, 「2」 14.9%, 「4」 41.4%
	28	1	48.5	50.9	0.6	「2」 18.8%, 「3」 16.2%, 「4」 15.9%
	29	3	35.8	63.8	0.4	「1」 20.8%, 「2」 29.7%, 「4」 13.3%
30	1	33.4	66.2	0.4	「2」 46.1%, 「3」 9.8%, 「4」 10.3%	

【考察】リスニングテスト Part 2 の平均正答率は 49.5%であった。No.16, 17, 24 は正答率が高く、正答率が 6 割を超えている。しかし、No.25, 26, 27, 30 は正答率が低く、4 割を切った。No.26 は質問文の疑問詞を正しく聞き取れず、場所を選んだ誤答が 29.0 %と目立った。また、正答率が 28.0 %と最も低かった No.27 は、遊園地での迷子案内放送で様々な情報が盛り込まれていたため、A を選択して間違った生徒が 41.4 %もいた。全体的に、聞き取る内容が複雑になると、単純に会話中に出てきた語句を選択する誤答が目立つ傾向がある。リスニングの練習を積み重ねるとともに、聞き取った状況を的確に把握する力を身に付けさせる必要がある。

## テストDについて

- ① コミュニケーションを図るために必要となる基礎的・基本的表現，語法事項など，言語に関する知識・理解をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
①	1	2	78.4	21.3	0.3	「1」 8.6%，「3」 8.3%，「4」 4.4%
	2	4	81.0	18.7	0.3	「1」 3.6%，「2」 5.4%，「3」 9.7%
	3	3	59.7	39.6	0.7	「1」 13.8%，「2」 16.6%，「4」 9.2%
	4	2	66.7	32.7	0.6	「1」 12.2%，「3」 13.2%，「4」 7.3%
	5	3	77.1	22.3	0.6	「1」 8.7%，「2」 8.1%，「4」 5.5%
	6	1	74.6	24.9	0.5	「2」 10.0%，「3」 8.2%，「4」 6.7%
	7	3	53.8	45.3	0.9	「1」 10.3%，「2」 12.9%，「4」 22.1%
	8	1	71.9	27.6	0.5	「2」 11.6%，「3」 9.0%，「4」 7.0%
	9	4	42.2	57.1	0.7	「1」 9.4%，「2」 21.3%，「3」 26.4%
	10	4	68.5	30.9	0.6	「1」 10.0%，「2」 10.5%，「3」 10.4%
	11	2	74.9	24.5	0.6	「1」 7.7%，「3」 11.3%，「4」 5.5%
	12	1	49.8	49.2	1.0	「2」 13.6%，「3」 19.7%，「4」 15.9%
	13	4	42.0	57.0	1.0	「1」 15.1%，「2」 18.6%，「3」 23.3%
	14	2	37.0	62.0	1.0	「1」 31.1%，「3」 13.3%，「4」 17.6%
	15	2	31.6	67.6	0.8	「1」 23.0%，「3」 29.2%，「4」 15.4%
	16	3	52.8	46.3	0.9	「1」 16.7%，「2」 15.8%，「4」 13.8%
	17	3	31.8	67.2	1.0	「1」 20.1%，「2」 26.0%，「4」 21.1%
	18	2	37.0	61.9	1.1	「1」 12.7%，「3」 30.9%，「4」 18.3%
	19	4	76.6	22.4	1.0	「1」 7.4%，「2」 7.3%，「3」 7.7%
	20	1	67.2	31.9	0.9	「2」 13.5%，「3」 11.0%，「4」 7.4%
	21	4	41.4	57.4	1.2	「1」 8.2%，「2」 25.2%，「3」 24.0%
	22	2	62.2	36.6	1.2	「1」 12.5%，「3」 14.8%，「4」 9.3%
	23	2	36.5	62.1	1.4	「1」 15.1%，「3」 30.1%，「4」 16.9%
	24	2	27.2	71.5	1.3	「1」 32.7%，「3」 19.0%，「4」 19.8%
	25	3	71.0	27.9	1.1	「1」 11.4%，「2」 9.3%，「4」 7.2%
	26	3	62.6	36.2	1.2	「1」 12.0%，「2」 14.4%，「4」 9.8%
	27	3	36.8	62.0	1.2	「1」 7.9%，「2」 36.2%，「4」 17.9%
	28	1	33.9	64.7	1.4	「2」 16.0%，「3」 32.9%，「4」 15.8%
	29	2	33.9	64.8	1.3	「1」 20.3%，「3」 17.1%，「4」 27.4%
	30	1	33.8	64.9	1.3	「2」 18.3%，「3」 25.8%，「4」 20.8%

【考察】全体の正答率は53.7%であり，正答率が50%を下回ったのは30問中14問であった。その中でもNo.15, 17, 24が特に低かった。No.15, 17は適切な形容詞を選ぶ問題だが，基本的な語句の正しい意味が理解できていない。No.24は適切な熟語表現を選ぶ問題だが，基本的な表現が定着していない。全体的には会話でよく用いられる表現や語句の意味に関しては正答率が高かったが，序数表現が理解できていなかったり，能動態と受動態の判断ができないなど，知識の定着は不十分である。

- 2 与えられた英語で語順正しく英文を構成することにより、言語に関する知識・理解と表現する能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
2	31	2	62.9	35.8	1.3	「1」13.4% 「3」15.7% 「4」6.7%
	32	3	69.6	29.1	1.3	「1」10.2% 「2」10.3% 「4」8.6%
	33	4	61.6	36.4	2.0	「1」11.7% 「2」14.0% 「3」10.7%
	34	4	38.1	60.3	1.6	「1」28.1% 「2」16.0% 「3」16.2%
	35	4	39.3	58.5	2.2	「1」16.9% 「2」21.3% 「3」20.3%

【考察】No.31～No.33は正答率60%以上であり、基本的な文章構成はできていたようだが、No.34の疑問詞で始まる疑問文が構成できず正答率は38.1%である。No.35はbecauseを用いた複文と連結表現を構成できず39.3%となっている。

- 3 コミュニケーションを図るために必要となる基礎的・基本的表現、語法事項など、言語に関する知識・理解をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
3	36	1	55.7	42.2	2.1	「2」19.6% 「3」18.1% 「4」4.5%
	37	1	68.6	29.4	2.0	「2」9.6% 「3」12.9% 「4」6.9%
	38	3	58.8	38.8	2.4	「1」7.5% 「2」21.8% 「4」9.5%
	39	1	26.3	70.9	2.8	「2」35.0% 「3」15.3% 「4」20.6%
	40	3	45.1	52.1	2.8	「1」17.1% 「2」14.1% 「4」20.9%

【考察】No.36～No.38は正答が一文であり、正答率50%を超えているが、No.39とNo.40は返答が二文となり、返答の一部から答えを推測することができず、50%を下回っている。英文を的確に把握し状況を判断できる能力を身に付ける必要がある。

- 4 英語による説明文を読んで、書かれている概要・要点を理解する能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
4	41	3	37.5	59.5	3.0	「1」14.6% 「2」34.9% 「4」10.0%
	42	4	46.4	50.2	3.4	「1」20.4% 「2」15.1% 「3」14.7%
	43	3	50.6	45.5	3.9	「1」13.9% 「2」20.2% 「4」11.4%
	44	3	53.1	42.9	4.0	「1」12.7% 「2」15.4% 「4」14.8%
	45	1	46.7	49.1	4.2	「2」21.4% 「3」14.2% 「4」13.5%
	46	4	36.6	58.8	4.6	「1」16.2% 「2」23.1% 「3」19.5%
	47	3	40.7	54.4	4.9	「1」21.0% 「2」19.6% 「4」13.8%
	48	1	29.8	64.8	5.4	「2」25.6% 「3」21.8% 「4」17.4%
	49	3	40.2	54.6	5.2	「1」14.6% 「2」22.0% 「4」18.0%
	50	2	42.3	52.5	5.2	「1」15.3% 「3」18.9% 「4」18.3%

【考察】No.41～No.45について、No.41は正答率が37.5%であり、英文中のyouが手紙を宛てた誰であるかを理解できず、差出人とする誤答率は34.9%であった。No.42とNo.45の正答率は50%を下回っており、質問は理解できても、英文を正確に捉えていないため誤答となってしまうケースが多くあるように見受けられた。

No.46～No.50については、全体を通して正答率が50%以下で誤答にもばらつきがあり、内容把握をきちんとできないままに問いに答えている様子が伺えた。特にNo.48は、質問に答える形式でなく、唯一文を完成させる形式であり正答率が極めて低い。部分的に与えられた英文から推測する力と、英文の内容を根気強く詳細に読み取る力を身に付けさせたいものである。

リスニング・・・Part 1 (問題 1 ~ 15) Part 2 (問題 16 ~ 30)

**リスニングテスト Part 1** 英語による対話文と問いかけを聞き、それに対する応答として最も適切なものを選ばせることによって、英語を正確に聞き取り、適切に応答する能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
リスニングテスト Part 1	1	3	76.0	22.8	1.2	「1」 8.1%, 「2」 10.8%, 「4」 3.9%
	2	4	77.4	21.9	0.7	「1」 3.1%, 「2」 6.8%, 「3」 12.0%
	3	2	62.9	36.5	0.6	「1」 9.0%, 「3」 25.0%, 「4」 2.5%
	4	3	77.6	22.0	0.4	「1」 7.4%, 「2」 7.4%, 「4」 7.2%
	5	2	79.7	19.9	0.4	「1」 6.3%, 「3」 6.0%, 「4」 7.6%
	6	2	73.0	26.3	0.7	「1」 7.9%, 「3」 8.0%, 「4」 10.4%
	7	1	48.7	50.7	0.6	「2」 11.6%, 「3」 18.4%, 「4」 20.7%
	8	4	76.2	23.6	0.2	「1」 3.5%, 「2」 15.4%, 「3」 4.7%
	9	1	57.8	41.7	0.5	「2」 19.5%, 「3」 15.5%, 「4」 6.7%
	10	3	46.6	52.9	0.5	「1」 5.9%, 「2」 7.1%, 「4」 39.9%
	11	1	54.5	45.0	0.5	「2」 20.3%, 「3」 12.8%, 「4」 11.9%
	12	3	60.0	39.6	0.4	「1」 7.1%, 「2」 17.7%, 「4」 14.8%
	13	1	47.2	52.2	0.6	「2」 18.6%, 「3」 20.4%, 「4」 13.2%
	14	1	49.0	50.3	0.7	「2」 14.6%, 「3」 16.3%, 「4」 19.4%
	15	2	32.4	67.1	0.5	「1」 9.6%, 「3」 36.5%, 「4」 21.0%

【考察】No.1 ~ No.6 は短い対話文であり正答率が高い。No.7 や No.15 のキーワードが聞き取れず、正答率が低い。No.12 は長い対話文であったが、答えが対話文の最後にあるもので正答率が高いのに対し No.10 は答えとなる部分に対話文の始めにあるもので把握できず低い正答率となっている。基本語彙の定着を図るとともに対話文の全体を聞き取り、内容を理解する能力を身に付ける必要がある。

**リスニングテスト Part 2** まとまった英文と問いかけを聞き、それに対する応答として最も適切なものを選ばせることによって、英語を正確に聞き取る能力をみる問題である。

問題番号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
リスニングテスト Part 2	16	3	35.7	63.7	0.6	「1」 6.3%, 「2」 49.5%, 「4」 7.9%
	17	4	42.3	57.3	0.4	「1」 16.3%, 「2」 19.7%, 「3」 21.3%
	18	1	74.7	24.8	0.5	「2」 6.9%, 「3」 8.5%, 「4」 9.4%
	19	4	37.5	62.1	0.4	「1」 7.8%, 「2」 19.6%, 「3」 34.7%
	20	2	49.9	49.6	0.5	「1」 13.2%, 「3」 15.8%, 「4」 20.6%
	21	2	48.2	51.3	0.5	「1」 31.6%, 「3」 12.6%, 「4」 7.1%
	22	3	31.4	67.8	0.8	「1」 25.9%, 「2」 23.9%, 「4」 18.0%
	23	3	46.9	52.6	0.5	「1」 9.6%, 「2」 11.6%, 「4」 31.4%
	24	4	26.3	73.2	0.5	「1」 11.9%, 「2」 40.5%, 「3」 20.8%
	25	4	45.5	54.0	0.5	「1」 9.9%, 「2」 8.5%, 「3」 35.6%
	26	3	57.7	41.7	0.6	「1」 6.6%, 「2」 25.8%, 「4」 9.3%
	27	1	60.0	39.3	0.7	「2」 14.6%, 「3」 8.9%, 「4」 15.8%
	28	2	29.0	70.4	0.6	「1」 12.8%, 「3」 45.2%, 「4」 12.4%
	29	1	37.0	62.6	0.4	「2」 34.4%, 「3」 18.3%, 「4」 9.9%
30	4	41.7	57.7	0.6	「1」 23.0%, 「2」 16.3%, 「3」 18.4%	

【考察】正答率の高い設問は答えが英文の後半にあり，正答率の低い設問では前半にあるという傾向がある。対話文全体を聞き取れず，内容を把握できていないと考えられる。その中でも How much ~，動物，スポーツ名など頻度の高い語句は聞き取れていたことから，語彙の定着とリスニングの練習の積み重ねによって，聞き取った状況を的確に把握する力を身に付けさせる必要がある。

### 3 分析のまとめと指導上の改善

#### <分析のまとめと課題>

##### (1) 全体的な傾向

各問題とも，理解力，表現力，思考力を重視しながら，英語によるコミュニケーションを図るために必要な英語力の定着をみようとした。

前年度と今年度では問題が異なるために比較は難しいが，全体の正答率で比較を試みってみる。平成 19 年度の各テストの正答率は，テスト B が 40.7%，テスト C が 47.9%，テスト D が 51.5%である。テスト B，C，D 全体の平均正答率は 46.7%となる。平成 18 年度の英語の平均正答率は 39%であった。平均正答率の上がった理由としては，昨年度の A，B，C テストセットから B，C，D テストセットに変更したため，より生徒の学力にあったテストを各高校で選択できたためと思われる。

なお，得点率を見ると，テスト B が 59.8%，テスト C が 55.2%，テスト D が 48.2%である。テスト B，C，D 全体の平均得点率は 54.4%となる。平成 18 年度の英語の平均得点率は 53.7%であった。

各級相当者数は，準 1 級レベルが 5 名（昨年度 7 名），2 級レベルが 176 名（昨年度 100 名），準 2 級レベルが 1,025 名（昨年度 960 名），3 級レベルが 4,202 名（昨年度 4,489 名），4 級レベルが 3,380 名（昨年度 3,438 名），4 級レベル以下が 6,518 名（昨年度 6,282 名）である。準 2 級レベル以上が全体の 7.9%（昨年度 7.0%），3 級レベルが全体の 27.5%（昨年度 29.4%），4 級レベルが全体の 22.1%（昨年度 22.5%），4 級レベル以下が全体の 42.5%（昨年度 41.1%）を占める。

全体的にみると，現高校 1 年生全体の英語力は，満足できるところまで達していないものと考えてよいだろう。また，準 2 級レベル以上と 4 級レベル以下の層が増え二極化が顕

#### <指導上の改善ポイント>

語彙力向上のために，語彙学習の機会を授業の中に計画的に組み込む。

単語小テストを継続的に実施する。

文脈から意味を推測する方法など，

語彙の効果的学習方法を教える。

文法を定着させるために，文法の基礎的事項について，宿題等も活用して学習させ確実に身につけさせる。また，学んだ文法事項を盛り込んだコミュニケーション活動を積み重ねる。

以上 については，生徒の実態に合わせて，練習問題等の基礎トレーニングを何度も繰り返すとともに，4 領域を有機的に関連付けた総合的なコミュニケーション活動を積み重ねることを通して，基本語彙を含めた基本文法や口語表現の定着と習熟を図ることが必要である。

表現力を育成するために，授業の中で「書くこと」の時間を確保する。

英語 における「読むこと」に関連づけた「書くこと」の活動を行う。

オーラル・コミュニケーション

では，「聞くこと」及び「話すこと」の指導の効果を高めるために，「書くこと」とも関連付けた活動を行う。

単語だけでなく熟語やイディオムなど連語が含まれた表現を与えて，それをを用いた「書くこと」の活動を行う。

読む力を養うために，文章の様々な読解方法を活用する。

概略を把握するためのスキミング

著となっている。

(2) 語彙・基礎的・基本的な文法・語法  
や慣用表現

「日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。」という学習指導要領の英語の目標を達成するためには、語彙力は非常に重要である。文法・語法・慣用表現についての問題である①について、テストB、C、D全体の平均正答率は43.7%（昨年度は34.1%）であり、定着がまだ十分とは言えない。

授業でよく使われる日常会話の初歩的な語彙・熟語は理解できている。

文の前後関係や会話のやりとりから判断して語彙・熟語を選択したり文法事項を理解した上で解答するといったやや複雑な設問になると正答率が低い。

課題1：語彙力が低下し文法の理解が不足している。

(2) 表現力

表現力には、音声による表現力（話す力）と文字による表現力（書く力）がある。本調査では話す力は把握できないため、書く力について語句整序問題である②の結果から述べる。テストB、C、D全体の平均正答率は43.7%（昨年度は27.0%）である。英文を構成する力や表現力の基礎はある程度身に付いていると判断できるが、総じて不十分である。

基本的な定型表現はある程度理解し活用できている。

単語だけでなく熟語やイディオムなど連語が含まれやや複雑な設問になると、正しく英文を構成することが困難になる傾向がある。

課題2：連語を含んだ表現の英作文が弱い。

(3) 理解力

理解力には、音声による理解力（聞く力）と文字による理解力（読む力）がある。

(skimming) 指導

必要な情報を選び出すためのスキヤニング (scanning) 指導

英文の内容と表現を深く詳細に分析しながら読むための精読

(intensive reading) 指導

教室外での多読 (extensive reading) の奨励

以上をバランスよく指導していく。

聴く力を養うために、英語を聞かせる機会を多く設定する。

教師が授業において英語を使用する割合を増やす。

生徒に聴くポイントやヒントを随時与えて、目的を持ったリスニングを多く経験させる。

まとまった文章をメモをとりながら聴き取るテクニックを教え、その訓練をしばしば行う。

以上各技能の改善点の他、以下4技能全般の改善点にも十分留意していく。

段階的指導の充実を

授業では生徒の興味・関心・意欲と習熟の状況に見合った英語を、段階的に無理なく多用していくことが重要である。

また、この種の試験においては、より生徒のレベルに応じたテストを各高校で選択し、モチベーションをあげる必要があると思われる。

中学校での指導内容との連結への配慮を

中学校では音声によるコミュニケーションを重視した指導が行われていることを踏まえ、高等学校の初期においては、「聞くこと」及び「話すこと」の言語活動を多く取り入れ、生徒が抵抗なく高等学校での授業を受けられるようにするとともに、次第に「読むこと」及び「書くこと」の言語活動の比重を高めながら、4領域にわたる実践的コミュニケーション能力を育成することが求められる。特に、高校導入期に、中学校英語の総復習をす



読み取りについては、平易な説明文の概要を読み取る力はおおむね身に付いていると言える。しかし、語彙力不足に加え、小説や物語文を読むことや英問英答の形式に慣れ親しんでいないことから、登場人物の心の動きを把握し、適切に回答する力が不足している。

基本的な5W1Hの問いかけの解答状況を見ると、大意を把握する力はある。

表現形態を変えた文章になると的確にとらえられないため、意味を正しく理解する力が不十分である。

課題3：精読の訓練が不十分である。

リスニングにおいては、対話とまとまったテーマの英文を聞いてその内容に答える設問については、内容が分かりやすいものは正答率が高い。

内容がやや複雑になると、質問文の疑問詞を正しく聞き取れず、単純に会話中に出てきた語句を選択する傾向があり、順序立てて記憶したり、設問内容を正確に聞き取って適切に答える力が不足している。

課題4：疑問詞などポイントとなる語彙の正確な聞き取りと記憶を助けるためのメモの取り方等の訓練が不十分である。



るなど、中学校での指導内容との連携に配慮する。

生徒の興味・関心を持続させるために、飽きさせない工夫をするとともに、英語の授業を英語で行う割合を増やすように努める。

語学学習に王道はないが、常に生徒の実態に留意しつつ、指導方法・手段を修正し、段階的に教える必要がある。教師も生徒も不断の努力と教師の飽きさせない工夫が大切である。また、英語の授業を英語で行う割合を数パーセントでも増やすよう心がける。

それは、授業の雰囲気高め、教員の英語力の向上を促すものとなる。また、英語の教員がTeacher Talkで、生徒のレベルに応じた英語を使用することにより、リスニングへの苦手意識を取り払うことにもつながる。さらに、英語科目は実技に近いものと認識し、文法等は知識だけで終わることのないように、使えるレベルになるまで様々な活動を取り入れて定着させる必要がある。

		テストB		テストC		テストD	
分野	問題番号	正答率	分野別正答率	正答率	分野別正答率	正答率	分野別正答率
語彙	No.1	72.8%	36.3%	94.2%	41.1%	78.4%	53.7%
	No.2	84.0%		77.5%		81.0%	
	No.3	66.8%		69.8%		59.7%	
	No.4	74.4%		77.1%		66.7%	
	No.5	47.5%		48.8%		77.1%	
	No.6	29.2%		46.2%		74.6%	
	No.7	23.7%		40.0%		53.8%	
	No.8	15.4%		50.1%		71.9%	
	No.9	31.9%		50.4%		42.2%	
	No.10	19.0%		25.5%		68.5%	
	No.11	27.4%		40.8%		74.9%	
	No.12	30.7%		28.8%		49.8%	
	No.13	26.5%		19.9%		42.0%	
	No.14	19.6%		19.5%		37.0%	
	No.15	17.1%		55.3%		31.6%	
	No.16	53.7%		62.0%		52.8%	
	No.17	16.2%		57.8%		31.8%	
	No.18	19.2%		40.1%		37.0%	
	No.19	51.9%		30.2%		76.6%	
	No.20	38.7%		27.9%		67.2%	
	No.21	31.3%		32.2%		41.4%	
	No.22	21.0%		22.8%		62.2%	
	No.23	37.2%		10.1%		36.5%	
	No.24	35.6%		27.6%		27.2%	
	No.25	10.8%		52.3%		71.0%	
	No.26	37.2%		28.9%		62.6%	
	No.27	47.2%		27.6%		36.8%	
	No.28	38.6%		17.7%		33.9%	
	No.29	33.0%		33.8%		33.9%	
	No.30	33.2%		19.7%		33.8%	
文章	No.31	71.1%	30.7%	53.4%	46.2%	62.9%	54.2%
	No.32	14.8%		54.4%		69.6%	
	No.33	42.1%		42.6%		61.6%	
	No.34	17.6%		52.5%		38.1%	
	No.35	8.3%		28.5%		39.3%	
読解	No.36	86.5%	42.5%	92.0%	53.3%	55.7%	45.2%
	No.37	72.6%		78.4%		68.6%	
	No.38	70.9%		64.8%		58.8%	
	No.39	38.9%		51.9%		26.3%	
	No.40	41.2%		30.5%		45.1%	
	No.41	40.8%		74.1%		37.5%	
	No.42	36.6%		75.8%		46.4%	
	No.43	28.9%		62.6%		50.6%	
	No.44	41.9%		53.8%		53.1%	
	No.45	38.8%		49.1%		46.7%	
	No.46	33.6%		23.4%		36.6%	
	No.47	24.9%		41.9%		40.7%	
	No.48	29.6%		33.4%		29.8%	
	No.49	29.6%		29.8%		40.2%	
	No.50	24.0%		39.6%		42.3%	
		テストA		テストB		テストC	
分野	問題番号	正答率	分野別正答率	正答率	分野別正答率	正答率	分野別正答率

英語

テスト別正答率一覧

リスニング	No.51	80.5%	53.1%	78.1%	50.8%	76.0%	52.7%
	No.52	88.7%		74.2%		77.4%	
	No.53	59.8%		67.4%		62.9%	
	No.54	45.6%		56.1%		77.6%	
	No.55	81.0%		29.5%		79.7%	
	No.56	68.5%		53.6%		73.0%	
	No.57	60.3%		57.8%		48.7%	
	No.58	67.5%		31.6%		76.2%	
	No.59	53.3%		64.1%		57.8%	
	No.60	38.2%		50.5%		46.6%	
	No.61	39.2%		65.5%		54.5%	
	No.62	24.0%		36.4%		60.0%	
	No.63	52.2%		42.4%		47.2%	
	No.64	20.1%		35.3%		49.0%	
	No.65	18.5%		40.4%		32.4%	
	No.66	75.1%		78.9%		35.7%	
	No.67	75.5%		74.9%		42.3%	
	No.68	71.4%		42.0%		74.7%	
	No.69	52.0%		52.9%		37.5%	
	No.70	56.2%		38.0%		49.9%	
	No.71	66.2%		55.3%		48.2%	
	No.72	54.8%		59.4%		31.4%	
	No.73	56.2%		54.1%		46.9%	
	No.74	40.8%		67.2%		26.3%	
	No.75	41.7%		34.6%		45.5%	
	No.76	22.7%		38.9%		57.7%	
	No.77	43.6%		28.0%		60.0%	
	No.78	39.4%		48.5%		29.0%	
No.79	43.3%	35.8%	37.0%				
No.80	58.2%	33.4%	41.7%				
平均正答率		43.5%	47.4%	51.8%			
A,B,Cの平均正答率		47.6%					

# 平成19年度 みやぎ学力状況調査 質問紙調査結果(1学年)

## Q1 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在もっとも強く希望しているのは次のうちどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	
17.7	37.5	45.8	21.7	19.6	31.5	31.0	4年制国立大学
10.7	13.6	15.4	6.8	8.5	11.6	10.6	4年制私立大学
2.4	3.1	3.1	4.5	3.1	3.3	3.6	短期大学
19.9	15.2	11.7	20.0	20.9	16.6	17.8	専修学校・各種学校
25.4	12.5	9.8	23.8	23.1	17.2	16.8	民間就職
5.0	2.8	2.2	4.9	5.3	3.7	3.5	公務員就職
0.5	0.2	0.0	0.8	0.4	0.3	0.3	家業
14.1	12.8	10.3	14.6	16.4	13.2	13.9	未定
2.9	2.1	1.3	2.4	2.0	2.0	1.8	その他
1.3	0.3	0.5	0.6	0.7	0.6	0.6	記入ミス・無答

- ・ ~ までを含めた進学希望者63.0%は昨年度と同じ。
- ・ 4年制大学・短大への進学希望者( ~ )が46.4%で、昨年度より1.8ポイント増加。
- ・ ~ の就職希望者は21.3%と昨年度より0.6ポイント増加。
- ・ の未定と のその他を選択した者は合わせて15.2%であり、昨年度より0.5ポイント低下。
- ・ 進学希望者が頭打ちになるなかで就職希望者は昨年度からの微増傾向。

## Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	
50.2	51.4	53.4	48.9	49.2	51.0	48.6	卒業までに絶対達成しようと思っている。
11.9	9.9	10.4	10.6	13.5	11.0	12.2	達成するまで、卒業後1,2年かかってまかまわれないと思っている。
20.2	21.6	21.7	21.5	19.7	21.1	21.1	卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている。
10.7	11.7	9.7	11.3	10.5	10.7	11.8	何とかなるだろうと思っている。
5.9	5.2	4.2	6.9	5.9	5.4	5.5	あまり考えないようにしている。
1.1	0.3	0.6	0.8	1.2	0.7	0.9	記入ミス・無答

- ・ 昨年度5.7ポイント減少した「卒業までに絶対達成しようと考えている者」及び「卒業後1,2年かかって達成したいという者」が1.3ポイント回復。
- ・ のように進路に対してのこだわりが弱い層は昨年度と同様。
- ・ のような進路意識の希薄な層が1.2%減少。
- ・ 進路に対する強い意志をもつ者が5割を超え、進路意識そのものは多少の向上。
- ・ 進路に対してのこだわりが弱い層の割合が2割を超えた状態で固定化。

## Q3 ふだんどんな気持ちで勉強していますか。最も強く思っているものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	
10.6	12.3	11.7	10.0	10.5	11.2	10.5	分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい。
14.5	12.4	13.2	11.4	11.9	12.5	12.8	多くのことを知り社会に出て役立つ力を身につけたい。
13.0	12.5	13.4	10.5	14.4	12.8	11.7	入学試験や就職試験に備えたい。
0.8	1.0	0.9	1.2	0.8	0.9	0.8	親や先生にほめられたい。
29.6	32.6	35.6	34.1	31.9	33.3	33.0	成績を上げたい。
3.4	3.2	2.3	3.3	3.1	3.0	3.2	先生や家族に言われるから勉強している。
23.5	22.2	18.7	25.7	23.7	22.3	23.0	特に考えていない。
3.0	3.2	3.1	2.9	3.1	3.1	3.5	その他
1.6	0.7	1.1	0.9	0.7	0.9	1.5	記入ミス・無答

- ・ 昨年同様、 の成績向上を意識して勉強している者が33.2%と高い。
  - ・ の知的好奇心・探求心や社会で役立つことを意識している者が合わせて23.8%。
  - ・ ~ の学習に消極的な層が全体の約30%近くいる。
- 学習への意欲を喚起し興味・関心を引き出す授業や教育活動への改善が望まれる。**

## Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	
6.2	7.4	7.4	4.9	8.0	6.6	5.9	ほとんどの授業がよく理解できる。
32.1	35.0	35.0	29.7	34.1	34.4	32.8	理解できる授業の方が多い。
46.0	42.9	42.9	46.6	42.6	43.1	43.6	理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある。
11.3	11.2	11.2	13.5	12.0	12.1	13.0	理解できない授業の方が多い。
2.5	2.7	2.7	4.3	2.7	2.9	3.2	ほとんどの授業が理解できない。
1.9	0.7	0.7	1.1	0.6	1.0	1.5	記入ミス・無答

- ・ だいたい理解できると回答した者は と を合わせて41.0%で、H17からの調査以来初めて40%を超え、昨年と比べ2.3ポイント増加。
  - ・ あまり理解できないと回答した者は と を合わせて14.9%で昨年度と比べ1.3ポイント減少。
  - ・ の理解できる授業と理解できない授業が半々という層も減少。
- 全体としては、授業がわかりやすいと感じている層が増えている。分かる授業に向けての各学校での工夫・改善が見て取れる結果であり、同時に授業改善に向けての果の施策のさらなる充実が求められている。**

Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	
65.1	62.8	64.8	51.8	60.1	61.0	52.0	自分で調べる。
43.1	37.0	37.3	36.7	40.4	38.3	32.7	学校の先生に質問する。
72.5	70.3	71.7	68.7	71.7	70.9	70.3	友達に聞く。
25.1	19.0	21.6	18.6	17.4	20.0	16.1	家族に聞く。
18.7	17.7	17.0	13.1	13.0	15.9	11.9	塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
30.9	22.4	22.4	25.8	23.9	24.2	22.2	そのまましておく。
13.8	6.6	5.3	7.2	5.8	6.9	3.3	その他

主に学校内で解決を図るものなかで、  
 ・最も多いのが「友達同士で解決する」場合で、今年度は2番目の「自分で調べる」傾向が大幅に強くなり、「学校の先生に質問する」が一番低い。  
 ・「そのまましておく」と回答した者も依然多い。  
**生徒の理解度を計画的にチェックする等の教員の工夫が必要である。**

Q6 次の教科のうち、最も得意だと感じる教科はどれですか。また、最も不得意だと感じる教科はどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	得意教科
19.9	19.1	18.5	17.1	18.5	18.5	19.4	国語
10.9	13.0	11.6	11.3	11.0	11.7	10.3	地理歴史
2.3	4.3	4.9	2.8	3.3	3.8	4.1	公民
20.0	20.9	21.1	21.4	21.7	21.1	20.6	数学
12.1	12.0	12.3	12.5	11.0	12.0	11.7	理科
13.2	13.8	15.3	15.7	14.5	14.7	14.4	英語
8.4	6.0	6.2	6.2	8.0	6.7	7.4	専門教科
10.4	9.4	9.1	11.6	9.8	9.9	10.0	その他
2.9	1.5	1.1	1.5	2.1	1.6	2.1	記入ミス・無答

・数学、国語、英語、理科、地理歴史の順番であり、昨年までと同様。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	不得意教科
6.2	12.4	12.2	11.4	9.9	11.0	10.0	国語
11.3	9.9	8.7	11.5	10.6	10.2	10.2	地理歴史
2.5	2.4	2.9	2.7	3.5	2.8	2.5	公民
28.5	31.4	33.8	27.5	27.5	30.3	30.1	数学
11.1	7.7	9.3	8.3	9.2	8.9	9.8	理科
30.1	29.3	27.8	29.0	30.6	29.1	29.7	英語
4.5	3.1	2.2	5.7	4.4	3.7	3.3	専門教科
2.3	2.3	1.8	2.2	1.7	2.0	2.0	その他
3.6	1.5	1.3	1.7	2.7	1.9	2.4	記入ミス・無答

・数学、英語、国語、地理歴史、理科の順番。  
 ・昨年度と比べ、地理歴史と国語の順位が逆転し、国語を不得意とする回答の割合が増加。  
 ・英語、理科を不得意とする回答が昨年度よりわずかに減少。  
 ・数学は昨年同様不得意が得意を上回っているが、理科については得意が不得意を上回っている。  
**数学又は英語を不得意と感じている約6割の生徒に対し、学習習慣確立に向けての支援をする等の工夫が必要である。**

Q7 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	
16.5	16.1	17.9	13.0	9.9	14.9	16.1	ほとんど毎日出ている。
30.7	36.2	40.5	34.7	34.0	36.2	34.4	週に2～3回出ている。
32.7	28.4	31.5	33.8	29.9	31.1	31.6	週に1回ぐらい出ている。
17.6	17.9	9.4	16.9	24.9	16.5	16.3	ほとんど出ていない。
2.6	1.4	0.7	1.6	1.3	1.4	1.5	記入ミス・無答

・～を合わせて、週あたり何らかの宿題・課題が出される割合が昨年度とほぼ同じ82.1%。  
 ・ほとんど宿題が出されない割合も昨年度と同様。

Q8 あなたが受けたい授業はどんな授業ですか。最も近いものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	
35.4	34.0	34.9	38.7	40.2	36.5	35.6	基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
5.0	7.2	7.9	5.6	5.0	6.5	6.5	発展的な内容まで教えてくれる授業
37.6	40.5	39.2	37.1	35.3	38.2	38.5	興味や関心がもてるような授業
13.7	13.2	14.2	11.4	12.9	13.1	12.7	進路希望達成につながる授業
6.8	4.1	3.3	6.0	5.8	4.8	5.5	資格取得につながる授業
1.6	1.0	0.5	1.3	0.9	1.0	1.2	記入ミス・無答

・昨年度同様、興味・関心がもてる授業を期待する声が最も高い。  
 ・次いで基礎・基本からじっくりわかるまで教えてくれる体制を望んでいる。  
**生徒の期待に応えるこれらの授業や体制を実現する授業改善や体制づくりに、さらに各校の取組が望まれる。**

Q9 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	
35.1	32.0	27.5	36.8	39.3	33.3	33.9	全く、またはほとんどしない。
14.2	13.1	13.7	12.8	12.0	13.1	12.7	30分より少ない。
14.3	16.0	17.9	16.4	14.6	16.2	17.0	30分～
22.0	22.9	26.4	22.5	21.3	23.5	22.6	1時間～
9.3	11.7	11.3	8.6	9.5	10.3	9.8	2時間～
2.0	2.6	2.2	1.4	2.0	2.1	2.1	3時間～
0.7	0.6	0.2	0.6	0.3	0.4	0.4	4時間～
0.4	0.4	0.4	0.1	0.2	0.3	0.2	5時間以上
2.0	0.7	0.3	0.8	0.7	0.7	1.2	記入ミス・無答

- ・ 昨年度より0.6ポイント減少しているものの平日に家庭学習をしない者が33.3%で、全体の回答の第1位。
  - ・ 昨年度減少した～の家庭学習にしっかり取り組んでいる層は今年度0.7ポイント増加。
  - ・ 総じて30分～1時間前後に回答が集まる傾向。
  - ・ ～の合計は昨年度とほぼ同じであり、全体の85.9%が2時間未満の家庭学習時間。
- 家庭学習時間1時間以上の者は36.6%であるが、この学年の中学2年生での調査(平成17年度宮城県学習状況調査)において、1時間以上の者が52.4%であったことを考えるなら、家庭学習定着のための意識付け及び学習時間増加へのさらなる取組が望まれる。**

Q10 休日に、どのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	
36.8	29.3	23.5	35.0	39.4	31.4	31.8	全く、またはほとんどしない。
10.9	10.6	9.6	11.3	10.3	10.4	10.4	30分より少ない。
10.7	12.0	11.3	12.4	10.0	11.4	11.5	30分～
17.3	17.2	20.3	19.3	17.1	18.5	18.3	1時間～
13.2	15.0	18.0	13.9	12.8	15.1	14.6	2時間～
5.7	9.2	10.5	5.2	5.9	7.8	6.9	3時間～
2.6	4.0	3.9	1.4	2.2	3.0	3.0	4時間～
0.7	1.4	1.7	0.5	0.8	1.1	1.2	5時間～
0.3	0.4	0.5	0.2	0.3	0.4	0.6	6時間～
0.3	0.2	0.4	0.2	0.2	0.3	0.3	7時間以上
1.6	0.6	0.3	0.7	0.9	0.7	1.3	記入ミス・無答

- ・ 休日に家庭学習をしない者が昨年度より0.4ポイント減少し、平日より低い割合。
- ・ 2時間以上の回答(～)が1.3ポイント増加、休日には家庭学習時間を増やしている者の割合が増加傾向にある。

Q11 家庭学習のしかたに、最も近いものはどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	
11.8	15.6	17.1	11.4	11.7	14.1	13.0	ほぼ毎日している。
4.2	4.9	4.4	4.1	4.7	4.5	4.5	主に平日にしている。
5.8	6.9	8.1	6.3	5.9	6.8	6.0	主に休日にしている。
35.9	36.0	37.9	36.1	32.8	36.0	36.1	主に宿題・課題があるときと定期考査前にしている。
6.2	4.1	4.4	4.6	3.4	4.4	5.1	主に宿題・課題のあるときにしている。
6.4	7.5	6.5	6.7	9.0	7.2	4.6	主に定期考査前にしている。
1.5	1.8	1.4	1.6	1.4	1.5	1.6	主に塾・予備校のあるときや家庭教師の先生がくるときにしている。
14.6	12.4	11.5	14.2	15.3	13.3	13.3	気が向いたときにしている。
11.3	9.2	7.3	12.7	14.3	10.5	10.8	家庭学習はほとんどしない。
0.9	1.1	0.9	1.4	0.9	1.0	1.1	その他
1.3	0.6	0.5	0.8	0.6	0.7	1.1	記入ミス・無答

- ・ ほぼ毎日している割合が昨年度より1.2ポイント増加。
  - ・ ほとんどしない割合が0.3ポイント減少。
  - ・ の宿題・課題と定期考査前のみ家庭学習をする割合は4割を超える。
  - ・ 家庭学習の習慣が身に付いていると考えられるの合計は18.7%であるが、依然約8割の生徒には家庭学習の習慣化がみられない。
- 学校と家庭の連携、授業を中心とした学校の体制づくりのなかから、家庭学習の推進が望まれる。**

Q12 次の教科のうち、家庭学習で最も力を入れて取り組んでいる教科はどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	
6.8	5.0	4.4	5.7	7.0	5.5	5.4	国語
6.3	5.4	4.2	5.1	5.4	5.1	5.7	地理歴史
1.6	0.8	1.3	2.5	1.8	1.5	1.5	公民
29.9	46.0	45.4	37.3	28.9	39.3	37.0	数学
7.1	3.7	4.1	4.4	7.3	5.0	5.0	理科
19.1	22.0	25.4	22.1	25.0	23.3	23.7	英語
15.9	7.6	6.6	9.6	10.3	9.1	9.6	専門教科
9.8	8.0	7.4	11.0	12.5	9.4	9.6	その他
3.5	1.4	1.1	2.3	1.8	1.8	2.5	記入ミス・無答

- ・ 昨年同様、数学、英語に力を入れて取り組んでいる割合が高い。
- ・ 一方で、Q6の不得意教科は、数学、英語という回答が最も多い。

**Q13 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	
14.8	12.6	12.2	15.4	14.9	13.7	14.2	家庭学習の方法が分からない。
19.9	26.6	27.9	24.1	23.2	25.2	25.3	家庭学習に集中できない。
15.2	14.2	14.0	15.2	14.2	14.5	14.2	学習の計画を立てても長続きしない。
21.5	22.4	22.9	18.5	19.4	21.2	21.1	家庭学習と部活動の両立が難しい。
6.2	5.4	6.0	6.0	5.8	5.9	5.6	家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
3.7	3.6	4.0	3.0	2.9	3.5	3.6	その他
16.3	14.1	12.2	16.5	18.2	15.0	14.1	特に悩みはない。
2.3	1.1	0.8	1.2	1.4	1.2	1.8	記入ミス・無答

・8割以上の者が何らかの悩みを抱えていることがわかる。  
 ・中でも「家庭学習に集中できない」、「家庭学習と部活動の両立が難しい」とする者の割合が高い。  
 昨年度も同様の結果であったが、集中を阻害する要因を探りながら家庭学習に集中できる環境づくりを保護者に考えてもらうよう家庭との連携を進めていく必要がある。  
 ・「家庭学習の方法が分からない」者が昨年度より減少してはいるものの、13.7%となっている。  
 「学習の計画を立てても長続きしない」、「家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない」にも大きく関わるものと考えられる。授業や学習カウンセリング等を通して、具体的な学習方法について指導する必要がある。

**Q14 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	
4.1	7.1	7.0	3.7	3.9	5.5	5.5	家庭学習
24.1	24.0	23.7	25.2	22.7	23.9	23.4	テレビやビデオ
12.8	10.7	10.1	10.1	11.1	10.7	4.3	ゲームやパソコン H18 ゲーム
23.2	18.4	18.9	26.7	25.5	22.0	20.3	電話やメール
3.4	3.5	3.7	4.4	4.3	3.9	3.8	読書
15.8	17.4	17.1	15.2	16.0	16.5	23.2	自分の趣味( , を除く)
3.8	3.6	4.6	2.5	3.3	3.7	3.7	家族との会話
1.5	1.2	0.9	1.4	1.5	1.2	1.3	手伝い
7.9	12.3	12.2	9.0	9.4	10.7	11.5	その他
3.4	1.8	1.6	1.8	2.4	2.0	2.7	記入ミス・無答

・「テレビやビデオ」、「電話やメール」、「自分の趣味」の時間が多く、この3項目を合わせると66.2%で、Q13の「家庭学習に集中できない」理由の一端を窺うことができる。  
 ・「電話やメール」の割合が年々増加してきており、昨年度より1.7ポイント増加。  
 ・ゲームやパソコンについては、昨年度より6.4ポイント増加しているが、今年度項目内にパソコンを追加したための増加と考えられる。その分 自分の趣味が6.7ポイント減少。  
 家庭での携帯電話の使用については家庭に考えてもらうよう学校からの呼びかけ等が必要である。

**Q15 平日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	
5.4	7.4	7.6	5.3	6.1	6.6	6.3	全く、またはほとんど見ない。
4.1	6.1	6.2	5.1	5.5	5.6	5.4	30分より少ない。
8.6	11.3	12.1	8.2	8.5	10.2	9.4	30分～
21.3	25.4	27.5	21.8	22.3	24.3	24.4	1時間～
25.8	24.6	24.6	23.6	23.4	24.3	24.2	2時間～
17.3	13.9	12.8	18.7	16.5	15.4	15.2	3時間～
9.2	5.8	5.3	8.9	8.0	7.0	7.5	4時間～
6.5	4.5	2.9	7.4	8.2	5.5	5.7	5時間以上
1.9	1.0	0.8	1.2	1.5	1.2	1.7	記入ミス・無答

・3時間以上見ている者は28.4%であり、中でも約8人に1人は4時間以上見ている。  
 テレビやビデオの視聴が「家庭学習に集中できない」理由の一つになっていると考えられる。

**Q16 平日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	
42.4	44.6	45.4	46.8	46.1	45.3	62.4	H18は「ゲームをしますか」 全く、またはほとんどしない。
12.4	12.4	13.6	10.5	11.2	12.2	8.5	30分より少ない。
10.5	12.1	12.8	10.8	10.5	11.6	8.4	30分～
15.5	15.6	15.4	16.3	13.9	15.3	10.5	1時間～
8.2	8.1	7.0	7.7	8.7	7.8	5.1	2時間～
4.1	3.6	2.7	4.1	4.4	3.6	2.1	3時間～
2.6	1.5	1.2	1.2	1.9	1.6	0.6	4時間～
1.8	1.3	1.3	1.7	2.1	1.6	0.9	5時間以上
2.4	0.8	0.5	0.8	1.2	1.0	1.5	記入ミス・無答

・「テレビやビデオ」に比べて、平日にゲームを行っている者は少なく、「全く、またはほとんどしない」、「30分より少ない」を合わせると約6割弱である。  
 ・ゲームやパソコンを行っている者をみると、1時間以上2時間未満の者が15.4%と最も高い。

**Q17 平日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	
15.2	13.1	13.5	12.1	12.2	<b>13.1</b>	11.9	全く、またはほとんどしない。
18.2	20.4	22.4	16.1	16.9	<b>19.3</b>	19.2	30分より少ない。
12.1	17.7	16.3	13.3	13.0	<b>15.0</b>	15.2	30分～
15.3	17.1	17.5	17.0	15.8	<b>16.8</b>	16.9	1時間～
11.8	11.5	11.8	12.5	12.2	<b>12.0</b>	12.4	2時間～
10.5	8.4	7.2	11.1	10.7	<b>9.2</b>	9.5	3時間～
5.7	3.3	3.7	5.8	6.0	<b>4.7</b>	4.6	4時間～
8.4	7.3	6.6	10.8	11.5	<b>8.7</b>	8.3	5時間以上
2.7	1.3	0.9	1.3	1.6	<b>1.4</b>	2.0	記入ミス・無答

- ・1時間以上電話やメールを行っている者は、昨年度とほぼ同じ51.1%を占めている。
- ・3時間以上の者は、昨年度同様、22.3%にもなっており、「家庭学習に集中できない」大きな要因になっている。
- ・Q9での家庭学習を「全く、またはほとんどしない」33.3%の生徒の生活状況が推測できる。

**Q18 平日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	
54.6	58.5	55.0	52.9	54.9	<b>55.3</b>	54.2	全く、またはほとんどしない。
16.9	16.8	19.3	19.5	16.3	<b>18.0</b>	18.2	30分より少ない。
12.7	10.5	12.9	12.2	11.9	<b>12.0</b>	11.6	30分～
7.6	7.7	7.6	7.8	8.9	<b>7.9</b>	8.5	1時間～
3.4	2.9	2.8	4.0	3.7	<b>3.3</b>	3.3	2時間～
1.4	1.5	1.3	1.5	1.7	<b>1.5</b>	1.4	3時間～
0.6	0.5	0.3	0.5	0.7	<b>0.5</b>	0.5	4時間～
0.6	0.4	0.5	0.8	0.7	<b>0.6</b>	0.7	5時間以上
2.2	1.0	0.4	0.7	1.2	<b>0.9</b>	1.7	記入ミス・無答

- ・半数以上の者が「全く、またはほとんどしない」状況で、平日の読書はあまり習慣化されていない。
  - ・1時間以上読書する者は13.7%である。
- 朝読書を取り入れている学校が増加しているものの、読書の楽しさ等を伝える努力とともに、家庭や学校において習慣化を図る工夫が望まれる。**

**Q19 学校に行く前に朝食をとりますか。** H19新設した質問

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	2年	
65.9	72.6	76.2	69.1	68.9	<b>71.6</b>	69.0	必ずとる。
16.3	14.9	13.7	16.8	16.6	<b>15.4</b>	15.8	たいていとる。
7.6	5.9	5.2	6.6	7.0	<b>6.2</b>	7.6	とらないことが多い。
6.7	4.4	3.8	5.8	5.9	<b>5.0</b>	6.0	全く、または、ほとんどとらない。
3.5	2.1	1.0	1.6	1.5	<b>1.7</b>	1.5	記入ミス・無答

- ・今年度新設した質問項目である。
- ・学校に行く前に朝食を必ず及びたいていとる者が87.0%である。
- ・きちんと朝食をとる習慣のない者が11.2%である。

**Q20 休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	
2.7	4.4	5.7	2.1	2.9	<b>3.9</b>	3.6	家庭学習
18.1	18.7	19.9	21.3	19.9	<b>19.7</b>	18.3	テレビやビデオ
15.7	13.0	12.2	13.0	13.0	<b>13.1</b>	6.5	ゲームやパソコン H18 ゲーム
15.8	11.3	10.5	18.7	16.2	<b>13.9</b>	11.6	電話やメール
2.4	2.6	2.5	2.7	2.7	<b>2.6</b>	2.4	読書
21.8	24.0	25.7	21.2	23.3	<b>23.6</b>	31.2	自分の趣味
2.3	3.0	3.0	1.9	2.1	<b>2.5</b>	2.6	家族との対話
1.8	1.5	1.3	1.7	1.8	<b>1.6</b>	1.8	手伝い
15.8	18.3	17.0	15.0	14.0	<b>16.2</b>	17.5	その他
3.5	3.2	2.4	2.4	4.1	<b>3.0</b>	4.4	記入ミス・無答

- ・「自分の趣味」の割合が高くなっており、次いで「テレビやビデオ」の順となっている。
- ・「電話やメール」の割合は平日と比べると低くなっている。



Q21 休日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	
3.6	4.8	5.1	3.9	4.6	4.5	4.4	全く、またはほとんど見ない。
2.3	3.4	2.7	2.6	2.9	2.8	2.5	30分より少ない。
3.4	5.0	5.1	3.7	4.5	4.5	3.9	30分～
10.8	14.2	15.2	10.9	11.2	12.9	11.9	1時間～
15.8	21.5	22.5	17.9	18.1	19.9	19.2	2時間～
19.2	18.1	19.8	17.9	18.9	18.8	19.0	3時間～
15.4	12.8	12.5	14.0	11.8	13.1	13.2	4時間～
11.6	9.4	8.5	12.2	11.5	10.3	11.1	5時間～
5.9	3.8	3.3	6.5	5.4	4.7	5.1	6時間～
10.2	6.2	4.4	9.2	9.3	7.2	7.5	7時間以上
1.7	0.9	0.8	1.4	1.9	1.2	2.1	記入ミス・無答

- ・3時間以上見ている者は54.0%と半数を超えている。
- ・約8人に1人は6時間以上もテレビやビデオを見ている。
- ・「家庭学習に集中できない」大きな理由となっていると考えられる。

Q22 休日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	
33.5	35.4	35.5	38.7	37.5	36.3	54.0	H18は「ゲームをしますか」 全く、またはほとんどしない。
8.9	9.7	11.4	8.9	9.4	9.9	6.8	30分より少ない。
7.5	9.1	9.2	7.7	8.2	8.5	5.9	30分～
15.7	15.5	16.9	14.1	12.9	15.2	11.1	1時間～
12.1	12.7	11.9	12.5	11.7	12.2	9.1	2時間～
6.9	7.7	7.1	8.4	7.2	7.5	5.1	3時間～
4.9	3.4	3.1	3.1	3.9	3.5	2.2	4時間～
3.0	2.9	1.8	1.9	3.4	2.5	1.5	5時間～
1.7	0.8	0.8	0.7	0.9	0.9	0.7	6時間～
3.5	1.8	1.7	2.5	2.8	2.3	1.4	7時間以上
2.2	1.0	0.8	1.4	2.1	1.3	2.1	記入ミス・無答

- ・平日と比較してゲームを行う時間が若干長くなっている。
- ・36.3%は休日でもゲームやパソコンをほとんどしない。
- ・ゲームやパソコンを行っている者については、平日と同様に1時間以上2時間未満の者が15.2%と最も高い。

Q23 休日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	
12.9	11.4	11.6	11.3	11.3	11.6	10.9	全く、またはほとんどしない。
14.4	17.3	18.3	13.2	13.6	15.8	15.1	30分より少ない。
11.2	14.4	13.9	10.6	10.7	12.5	12.7	30分～
13.4	17.0	16.5	15.3	13.5	15.5	15.3	1時間～
11.7	11.8	12.6	10.8	12.5	12.0	12.1	2時間～
9.8	8.9	9.6	11.1	11.1	10.0	9.9	3時間～
6.4	5.0	5.1	7.2	7.1	6.0	6.2	4時間～
6.7	4.8	4.8	6.8	5.1	5.4	5.4	5時間～
3.1	2.2	1.7	2.5	3.5	2.4	2.7	6時間～
8.1	5.8	5.1	9.7	9.8	7.3	7.0	7時間以上
2.3	1.1	0.8	1.6	1.8	1.4	2.6	記入ミス・無答

- ・約10人に1人が、1日6時間以上もの長い時間を電話やメールで過ごしている。
- ・3時間以上の者は約3割となっている。
- ・長時間の電話やメールに対して早急に対策を講じる必要があると思われる。

Q24 休日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H18	
57.1	56.6	54.6	56.9	56.0	56.0	55.1	全く、またはほとんどしない。
11.3	14.0	14.4	12.6	11.9	13.2	13.5	30分より少ない。
9.6	9.5	10.5	9.6	9.8	9.9	9.7	30分～
9.0	9.9	10.6	9.8	9.4	9.9	9.6	1時間～
5.6	4.5	5.5	5.0	5.8	5.2	5.0	2時間～
3.0	2.4	1.7	2.5	2.4	2.3	2.4	3時間～
0.9	0.9	1.1	0.9	1.3	1.0	1.1	4時間～
0.7	0.6	0.6	0.9	1.1	0.7	0.7	5時間～
0.2	0.2	0.2	0.3	0.5	0.3	0.4	6時間～
0.5	0.6	0.3	0.5	0.8	0.5	0.6	7時間以上
2.1	0.9	0.6	0.9	1.0	1.0	1.9	記入ミス・無答

- ・30分以内の者が約7割となっており、平日と同様に高い割合になっている。
- ・1時間以上の者は19.8%と平日より5.7ポイント増えているものの、読書の習慣が身に付いているとはいえない。

## まとめ

- ・Q2の進路希望の達成についての考えで、昨年度5.7ポイント減少した「卒業までに絶対達成しようと考えている」者が一昨年並に5割を超え、一方で「卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている」者が昨年同様2割を超えていることがあげられる。
- ・進路に対する強い意志をもつ者が5割を超え、進路意識そのものは向上が認められるものの、一方で進路に対してのこだわりが弱い層の割合が2割を超えた状態で固定化し、自分なりの確固たる意識や目標を見失う傾向が出てきつつあるとも考えられる。また、このような進路意識が、普段の学習に対する考えや姿勢に表れているようである。それはQ3の「どんな気持ちで勉強しているか」という問いに対して、「特に考えていない」者の割合が22.3%であることや、Q9やQ10の「家庭学習を全く、またはほとんどしない」者の割合が30%を超えていることから窺える。

**自分にとっての学習の有用感をもたせるとともに、進路指導においては単にその意識を持たせるだけではなく、自分の将来について具体的に考えさせるなどのさらに踏み込んだ指導が必要と思われる。**

- ・授業に対しては、「理解できない授業が半分以上」という者の割合が約6割となっている。
- ・「授業で分からないことがあってもそのまましておく」者が増加し24.2%もいる。
- ・生徒は、「基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業」「興味や関心がもてるような授業」を期待していることから、基礎・基本でつまづいたまま、学習に対する意欲を失ってしまう者も少なからずいると思われる。

**確固たる進路意識や学習に対する前向きな姿勢を育成するためにも、学校においては、生徒の期待に応える魅力ある授業実践を目指して工夫・改善することに努める必要がある。**

- ・家庭学習の状況を見てみると、学習時間については年々増加してはいるが、残念ながら多くの生徒がまだまだ不十分と思われる。家庭学習に集中できない要因として、テレビやビデオ、電話やメールなどあげられる。

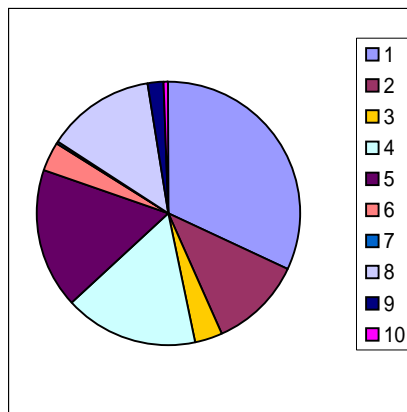
**特に、家庭での携帯電話の使用については家庭に考えてもらうよう学校からの呼びかけ等が必要である。**

以上のことから、高い進路意識とそれに基づく学習に対する姿勢を育成することが、なお一層求められる。家庭学習も含めて、学習環境の整備をさらに推進し、生徒の学力の向上に結びつけたい。それには学校と家庭の連携を一層深めた教育の実践が不可欠であり、学校においては、分かる授業、興味関心を持てる授業、学習意識の向上につながる授業等、生徒へのきめ細やかな対応と指導が求められている。

(参考)「まとめ」に関する調査結果(抽出して再掲)

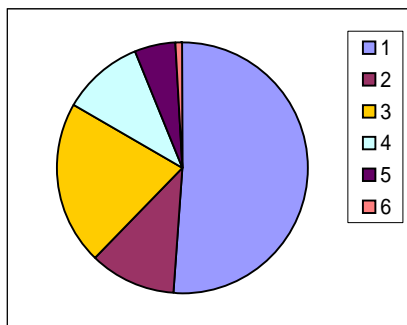
**Q1 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在もっとも強く希望しているのは次のうちどれですか。**

- 4年制国公立大学
- 4年制私立大学
- 短期大学
- 専修学校・各種学校
- 民間就職
- 公務員就職
- 家業
- 未定
- その他
- 記入ミス・無答



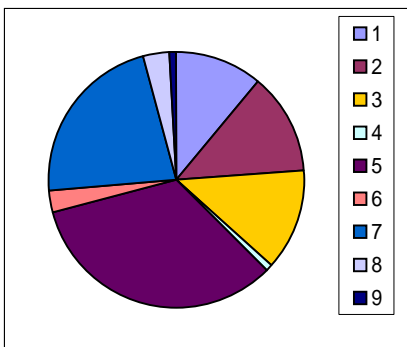
**Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。**

- 卒業までに絶対達成しようと思っている。
- 達成するまで、卒業後1,2年かかってもかまわないと思っている。
- 卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている。
- 何とかなるだろうと思っている。
- あまり考えないようにしている。
- 記入ミス・無答



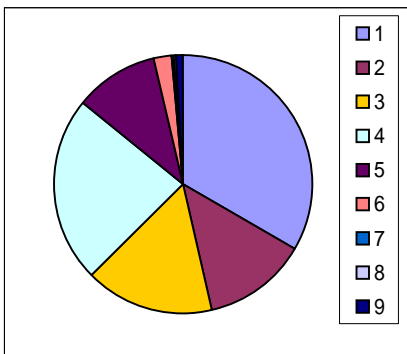
**Q3 ふだんどんな気持ちで勉強していますか。最も強く思っているものを選んでください。**

- 分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい。
- 多くのことを知り社会に出て役立つ力を身につけたい。
- 入学試験や就職試験に備えたい。
- 親や先生にほめられたい。
- 成績を上げたい。
- 先生や家族に言われるから勉強している。
- 特に考えていない。
- その他
- 記入ミス・無答



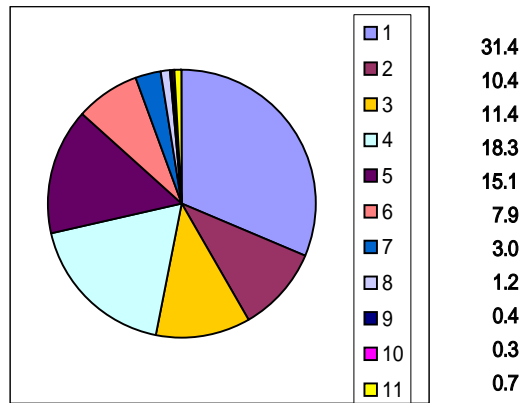
**Q9 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)をどの程度していますか。**

- 全く、またはほとんどしない。
- 30分より少ない。
- 30分～
- 1時間～
- 2時間～
- 3時間～
- 4時間～
- 5時間以上
- 記入ミス・無答



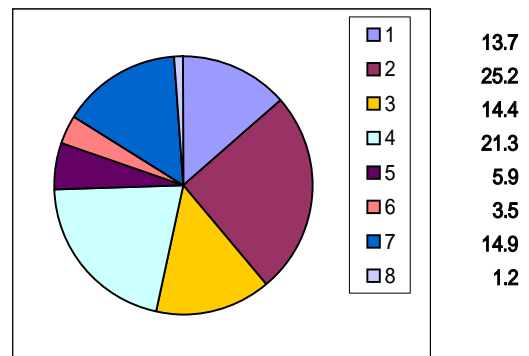
**Q10 休日に、どのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)**

- 全く、またはほとんどしない。
- 30分より少ない。
- 30分～
- 1時間～
- 2時間～
- 3時間～
- 4時間～
- 5時間～
- 6時間～
- 7時間以上
- 記入ミス・無答



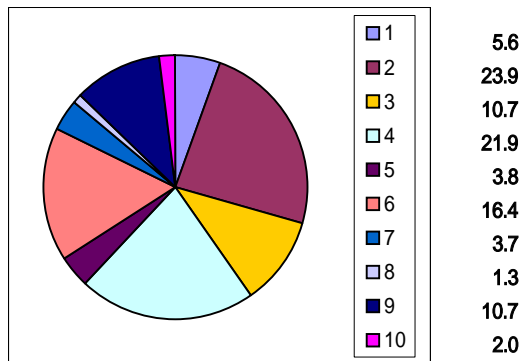
**Q13 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください。**

- 家庭学習の方法が分からない。
- 家庭学習に集中できない。
- 学習の計画を立てても長続きしない。
- 家庭学習と部活動の両立が難しい。
- 家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
- その他
- 特に悩みはない。
- 記入ミス・無答



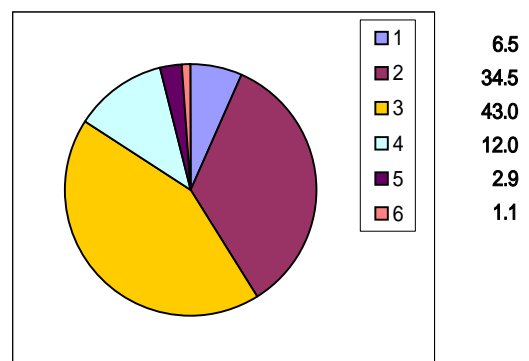
**Q14 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。**

- 家庭学習
- テレビやビデオ
- ゲームやパソコン
- 電話やメール
- 読書
- 自分の趣味( , を除く)
- 家族との対話
- 手伝い
- その他
- 記入ミス・無答



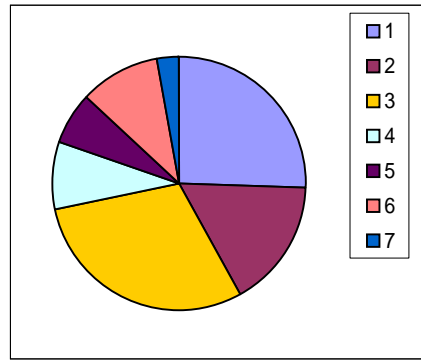
**Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。**

- ほとんどの授業がよく理解できる。
- 理解できる授業の方が多い。
- 理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある。
- 理解できない授業の方が多い。
- ほとんどの授業が理解できない。
- 記入ミス・無答



**Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。**

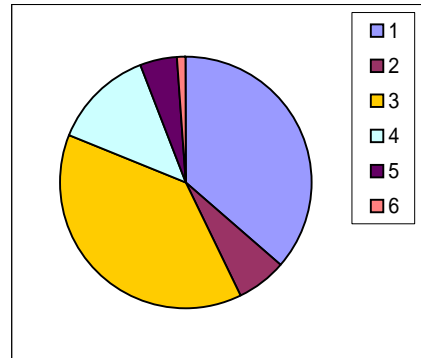
- 自分で調べる。
- 学校の先生に質問する。
- 友達に聞く。
- 家族に聞く。
- 塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
- そのままにしておく。
- その他



61.0  
38.4  
70.8  
20.1  
15.9  
24.3  
6.9

**Q8 あなたが受けたい授業はどんな授業ですか。最も近いものを選んでください。**

- 基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
- 発展的な内容まで教えてくれる授業
- 興味や関心をもてるような授業
- 進路希望達成につながる授業
- 資格取得につながる授業
- 記入ミス・無答

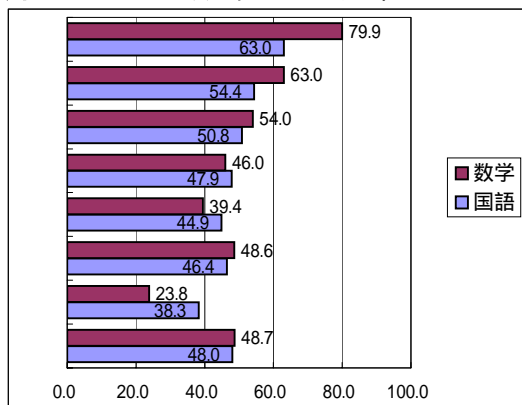


36.3  
6.5  
38.3  
13.1  
4.8  
1.0

平成19年度 みやぎ学力状況調査 質問紙調査回答と正答率(国語・数学)(1学年)

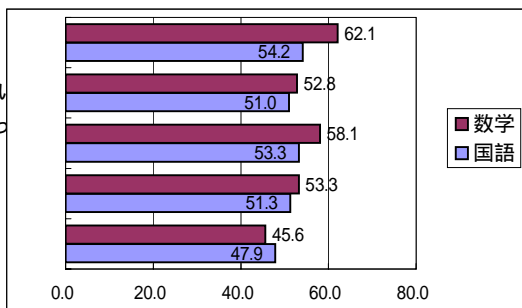
Q1 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在もっとも強く希望しているのは次のうちどれですか。

生徒の割合	進路
31.5	4年制国公立大学
11.6	4年制私立大学
3.3	短期大学
16.6	専修学校・各種学校
17.2	民間就職
3.7	公務員就職
0.3	家業
13.2	未定
2.0	その他
0.6	記入ミス・無答



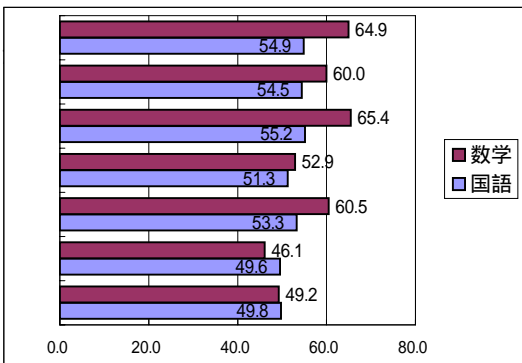
Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

生徒の割合	考え方
51.0	卒業までに絶対達成しようと思っている。
11.0	達成するまで、卒業後1,2年かかってもかまわないと思っている。
21.1	卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている。
10.7	何とかなるだろうと思っている。
5.4	あまり考えないようにしている。
0.7	記入ミス・無答



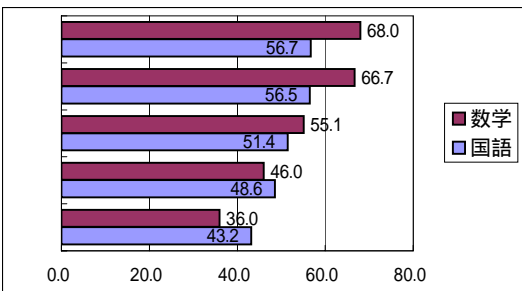
Q3 ふだんどんな気持ちで勉強していますか。最も強く思っているものを選んでください。

生徒の割合	気持ち
11.2	分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになり
12.5	多くのことを知り社会に出て役立つ力を身につけたい。
12.8	入学試験や就職試験に備えたい。
0.9	親や先生にほめられたい。
33.3	成績を上げたい。
3.0	先生や家族に言われるから勉強している。
22.3	特に考えていない。
3.1	その他
0.9	記入ミス・無答



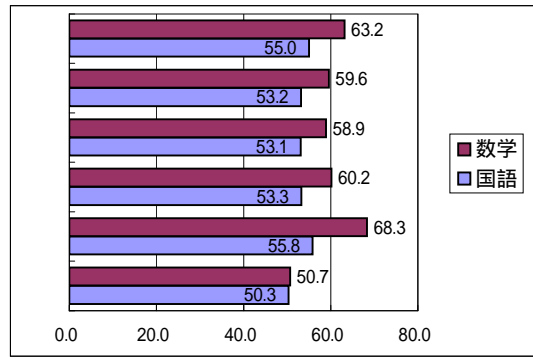
Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。

生徒の割合	理解度
6.6	ほとんどの授業がよく理解できる。
34.4	理解できる授業の方が多い。
43.1	理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある。
12.1	理解できない授業の方が多い。
2.9	ほとんどの授業が理解できない。
1.0	記入ミス・無答



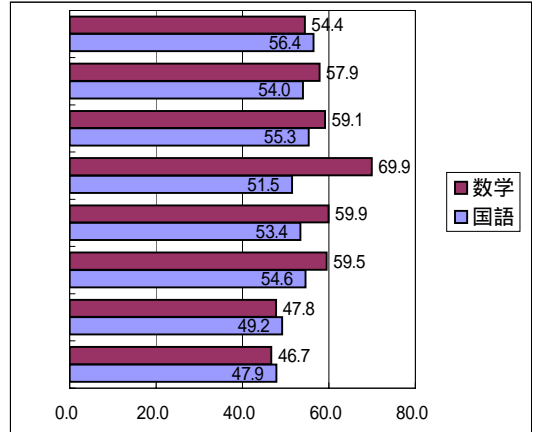
**Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。**

生徒の割合	
61.0	自分で調べる。
38.3	学校の先生に質問する。
70.9	友達に聞く。
20.0	家族に聞く。
15.9	塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
24.2	そのまましておく。
6.9	その他

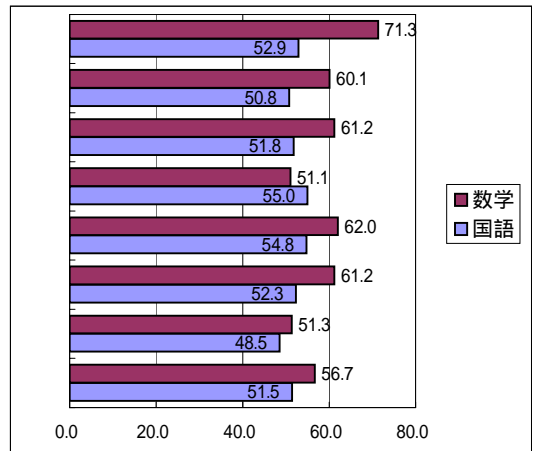


**Q6 次の教科のうち、最も得意だと感じる教科はどれですか。また、最も不得意だと感じる教科はどれですか。**

生徒の割合	得意教科
18.5	国語
11.7	地理歴史
3.8	公民
21.1	数学
12.0	理科
14.7	英語
6.7	専門教科
9.9	その他
1.6	記入ミス・無答

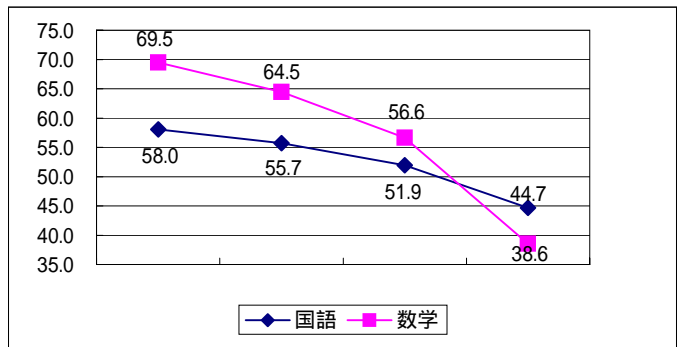


生徒の割合	不得意教科
11.0	国語
10.2	地理歴史
2.8	公民
30.3	数学
8.9	理科
29.1	英語
3.7	専門教科
2.0	その他
1.9	記入ミス・無答



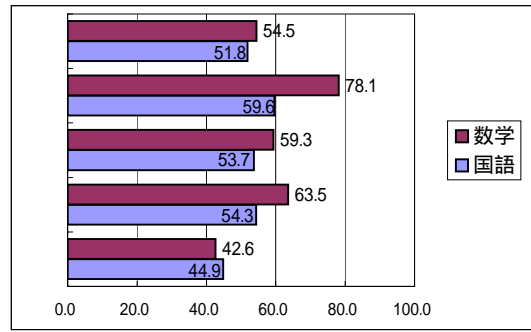
**Q7 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。**

生徒の割合	
14.9	ほとんど毎日出ている。
36.2	週に2~3回出ている。
31.1	週に1回くらい出ている。
16.5	ほとんど出していない。
1.4	記入ミス・無答



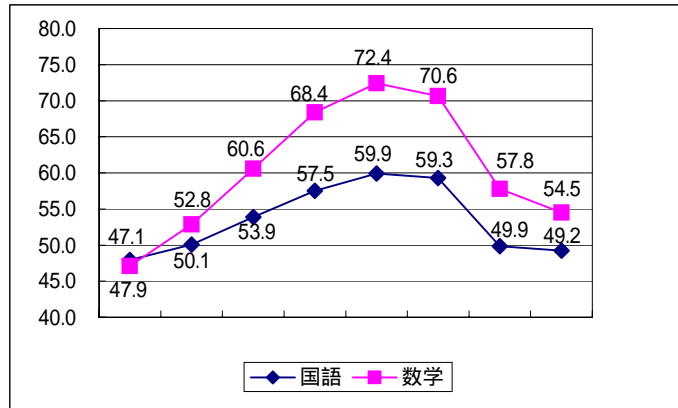
**Q8 あなたが受けたい授業はどんな授業ですか。最も近いものを選んでください。**

生徒の割合	授業内容
36.5	基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
6.5	発展的な内容まで教えてくれる授業
38.2	興味や関心をもてるような授業
13.1	進路希望達成につながる授業
4.8	資格取得につながる授業
1.0	記入ミス・無答



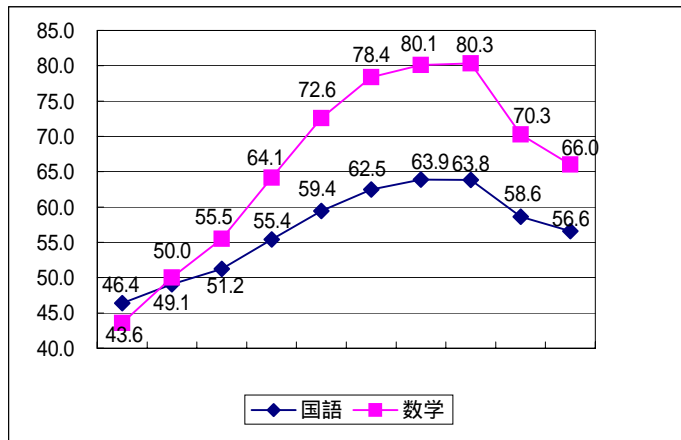
**Q9 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)**

生徒の割合	勉強時間
33.3	全く、またはほとんどしない。
13.1	30分より少ない。
16.2	30分～
23.5	1時間～
10.3	2時間～
2.1	3時間～
0.4	4時間～
0.3	5時間以上
0.7	記入ミス・無答



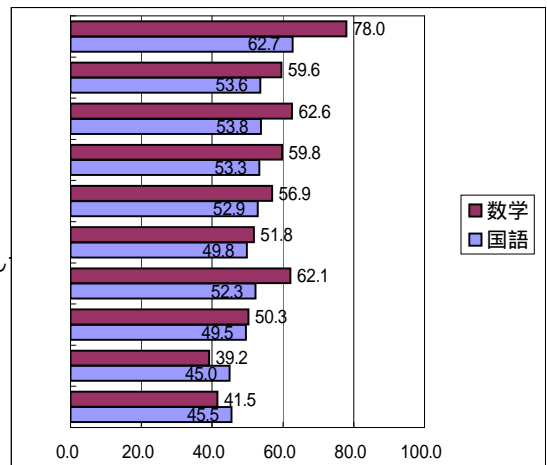
**Q10 休日に、どのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)**

生徒の割合	勉強時間
31.4	全く、またはほとんどしない。
10.4	30分より少ない。
11.4	30分～
18.5	1時間～
15.1	2時間～
7.8	3時間～
3.0	4時間～
1.1	5時間～
0.4	6時間～
0.3	7時間以上
0.7	記入ミス・無答



**Q11 家庭学習のしかたに、最も近いものはどれですか。**

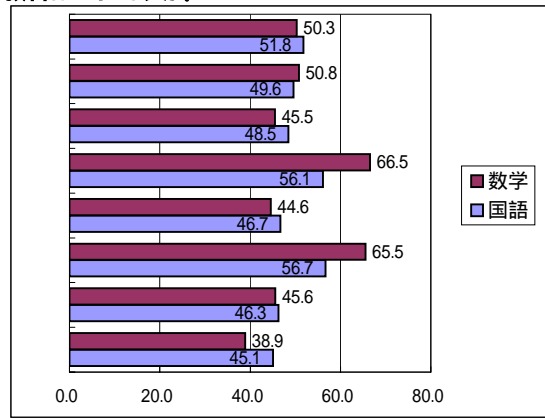
生徒の割合	家庭学習のしかた
14.1	ほぼ毎日している。
4.5	主に平日にしている。
6.8	主に休日にしている。
36.0	主に宿題・課題があるときと定期考査前にしている。
4.4	主に宿題・課題のあるときにしている。
7.2	主に定期考査前にしている。
1.5	主に塾・予備校のあるときや家庭教師の先生がくるときにしている。
13.3	気が向いたときにしている。
10.5	家庭学習はほとんどしない。
1.0	その他
0.7	記入ミス・無答





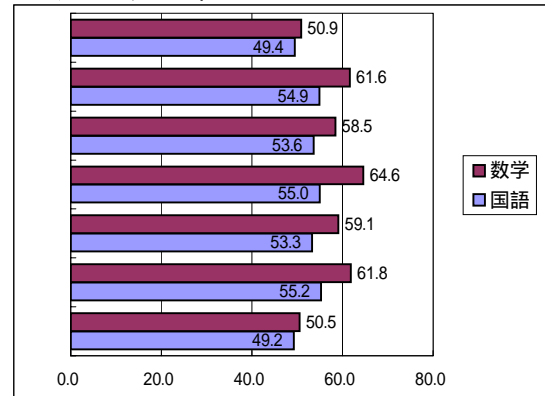
**Q12 次の教科のうち、家庭学習で最も力を入れて取り組んでいる教科はどれですか。**

生徒の割合	教科
5.5	国語
5.1	地理歴史
1.5	公民
39.3	数学
5.0	理科
23.3	英語
9.1	専門教科
9.4	その他
1.8	記入ミス・無答



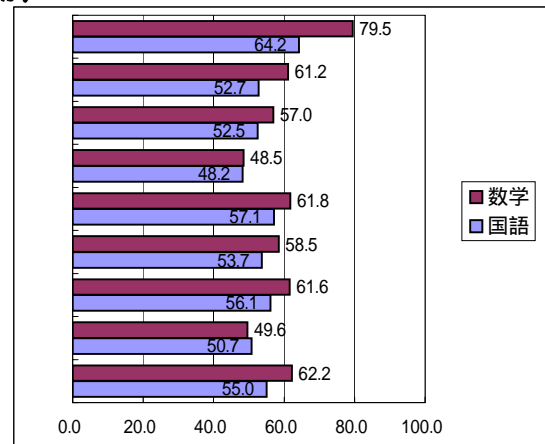
**Q13 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください。**

生徒の割合	悩んでいること
13.7	家庭学習の方法が分からない。
25.2	家庭学習に集中できない。
14.5	学習の計画を立てても長続きしない。
21.2	家庭学習と部活動の両立が難しい。
5.9	家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
3.5	その他
15.0	特に悩みはない。
1.2	記入ミス・無答



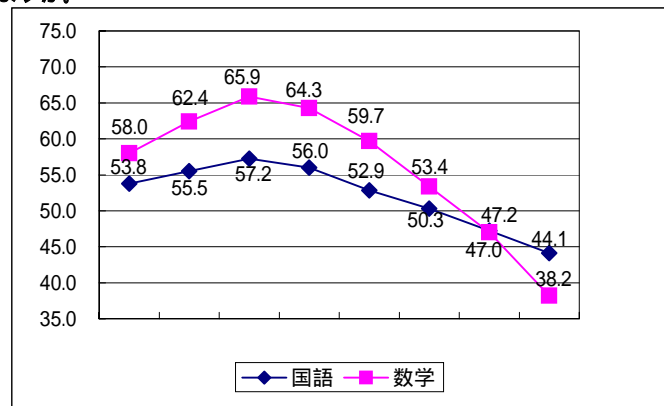
**Q14 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。**

生徒の割合	活動
5.5	家庭学習
23.9	テレビやビデオ
10.7	ゲームやパソコン H18 ゲーム
22.0	電話やメール
3.9	読書
16.5	自分の趣味( , を除く)
3.7	家族との会話
1.2	手伝い
10.7	その他
2.0	記入ミス・無答



**Q15 平日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。**

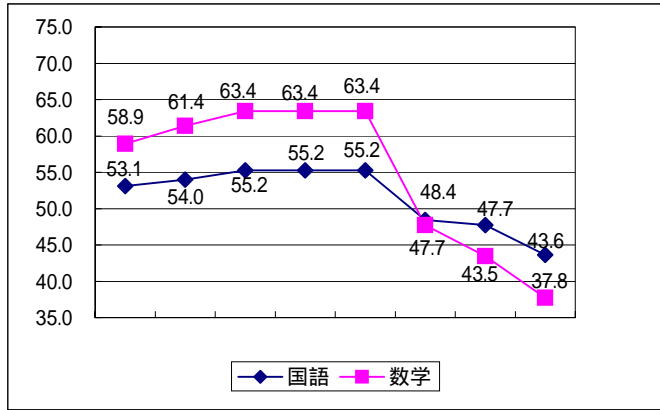
生徒の割合	視聴時間
6.6	全く、またはほとんど見ない。
5.6	30分より少ない。
10.2	30分～
24.3	1時間～
24.3	2時間～
15.4	3時間～
7.0	4時間～
5.5	5時間以上
1.2	記入ミス・無答



**Q16 平日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。**

生徒の割合 H18は「ゲームをしますか」

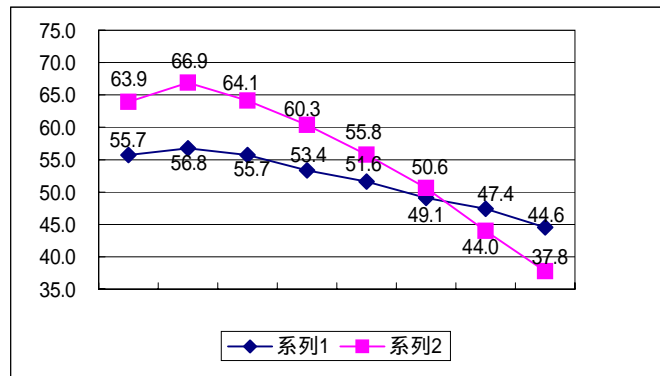
45.3	全く、またはほとんどしない。
12.2	30分より少ない。
11.6	30分～
15.3	1時間～
7.8	2時間～
3.6	3時間～
1.6	4時間～
1.6	5時間以上
1.0	記入ミス・無答



**Q17 平日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。**

生徒の割合

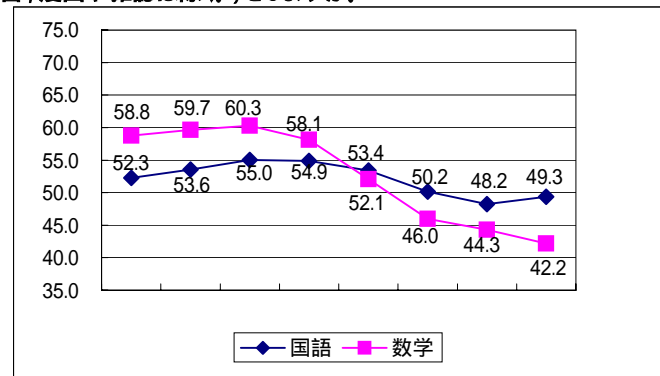
13.1	全く、またはほとんどしない。
19.3	30分より少ない。
15.0	30分～
16.8	1時間～
12.0	2時間～
9.2	3時間～
4.7	4時間～
8.7	5時間以上
1.4	記入ミス・無答



**Q18 平日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。**

生徒の割合

55.3	全く、またはほとんどしない。
18.0	30分より少ない。
12.0	30分～
7.9	1時間～
3.3	2時間～
1.5	3時間～
0.5	4時間～
0.6	5時間以上
0.9	記入ミス・無答

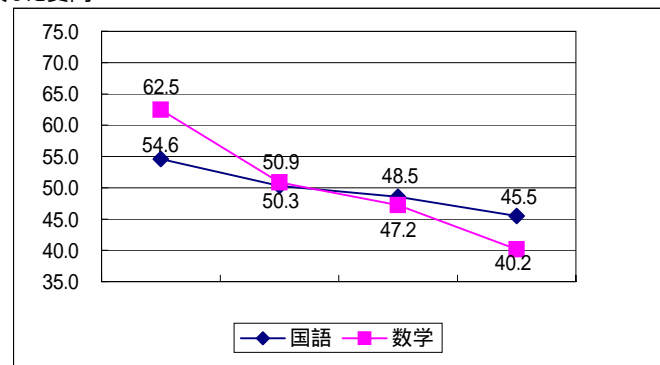


**Q19 学校に行く前に朝食をとりますか。**

生徒の割合

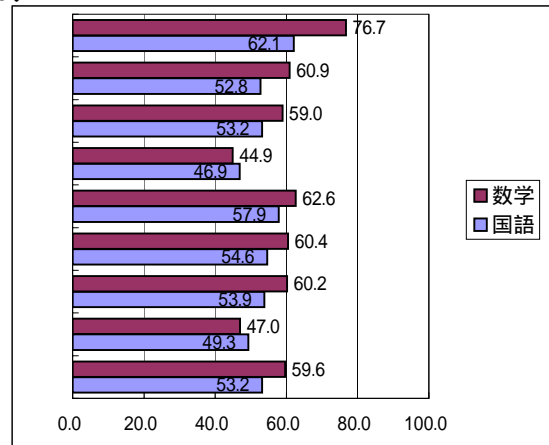
71.6	必ずとる。
15.4	たいていとる。
6.2	とらないことが多い。
5.0	全く、または、ほとんどとらない。
1.7	記入ミス・無答

H19新設した質問



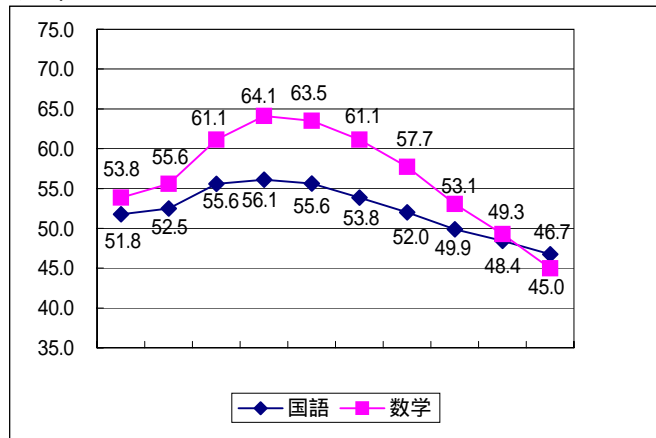
**Q20 休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。**

生徒の割合	活動
3.9	家庭学習
19.7	テレビやビデオ
13.1	ゲームやパソコン
13.9	電話やメール
2.6	読書
23.6	自分の趣味
2.5	家族との対話
1.6	手伝い
16.2	その他
3.0	記入ミス・無答



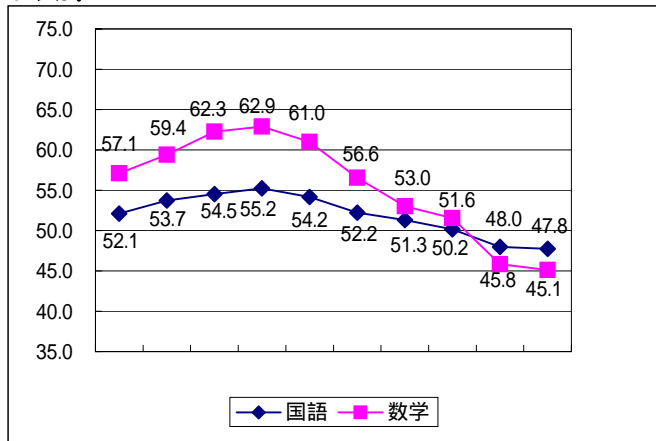
**Q21 休日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。**

生徒の割合	時間
4.5	全く、またはほとんど見ない。
2.8	30分より少ない。
4.5	30分～
12.9	1時間～
19.9	2時間～
18.8	3時間～
13.1	4時間～
10.3	5時間～
4.7	6時間～
7.2	7時間以上
1.2	記入ミス・無答



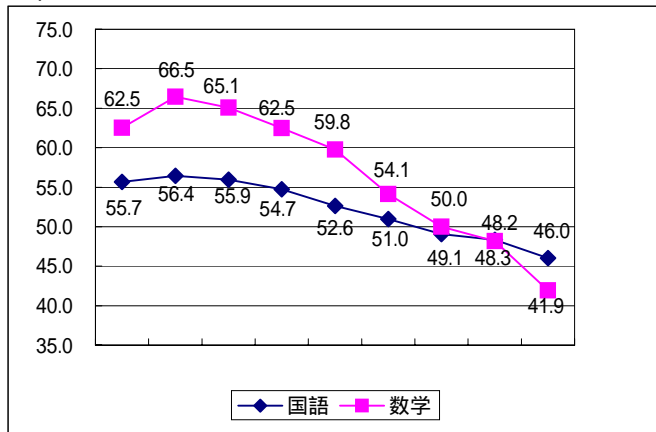
**Q22 休日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。**

生徒の割合	時間
36.3	全く、またはほとんどしない。
9.9	30分より少ない。
8.5	30分～
15.2	1時間～
12.2	2時間～
7.5	3時間～
3.5	4時間～
2.5	5時間～
0.9	6時間～
2.3	7時間以上
1.3	記入ミス・無答



**Q23 休日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。**

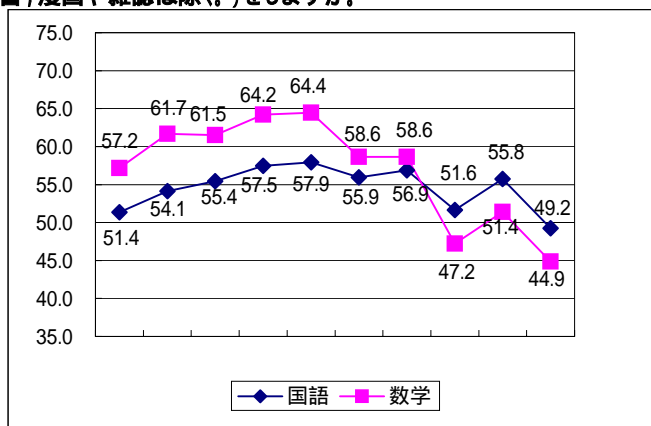
生徒の割合	時間
11.6	全く、またはほとんどしない。
15.8	30分より少ない。
12.5	30分～
15.5	1時間～
12.0	2時間～
10.0	3時間～
6.0	4時間～
5.4	5時間～
2.4	6時間～
7.3	7時間以上
1.4	記入ミス・無答



Q24 休日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書, 漫画や雑誌は除く。)をしますか。

生徒の割合

56.0	全く、またはほとんどしない。
13.2	30分より少ない。
9.9	30分～
9.9	1時間～
5.2	2時間～
2.3	3時間～
1.0	4時間～
0.7	5時間～
0.3	6時間～
0.5	7時間以上
1.0	記入ミス・無答



# 平成19年度 みやぎ学力状況調査 質問紙調査結果(2学年)

## Q1 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在もっとも強く希望しているのは次のうちどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次
16.5	33.8	40.2	18.3	20.8	28.7	31.0
17.4	19.8	20.4	13.0	12.8	17.2	10.6
3.5	2.7	2.8	4.2	3.8	3.3	3.6
16.4	13.5	12.8	19.3	19.3	15.7	17.8
32.7	17.8	13.5	30.0	27.5	22.1	16.8
3.2	2.0	2.0	4.8	4.4	3.1	3.5
0.4	0.1	0.1	0.2	0.4	0.2	0.3
5.9	8.3	6.3	8.9	9.3	7.7	13.9
2.3	1.3	1.1	0.9	1.1	1.2	1.8
1.8	0.7	0.7	0.3	0.6	0.7	0.6

4年制国立大学  
4年制私立大学  
短期大学  
専修学校・各種学校  
民間就職  
公務員就職  
家業  
未定  
その他  
記入ミス・無答

・進学希望者(～)は64.9%で、1年次と比べ2.0ポイント増加。  
・4年制大学・短大への進学希望者(～)は49.2%で、1年次と比べ3.6ポイント増加。  
・就職希望者(～)は25.4%で、1年次と比べ4.8ポイント増加。  
・の未定との他を選択した者合わせて8.9%で、1年次と比べ7.4ポイント減少。  
・大学進学希望が就職希望に偏り、専修・各種学校への進学希望と未定が減少。卒業後の進路希望がより具体化  
**進路指導、個人面談、キャリア教育等の充実による進路希望へのサポート、未定者へのアドバイスが早急に必要と考えられる。**

## Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次
58.1	55.8	59.3	54.7	55.8	56.9	48.6
8.1	9.9	8.1	8.7	10.8	9.1	12.2
16.8	18.9	17.9	20.8	18.6	18.7	21.1
10.3	10.1	10.5	10.7	10.6	10.5	11.8
4.4	4.4	3.6	4.7	3.6	4.1	5.5
2.3	0.9	0.6	0.4	0.6	0.8	0.9

卒業までに絶対達成しようと思っている。  
達成するまで、卒業後1,2年かかってかまわないと思っている。  
卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている。  
何とかなるだろうと思っている。  
あまり考えないようにしている。  
記入ミス・無答

・進路の達成に向けては、1年次よりも「卒業までに絶対達成しようと考えている者」が8.3ポイントも増加。  
・のような進路意識の希薄な層が2.7%減少して、進路に対する強いこだわりが表れてきている。  
**今後は、進路に対する強い意志をもつ者がさらに増加するよう、進路指導の充実が求められる。**

## Q3 ふだんどんな気持ちで勉強していますか。最も強く思っているものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次
10.2	9.7	9.7	9.5	8.5	9.5	10.5
13.2	12.6	13.9	13.5	13.9	13.4	12.8
15.6	16.2	16.8	13.8	15.5	15.7	11.7
0.7	0.7	0.6	0.7	0.7	0.7	0.8
32.5	31.8	32.9	34.0	31.0	32.5	33.0
2.4	2.5	2.7	2.5	2.5	2.5	3.2
21.6	22.3	19.9	22.8	24.2	21.9	23.0
2.0	3.1	2.8	2.6	2.6	2.7	3.5
1.8	1.2	0.8	0.6	1.1	1.0	1.5

分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい。  
多くのことを知り社会に出て役立つ力を身につけたい。  
入学試験や就職試験に備えたい。  
親や先生にほめられたい。  
成績を上げたい。  
先生や家族に言われるから勉強している。  
特に考えていない。  
その他  
記入ミス・無答

・1年次同様、の成績向上を意識して勉強している者が32.5%と高い。  
・の知的好奇心・探求心や社会で役立つことを意識している者が合わせて22.9%。  
・の学習に消極的な層は全体の約26%で、1年次よりは2.3ポイント減少しているものの、の卒業後の進路のための学習と考えている層が4ポイント増加。  
**引き続き興味・関心を引き出す授業や学ぶ喜びを得られるような教育活動への改善を進めていく必要がある。**

## Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次
5.5	7.4	8.4	7.1	7.4	7.5	5.9
32.6	34.3	35.8	32.2	33.3	34.0	32.8
44.1	40.7	39.7	44.6	42.1	41.7	43.6
13.3	12.6	12.1	13.0	13.3	12.7	13.0
3.1	3.6	3.2	2.4	3.1	3.1	3.2
1.4	1.3	0.8	0.8	0.8	1.0	1.5

ほとんどの授業がよく理解できる。  
理解できる授業の方が多い。  
理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある。  
理解できない授業の方が多い。  
ほとんどの授業が理解できない。  
記入ミス・無答

・だいたい理解できると回答した者はとを合わせて41.5%で1年次と比べ1.6ポイント増加。  
・あまり理解できないと回答した者はとを合わせて15.8%で1年次と比べ0.4ポイント減少。  
・の理解できる授業と理解できない授業が半々という層も減少しており、全体としては、授業がわかりやすいと感じている層が増えている。  
**学年進行に従って分かる授業に向けての各学校での工夫・改善が見て取れる結果であり、同時に授業改善に向けての県の施策のさらなる充実が求められている。**

Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	
63.8	60.6	64.4	57.5	58.3	61.1	52.0	自分で調べる。
51.2	37.3	36.6	41.0	43.0	40.2	32.7	学校の先生に質問する。
73.2	66.6	68.2	72.1	69.7	69.4	70.3	友達に聞く。
23.5	14.4	12.8	11.0	11.4	13.7	16.1	家族に聞く。
18.1	15.1	13.0	9.5	10.6	12.9	11.9	塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
28.0	23.8	22.5	24.1	22.0	23.6	22.2	そのまましておく。
12.4	5.5	4.0	4.8	5.1	5.6	3.3	その他

- ・ ~ は主に学校内で解決を図るものであるが、そのうち最も多いのが「友達同士で解決する」場合で、都市部の生徒より周辺部の生徒にその傾向が強い。
  - ・ 2番目の「自分で調べる」は1年次よりも9.1ポイントも増加。
- 学校内での解決を図る中では「学校の先生に質問する」が増加傾向にある。また「そのまましておく」と回答した者も依然多ことから、生徒の理解度を計画的にチェックする等の教員の工夫が必要である。

Q6 次の教科のうち、最も得意だと感じる教科はどれですか。また、最も不得意だと感じる教科はどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	得意教科
20.3	19.8	20.3	19.5	19.4	19.9	19.4	国語
11.6	12.5	13.7	10.2	13.4	12.5	10.3	地理歴史
2.0	1.9	2.4	3.4	2.4	2.4	4.1	公民
19.4	22.8	21.5	20.3	19.0	20.9	20.6	数学
7.3	8.3	8.2	10.0	8.4	8.5	11.7	理科
14.9	14.2	16.3	14.4	14.0	14.9	14.4	英語
10.5	7.9	6.3	10.0	9.3	8.3	7.4	専門教科
11.5	11.1	10.2	11.1	12.3	11.1	10.0	その他
2.4	1.5	1.1	1.0	1.8	1.4	2.1	記入ミス・無答

- ・ 数学、国語、英語、地理歴史、理科の順番。
- ・ 1年次と比べると、理科と地理歴史の順位が逆転し、地理歴史を得意とする回答の割合が増加している。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	不得意教科
11.0	12.3	13.2	10.4	9.3	11.6	10.0	国語
11.7	11.0	11.4	12.4	12.2	11.7	10.2	地理歴史
1.6	1.3	1.8	1.7	1.9	1.7	2.5	公民
28.7	30.1	33.5	30.2	29.5	30.9	30.1	数学
11.4	10.7	7.9	9.1	8.7	9.3	9.8	理科
24.4	27.7	25.9	28.5	28.9	27.2	29.7	英語
5.1	2.7	2.8	4.2	4.4	3.6	3.3	専門教科
2.3	2.0	2.0	2.0	2.1	2.0	2.0	その他
3.7	2.1	1.4	1.4	3.0	2.1	2.4	記入ミス・無答

- ・ 数学、英語、国語、地理歴史、理科の順番で、1年次と比べ不得意教科の順位は同じである。
  - ・ 英語を不得意とする回答が1年次より減少しており、学習方法が定着してきていることが窺える。
  - ・ 数学は1年次同様不得意が得意を上回っているが、理科については得意が不得意を上回っている。
- 数学又は英語を不得意と感じている約6割の生徒に対し、学習習慣確立に向けての支援をする等の工夫が必要である。

Q7 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	
9.8	15.5	17.3	12.5	6.7	13.4	16.1	ほとんど毎日出ている。
32.1	32.2	28.8	28.9	24.2	29.1	34.4	週に2~3回出ている。
36.2	29.3	36.7	41.7	42.1	36.9	31.6	週に1回くらい出ている。
19.9	22.0	16.5	16.0	25.4	19.5	16.3	ほとんど出していない。
2.0	1.0	0.7	1.0	1.6	1.1	1.5	記入ミス・無答

- ・ , を合わせて、週あたり何らかの宿題・課題が出される日が複数である割合が1年次と比べると8ポイント減少している。
  - ・ ほとんど宿題が出されない割合も1年次よりも3.2ポイント増加し、家庭学習が生徒の自主性に任せられる傾向。
- Q9の結果の1年次よりも家庭学習時間が減少していることから、2年次においても家庭学習習慣を確立していくための指導の工夫が必要であると思われる。

Q8 あなたが受けたい授業はどんな授業ですか。最も近いものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	
30.3	29.5	31.2	32.2	30.8	30.9	35.6	基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
5.9	6.4	7.7	4.3	5.0	6.1	6.5	発展的な内容まで教えてくれる授業
39.7	43.7	42.8	43.4	42.0	42.6	38.5	興味や関心がもてるような授業
14.9	15.1	14.5	13.1	13.9	14.3	12.7	進路希望達成につながる授業
6.9	4.6	3.2	6.0	7.1	5.1	5.5	資格取得につながる授業
2.3	0.7	0.6	0.9	1.3	1.0	1.2	記入ミス・無答

- ・ 1年次よりも興味・関心がもてる授業を期待する声が4.1ポイント増加。
  - ・ 逆に基礎・基本からじっくりわかるまで教えてくれる体制を望む声は減少している。
- 学年が進行するにつれて、生徒の発達段階・学習進度や深まりに合わせて生徒の探求心を向上させるための授業改善や体制づくりの各校の取組が望まれる。

Q9 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	
42.7	39.3	35.0	43.9	43.3	39.9	33.9	全く、またはほとんどしない。
11.2	11.9	12.6	12.7	12.1	12.2	12.7	30分より少ない。
12.9	16.0	16.7	14.5	14.1	15.3	17.0	30分～
18.3	19.1	21.6	19.4	19.4	19.9	22.6	1時間～
9.8	9.3	10.2	6.9	7.7	8.9	9.8	2時間～
1.8	2.5	2.5	1.3	1.9	2.1	2.1	3時間～
0.4	0.6	0.6	0.4	0.5	0.5	0.4	4時間～
0.4	0.8	0.2	0.3	0.2	0.4	0.2	5時間以上
2.4	0.5	0.5	0.4	0.8	0.7	1.2	記入ミス・無答

- ・1年次よりも6.0ポイントも平日に家庭学習をしない者が増加し39.9%にのぼり、全体の回答の第1位を占めている。
  - ・～の家庭学習にしっかり取り組んでいる層も0.8ポイント減少しており、総じて30分～1時間前後に回答が集まる傾向。
  - ・～の合計は1年次より3.1ポイント増加し、全体の89.3%が2時間未満の家庭学習時間となっていて、中だるみするとされている2学年を象徴する結果である。
- 2年次においても継続的に家庭学習定着のための意識付け及び学習時間増加へのさらなる取組が望まれる。**

Q10 休日に、どのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	
45.1	38.6	29.9	44.0	43.3	38.5	31.8	全く、またはほとんどしない。
10.3	8.7	9.1	10.4	10.1	9.6	10.4	30分より少ない。
10.5	10.5	11.4	10.8	10.6	10.8	11.5	30分～
14.5	16.8	19.0	16.6	14.4	16.8	18.3	1時間～
9.5	12.4	14.8	10.4	12.4	12.5	14.6	2時間～
5.0	7.0	8.3	4.5	5.9	6.5	6.9	3時間～
1.6	2.7	3.4	1.5	1.4	2.4	3.0	4時間～
0.4	1.5	2.2	0.6	0.5	1.3	1.2	5時間～
0.5	0.6	0.8	0.2	0.2	0.5	0.6	6時間～
0.3	0.7	0.6	0.1	0.2	0.4	0.3	7時間以上
2.3	0.5	0.5	0.7	1.0	0.8	1.3	記入ミス・無答

- ・休日に家庭学習をしない者が1年次より6.7ポイント増加し、平日とほぼ同じ割合となっている。
  - ・～の回答から、休日に2時間以上の家庭学習時をしている者の割合は1年次よりも3.0ポイント減少。
- Q9とあわせて、2年次の家庭学習への取組が今後の大きな課題であり、各校での取組の改善が望まれる。**

Q11 家庭学習のしかたに、最も近いものはどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	
11.5	12.5	15.6	9.7	12.0	12.7	13.0	ほぼ毎日している。
4.8	4.3	4.0	3.2	4.1	4.0	4.5	主に平日にしている。
3.9	5.1	6.9	4.5	4.5	5.3	6.0	主に休日にしている。
34.5	34.5	35.7	38.5	35.4	35.8	36.1	主に宿題・課題があるときと定期考査前にしている。
3.9	3.2	3.6	3.6	2.7	3.4	5.1	主に宿題・課題のあるときにしている。
10.3	10.8	10.7	11.4	11.5	11.0	4.6	主に定期考査前にしている。
1.4	2.1	1.6	1.2	1.4	1.6	1.6	主に塾・予備校のあるときや家庭教師の先生がくるときにしている。
12.8	12.5	9.9	11.0	11.9	11.3	13.3	気が向いたときにしている。
14.0	13.0	10.7	15.0	14.2	13.0	10.8	家庭学習はほとんどしない。
1.4	1.5	0.8	1.3	1.6	1.2	1.1	その他
1.5	0.5	0.5	0.6	0.7	0.7	1.1	記入ミス・無答

- ・の定期考査前のみ家庭学習をする割合が6.4ポイント増加。
  - ・の家庭学習をほとんどしない割合も2.2ポイント増加。
- 2年次において学習意欲が低下し、その場しのぎの学習しかしない者が1年次よりも増えている。**
- ・家庭学習の習慣が身に付いていると考えられるの合計は16.7%で1年次よりも0.8ポイント減少し、依然約8割の生徒に家庭学習の習慣化がされていない。
- 学校と家庭の連携、授業を中心とした学校の体制づくりのなかから、家庭学習の推進が望まれる。**

Q12 次の教科のうち、家庭学習で最も力を入れて取り組んでいる教科はどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	
7.4	5.1	4.5	8.0	5.6	5.8	5.4	国語
5.1	5.0	7.4	8.4	9.1	7.1	5.7	地理歴史
1.2	0.7	1.0	1.2	1.1	1.0	1.5	公民
29.3	40.7	39.4	30.2	27.4	34.8	37.0	数学
6.3	3.8	3.2	4.3	3.5	3.9	5.0	理科
17.8	23.3	28.0	21.9	24.4	24.1	23.7	英語
18.4	9.3	6.8	13.3	12.5	10.8	9.6	専門教科
11.3	10.5	8.5	11.7	13.8	10.8	9.6	その他
3.2	1.7	1.3	1.0	2.5	1.7	2.5	記入ミス・無答

- ・1年次同様、数学、英語に力を入れて取り組んでいる割合が高い。
- ・Q6の不得意教科は、数学、英語という回答が最も多い。

**Q13 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	
15.4	13.4	12.1	14.0	13.1	13.2	14.2	家庭学習の方法が分からない。
23.4	27.6	28.9	25.5	24.8	26.7	25.3	家庭学習に集中できない。
16.6	15.4	14.2	15.7	16.9	15.5	14.2	学習の計画を立てても長続きしない。
16.2	18.0	19.2	16.6	15.6	17.5	21.1	家庭学習と部活動の両立が難しい。
6.7	5.8	6.1	6.5	6.1	6.2	5.6	家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
2.9	4.1	4.6	3.4	4.7	4.1	3.6	その他
16.0	15.0	14.0	17.0	17.5	15.6	14.1	特に悩みはない。
2.8	0.9	0.8	1.4	1.4	1.3	1.8	記入ミス・無答

・8割以上の者が何らかの悩みを抱えていることがわかる。  
 ・「家庭学習に集中できない」、「家庭学習と部活動の両立が難しい」とする者が1年次よりも減少しつつも高い割合。  
**集中を阻害する要因を探りながら家庭学習に集中できる環境づくりを保護者に考えてもらうよう家庭との連携を進めていく必要がある。また、「家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない」とするものが増加傾向にあり、学習意欲がわかないことにも大きく関わるものと考えられる。授業や学習カウンセリング等を通して、具体的な学習方法について指導する必要がある。**

**Q14 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	
3.9	6.1	6.8	3.0	4.4	5.2	5.5	家庭学習
27.3	25.6	23.6	29.7	27.5	26.3	23.4	テレビやビデオ
9.1	11.5	11.5	9.6	9.3	10.5	4.3	ゲームやパソコン
22.0	17.2	15.6	23.7	21.0	19.1	20.3	電話やメール
3.5	3.4	4.4	3.1	3.8	3.8	3.8	読書
15.7	16.8	17.4	15.3	16.5	16.5	23.2	自分の趣味
2.8	3.6	4.1	2.8	2.8	3.4	3.7	家族との会話
1.6	0.9	1.0	1.1	1.4	1.1	1.3	手伝い
11.1	13.3	13.7	10.2	11.0	12.2	11.5	その他
3.1	1.4	1.8	1.6	2.2	1.9	2.7	記入ミス・無答

・「テレビやビデオ」、「自分の趣味」、「電話やメール」の時間が多く、Q13の「家庭学習に集中できない」理由の一端を窺うことができる。この3項目を合わせると61.9%で1年次より5.0%減少。  
 ・1年次の調査ではパソコンが「自分の趣味」に含まれていたため、の「ゲームやパソコン」が6.2ポイント増加したことを考えると、逆に増加していると考えられる。  
**これらのことが家庭学習の時間を阻害している原因となっている。今後は一日の学習を計画的に行う習慣の育成が**

**Q15 平日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	
5.6	7.8	8.0	5.9	6.2	7.0	6.3	全く、またはほとんど見ない。
5.3	7.1	7.2	4.6	5.1	6.1	5.4	30分より少ない。
6.6	10.9	11.9	7.6	8.5	9.7	9.4	30分～
19.2	26.6	26.9	20.6	22.4	24.0	24.4	1時間～
28.0	23.2	25.0	24.3	24.0	24.6	24.2	2時間～
16.9	12.9	12.5	19.8	16.3	15.1	15.2	3時間～
8.5	6.2	4.5	9.4	8.2	6.9	7.5	4時間～
7.3	4.6	3.1	7.0	8.2	5.5	5.7	5時間以上
2.5	0.7	0.8	0.8	1.2	1.0	1.7	記入ミス・無答

・3時間以上見ている者は27.5%であり、1年次よりもわずかながら減少。  
**テレビやビデオの視聴が「家庭学習に集中できない」理由の一つになっていると考えられる。**

**Q16 平日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	
49.1	45.1	45.7	50.1	47.4	47.1	62.4	全く、またはほとんど見ない。
10.8	11.9	12.3	11.4	12.0	11.8	8.5	30分より少ない。
10.3	11.8	12.1	9.4	10.3	11.0	8.4	30分～
12.2	15.8	16.3	14.7	14.1	15.1	10.5	1時間～
7.4	7.9	7.3	7.2	9.1	7.7	5.1	2時間～
3.4	3.7	3.4	3.6	3.5	3.5	2.1	3時間～
1.4	1.5	1.1	1.3	1.3	1.3	0.6	4時間～
1.8	1.7	1.1	1.7	1.2	1.4	0.9	5時間以上
3.6	0.7	0.7	0.6	1.3	1.1	1.5	記入ミス・無答

・1年次の「テレビやビデオ」に比して、平日にゲームを行っている者は少なかったが、パソコンもこの項目に含めて調査したところ、1年次よりも1時間以上ゲームやパソコンを行っている者が、12.7ポイント増加している。  
**学習時間以外ということで回答しているため、パソコンの使用についても、家庭と協力を得て指導していく必要がある。**



**Q17 平日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	
15.1	15.2	18.5	14.9	15.4	16.2	11.9	全く、またはほとんどしない。
16.7	23.1	24.8	18.3	20.2	21.5	19.2	30分より少ない。
12.6	15.1	14.6	12.3	13.6	13.9	15.2	30分～
14.7	15.2	15.4	15.4	14.0	15.0	16.9	1時間～
12.2	11.6	10.7	12.7	10.4	11.4	12.4	2時間～
9.2	8.0	6.0	10.2	8.8	8.1	9.5	3時間～
6.1	3.3	2.9	5.3	4.6	4.1	4.6	4時間～
10.4	7.3	6.3	9.9	11.2	8.5	8.3	5時間以上
2.9	1.2	0.9	1.0	1.8	1.4	2.0	記入ミス・無答

・1時間以上電話やメールを行っている者は、1年次よりも4.6ポイント減少はしているが、47.1%を占めている。  
**「家庭学習に集中できない」大きな要因になっていると思われる。また、Q9での家庭学習を「全く、またはほとんどしない」39.9%の生徒の生活状況が推測できる。**

**Q18 平日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	
55.2	62.8	59.8	55.8	58.9	59.0	54.2	全く、またはほとんどしない。
17.7	15.1	16.4	20.1	16.6	17.0	18.2	30分より少ない。
11.7	9.8	10.9	11.0	10.4	10.7	11.6	30分～
7.4	6.8	8.1	7.9	8.2	7.7	8.5	1時間～
2.7	2.6	2.7	2.9	3.3	2.8	3.3	2時間～
1.4	1.2	1.2	1.1	0.9	1.1	1.4	3時間～
0.6	0.4	0.2	0.5	0.5	0.4	0.5	4時間～
0.3	0.6	0.3	0.4	0.5	0.4	0.7	5時間以上
3.0	0.7	0.4	0.4	0.8	0.8	1.7	記入ミス・無答

・60%近くの者が「全く、またはほとんどしない」状況であり、1年次よりも4.8ポイント増加。  
**平日の読書はさらに習慣化されていない状況である。朝読書や小論文指導で読書の時間を取り入れている学校が増加しているものの、読書の楽しさ等を伝える努力とともに、家庭や学校において習慣化を図る工夫が望まれる。**

**Q19 学校に行く前に朝食をとりますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	現1年	
61.5	70.7	72.7	68.1	66.0	69.0	71.6	必ずとる。
17.0	15.4	14.5	17.2	16.2	15.8	15.4	たいていとる。
10.0	6.8	6.5	8.0	8.8	7.6	6.2	とらないことが多い。
7.5	6.1	5.0	5.5	7.5	6.0	5.0	全く、または、ほとんどとらない。
4.0	1.0	1.3	1.1	1.5	1.5	1.7	記入ミス・無答

・学年進行とともに朝食をとらないことが習慣化する生徒が増加している傾向がある。  
 ・数学・国語においても、朝食の習慣化と基礎学力定着度との相関関係が明確。  
**朝食をとらない習慣が学校生活に及ぼす影響を、生徒だけでなく家庭にも周知していく必要がある。**

**Q20 休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	
2.1	4.5	5.1	1.7	2.5	3.6	3.6	家庭学習
21.2	20.3	18.6	22.1	20.7	20.3	18.3	テレビやビデオ
11.4	14.9	13.6	11.7	11.1	12.9	6.5	ゲームやパソコン
13.0	9.7	9.2	15.5	12.9	11.6	11.6	電話やメール
2.8	2.4	3.0	2.1	3.0	2.7	2.4	読書
21.9	23.7	24.6	22.5	23.8	23.6	31.2	自分の趣味
2.6	2.8	2.8	2.2	2.8	2.7	2.6	家族との対話
2.0	1.3	1.4	1.9	2.6	1.7	1.8	手伝い
18.8	17.9	18.8	18.0	17.4	18.2	17.5	その他
4.2	2.6	2.9	2.4	3.2	2.9	4.4	記入ミス・無答

・今年度の調査から、に学習以外のパソコンの使用を選択項目に加えたため、その割合も6.4%増加している。  
 ・「自分の趣味」の割合は減少しているが、「テレビやビデオ」、「電話やメール」が上位を占めており、本来平日よりも多い割合になって欲しい「家庭学習」については、平日と比べると低くなっている。

**Q21 休日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	
4.1	5.8	6.1	4.8	4.7	5.3	4.4	全く、またはほとんど見ない。
2.6	3.9	3.6	2.5	3.4	3.3	2.5	30分より少ない。
3.1	5.8	5.5	3.7	4.1	4.7	3.9	30分～
11.7	15.5	16.0	9.7	11.1	13.4	11.9	1時間～
17.3	20.1	23.0	18.9	17.7	20.1	19.2	2時間～
19.7	18.6	19.3	18.9	19.0	19.1	19.0	3時間～
13.3	11.9	10.5	15.8	12.2	12.4	13.2	4時間～
12.1	8.2	8.0	11.8	11.4	9.8	11.1	5時間～
4.3	3.5	3.0	5.1	5.5	4.1	5.1	6時間～
9.3	5.6	4.0	8.3	9.2	6.6	7.5	7時間以上
2.6	1.1	1.0	0.7	1.6	1.2	2.1	記入ミス・無答

・3時間以上見ている者は1年次よりも減少しているものの52.0%と半数を超えている。  
 ・約10人に1人は6時間以上もテレビやビデオを見ており、「家庭学習に集中できない」大きな理由となっていると考えられる。

**Q22 休日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	
42.9	37.0	37.1	43.7	40.6	<b>39.6</b>	54.0	全く、またはほとんどしない。
8.3	9.8	10.0	9.0	9.2	<b>9.4</b>	6.8	30分より少ない。
6.2	8.9	8.3	7.3	7.6	<b>7.9</b>	5.9	30分～
13.3	14.8	16.7	13.0	13.7	<b>14.7</b>	11.1	1時間～
11.9	11.9	13.2	11.3	11.7	<b>12.1</b>	9.1	2時間～
5.7	7.4	6.6	7.0	7.6	<b>6.9</b>	5.1	3時間～
3.0	3.4	3.1	3.1	3.2	<b>3.2</b>	2.2	4時間～
2.1	2.2	2.0	1.8	1.9	<b>2.0</b>	1.5	5時間～
1.0	1.0	0.7	0.9	1.0	<b>0.9</b>	0.7	6時間～
2.9	2.7	1.7	2.0	1.8	<b>2.1</b>	1.4	7時間以上
2.6	0.8	0.7	0.9	1.6	<b>1.1</b>	2.1	記入ミス・無答

- ・平日と比較してゲームやパソコンを行う時間が長くなっている。
- ・ゲームやパソコンをほとんどしない者も激減し、1時間以上行っている者は平日より12.2ポイント多い状況である。

**Q23 休日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	
13.3	14.5	16.7	12.9	13.5	<b>14.6</b>	10.9	全く、またはほとんどしない。
14.8	20.1	20.5	15.2	16.2	<b>18.1</b>	15.1	30分より少ない。
9.9	12.9	12.9	11.3	12.4	<b>12.2</b>	12.7	30分～
13.3	14.6	15.7	13.7	13.6	<b>14.5</b>	15.3	1時間～
11.3	11.3	10.8	12.2	11.5	<b>11.4</b>	12.1	2時間～
9.5	9.0	8.4	9.2	8.3	<b>8.8</b>	9.9	3時間～
5.8	5.4	4.3	6.9	5.8	<b>5.4</b>	6.2	4時間～
6.9	3.8	3.4	6.9	6.0	<b>5.0</b>	5.4	5時間～
2.8	1.8	1.7	2.6	2.6	<b>2.2</b>	2.7	6時間～
9.3	5.5	4.8	8.4	8.4	<b>6.7</b>	7.0	7時間以上
3.1	1.0	0.8	0.8	1.6	<b>1.2</b>	2.6	記入ミス・無答

- ・1年次よりも「全く、またはほとんどしない」「30分より少ない」が合わせて6.7ポイント増加。
- ・3時間以上の者は3.1ポイント減少していることからみても、学年進行とともに電話やメールの使い方が改善。
- 依然として10%近くが6時間以上も電話やメールに時間を割いており、家庭学習時間の確保への改善にはつながっていない。**

**Q24 休日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	
59.6	61.8	58.6	61.4	59.2	<b>60.0</b>	55.1	全く、またはほとんどしない。
11.9	12.8	12.5	12.2	12.1	<b>12.3</b>	13.5	30分より少ない。
8.8	8.7	9.9	9.3	8.4	<b>9.1</b>	9.7	30分～
8.1	8.2	10.1	8.1	9.6	<b>9.0</b>	9.6	1時間～
4.7	3.7	4.6	4.5	4.8	<b>4.4</b>	5.0	2時間～
2.0	1.9	2.1	2.0	2.6	<b>2.1</b>	2.4	3時間～
1.3	0.8	0.8	0.8	0.9	<b>0.9</b>	1.1	4時間～
0.6	0.5	0.5	0.7	0.9	<b>0.6</b>	0.7	5時間～
0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	<b>0.2</b>	0.4	6時間～
0.2	0.7	0.4	0.4	0.3	<b>0.4</b>	0.6	7時間以上
2.6	0.7	0.4	0.5	1.0	<b>0.8</b>	1.9	記入ミス・無答

- ・30分以内の者が7割を超え1年次よりもさらに読書時間が短くなっていて、読書の習慣が身に付いているとはいえない。
- 平日の読書時間が確保できない分、休日を利用して読書をする習慣付けなど、各校の指導の工夫が必要である。**

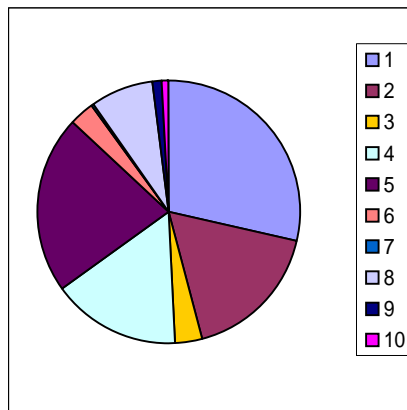
**まとめ**

- 2年生の特徴として、
- ・1年次よりも希望未定者が6.2ポイント減少し進路希望が具体化してきており、その達成についての考えも、「達成するまで、卒業後1、2年かかってかまわないと思っている」が3.1ポイント減少し、卒業までには実現したいと考えている。
- ・学習についても、進路希望達成のために学習に積極的に取り組む姿勢が表れてきている。
- ・授業についても、授業が理解できると回答した生徒が3.2ポイント増加し理解力が身についてきており、分からないところも自分で解決していこうとする積極性と、さらに深く掘り下げてみようという探求心が向上してきている。
- ・週あたり何らかの宿題・課題が出される日が複数である割合が1年次と比べると8ポイント減少しており、学校ら出される宿題が1年次よりも減少し、学習方法に迷いが生じてきている。
- 2学年次においても家庭学習に取り組ませる方策を各教科で検討することが必要であり、また、1年次から少しずつ自分で課題を見つけ学習する態度を育成していく姿勢を身につけさせて行くことも必要と思われる。**
- ・「全く学習しない」者が平日は6ポイント、休日は7ポイントも増加しており、家庭学習時間が平日、休日ともに減少してきている。
- ・どのようなときに学習するか「定期考査前」の者が6.4ポイントに増えるなど、学習がその場しのぎの対応になっている。その反面進路希望は具体化してきており、希望と学力とのギャップが悩みとなる悪循環となっている。
- 進路希望を実現するために、日頃どのように学習に取り組むかなどを適宜アドバイスし、明確な目標値を定めさせ積極的に取り組ませるための指導の工夫が必要であり、また、教科に対する興味・関心をもち、探求心が育まれるような授業改善を行い、普段の授業等を通して「学ぶ喜び」をいかに与えていくか検討が必要である。今後は、読書時間を含めた家庭学習時間を計画的に確保し、平日だけでなく休日にも効果的に活用する姿勢の育成が必要である。**
- また、学校に行く前に毎日朝食をとることなど、家庭の協力も得ながら、基本的な生活習慣を見直す機会を設け、繰り返し継続的に指導していくような踏み込んだ指導がなお一層求められる。

(参考)「まとめ」に関する調査結果(抽出して再掲)

**Q1 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在もっとも強く希望しているのは次のうちどれですか。**

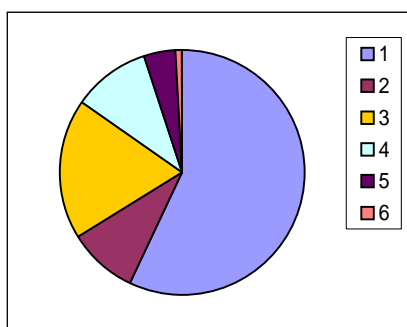
- 4年制国公立大学
- 4年制私立大学
- 短期大学
- 専修学校・各種学校
- 民間就職
- 公務員就職
- 家業
- 未定
- その他
- 記入ミス・無答



- 28.7
- 17.2
- 3.3
- 15.7
- 22.1
- 3.1
- 0.2
- 7.7
- 1.2
- 0.7

**Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。**

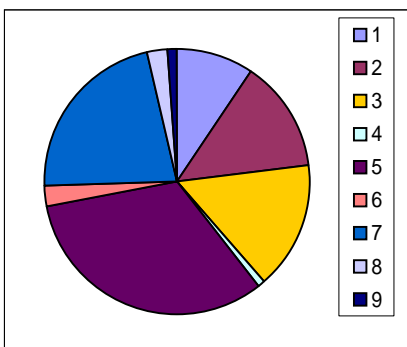
- 卒業までに絶対達成しようと思っている。
- 達成するまで、卒業後1,2年かかってもかまわないと思っている。
- 卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている。
- 何とかかなるだろうと思っている。
- あまり考えないようにしている。
- 記入ミス・無答



- 56.9
- 9.1
- 18.7
- 10.5
- 4.1
- 0.8

**Q3 ふだんどんな気持ちで勉強していますか。最も強く思っているものを選んでください。**

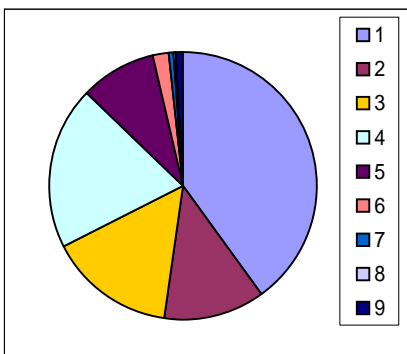
- 分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい。
- 多くのことを知り社会に出て役立つ力を身につけたい。
- 入学試験や就職試験に備えたい。
- 親や先生にほめられたい。
- 成績を上げたい。
- 先生や家族に言われるから勉強している。
- 特に考えていない。
- その他
- 記入ミス・無答



- 9.5
- 13.4
- 15.7
- 0.7
- 32.5
- 2.5
- 21.9
- 2.7
- 1.0

**Q9 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)をどの程度していますか。**

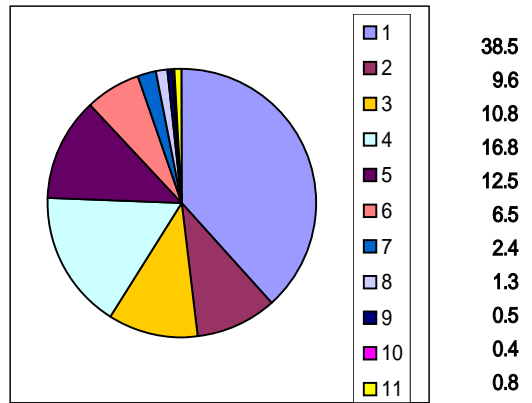
- 全く、またはほとんどしない。
- 30分より少ない。
- 30分～
- 1時間～
- 2時間～
- 3時間～
- 4時間～
- 5時間以上
- 記入ミス・無答



- 39.9
- 12.2
- 15.3
- 19.9
- 8.9
- 2.1
- 0.5
- 0.4
- 0.7

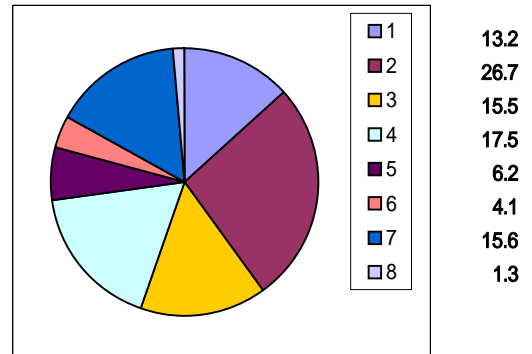
**Q10 休日に、どのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)**

- 全く、またはほとんどしない。
- 30分より少ない。
- 30分～
- 1時間～
- 2時間～
- 3時間～
- 4時間～
- 5時間～
- 6時間～
- 7時間以上
- 記入ミス・無答



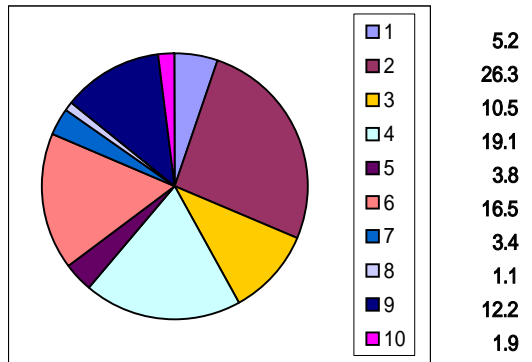
**Q13 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください。**

- 家庭学習の方法が分からない。
- 家庭学習に集中できない。
- 学習の計画を立てても長続きしない。
- 家庭学習と部活動の両立が難しい。
- 家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
- その他
- 特に悩みはない。
- 記入ミス・無答



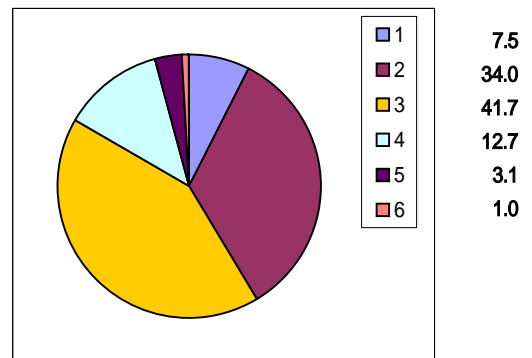
**Q14 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。**

- 家庭学習
- テレビやビデオ
- ゲーム
- 電話やメール
- 読書
- 自分の趣味
- 家族との対話
- 手伝い
- その他
- 記入ミス・無答



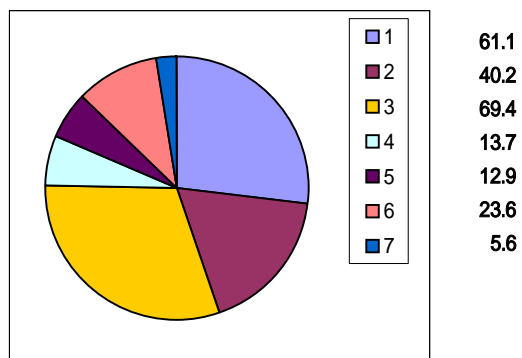
**Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。**

- ほとんどの授業がよく理解できる。
- 理解できる授業の方が多い。
- 理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある。
- 理解できない授業の方が多い。
- ほとんどの授業が理解できない。
- 記入ミス・無答



**Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。**

- 自分で調べる。
- 学校の先生に質問する。
- 友達に聞く。
- 家族に聞く。
- 塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
- そのままにしておく。
- その他



**Q8 あなたが受けたい授業はどんな授業ですか。最も近いものを選んでください。**

- 基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
- 発展的な内容まで教えてくれる授業
- 興味や関心をもてるような授業
- 進路希望達成につながる授業
- 資格取得につながる授業
- 記入ミス・無答

